

JOHN DEERE
WORLDWIDE COMMERCIAL & CONSUMER
EQUIPMENT DIVISION

ProGator x Utility Vehicle
2020A and 2030A

OMTCU28387 C0

オペレーターズ・マニュアル



JOHN DEERE

輸出
(印刷：米国)

はじめに

ジョン・ディアの製品をお買い上げ頂きありがとうございます。

弊社の製品をご購入いただきましたことに感謝の意を表するとともに、この機械を長年にわたって安全にご愛用いただけますようお願いしております。

このオペレーターズ・マニュアルの使い方

このマニュアルは、機械の主要パーツの一部です。この機械をお売りになる場合には必ずマニュアルも機械と一緒に次の持ち主にお渡し下さい。

オペレーターズ・マニュアルをお読みいただくことで、人身事故や機械の破損を回避できるようになります。このマニュアルに記載されている情報は、本機の最も安全で効果的な使用方法をオペレータに提供するものです。またお客様に本機の安全で正確な操作方を学んでいただくことにより、本機を操作する可能性のある他の人員の訓練も実施できるようになります。

付属装置をお持ちの場合、その付属装置を安全に正しく操作するために、本機のオペレーターズ・マニュアルとともに付属装置のオペレーターズ・マニュアルに記載の安全と操作に関する情報を併せてご参照下さい。

本マニュアルおよび機械に付いている安全マークは、他の言語版でお求めいただくことも可能です。（認定代理店にお申し付け下さい。）

オペレーターズ・マニュアルの各セクションは、全安全メッセージを把握して各制御方法を習得し、本機を安全に操作できるよう、特別な順序で編纂されています。また、特定の操作や整備点検に関する質問への回答も、このマニュアルにより参照できます。巻末にある索引は、必要な情報を素早く検索するのに役立ちます。

本書に掲載されている機械はお使いの機械と幾分異なっている場合がありますが、使用説明をご理解いただく上では支障のない範囲となっています。

このマニュアルの中での右と左は、機械の前進方向を向いて立った状態での方向です。破線（-----）で示されている箇所は、参照対象の部分が何かの陰になっていて見えないことを表します。

本機器をお客様にお届けする前にはジョン・ディア代理店にて出荷前点検が実施されており、お客様の機器が最良の状態であることが確認されています。

特記事項

このマニュアルには、起こり得る安全関連の懸念、機械の破損、ならびに有益な操作／整備点検の情報に喚起を促すための特記事項が含まれています。怪我や機械の損傷を避けるため、全情報を注意してお読み下さい。



注意：ケガの防止に留意して下さい。このマークと見出しは、当該手順や危険性が無視された場合に起こる、オペレータならびに機械周辺の人への危険や死亡の可能性を示しています。

重要：破損しないよう注意してください。この見出しは、機械が損傷する可能性のある行為や条件について述べたものです。

注記：本機の操作や整備点検の際に役立つ一般情報は、本マニュアル全体を通じて記載されています。

お使いの機械用の付属装置について

芝刈り用トラクタ、小型ユーティリティ・トラクタ、ゲーターのいずれを問わず、ジョン・ディアではお使いの機械の用途を広げるための付属装置、キットを取り揃えております。

お使いの機械に適する付属装置の機種群は、JohnDeere.com のウェブサイトまたは最寄のジョン・ディア代理店でご確認いただけます。エアレータから電動リフト・キット、耕運機まで、ジョン・ディア製の付属装置やキットはお客様のあらゆるニーズに対応します。

製品の識別

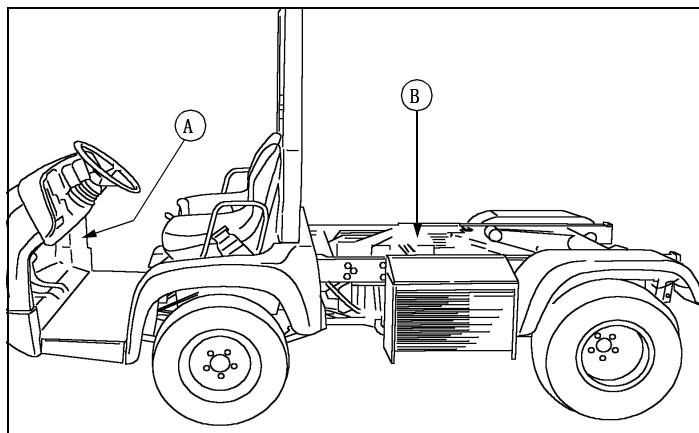
識別番号を記入してください。

作業車 ProGator Ⅱ

シリアル番号 (010000 -)

認定整備点検センターに整備点検についての情報をお問い合わせいただく場合には、必ず製品のモデルとシリアル番号が必要になります。

機械の識別番号、エンジンのシリアル番号等を確認し、下記に記入しておいて下さい。



紹介

製品購入年月日：

代理店名：

代理店電話番号：

製品の識別番号 (A)：

エンジンのシリアル番号 (B)：

目次

安全ラベル	1
安全ラベル	2
安全	5
操作制御機能	13
操作	14
交換用パーツ	28
整備点検周期	29
整備点検 — エンジン	31
整備点検 — トランスミッション	44
整備点検	48
整備点検 — ステアリング&ブレーキ	51
整備点検 — 電気系統	54
整備点検 — その他	58
故障診断	64
保管	69
仕様	71
索引	75

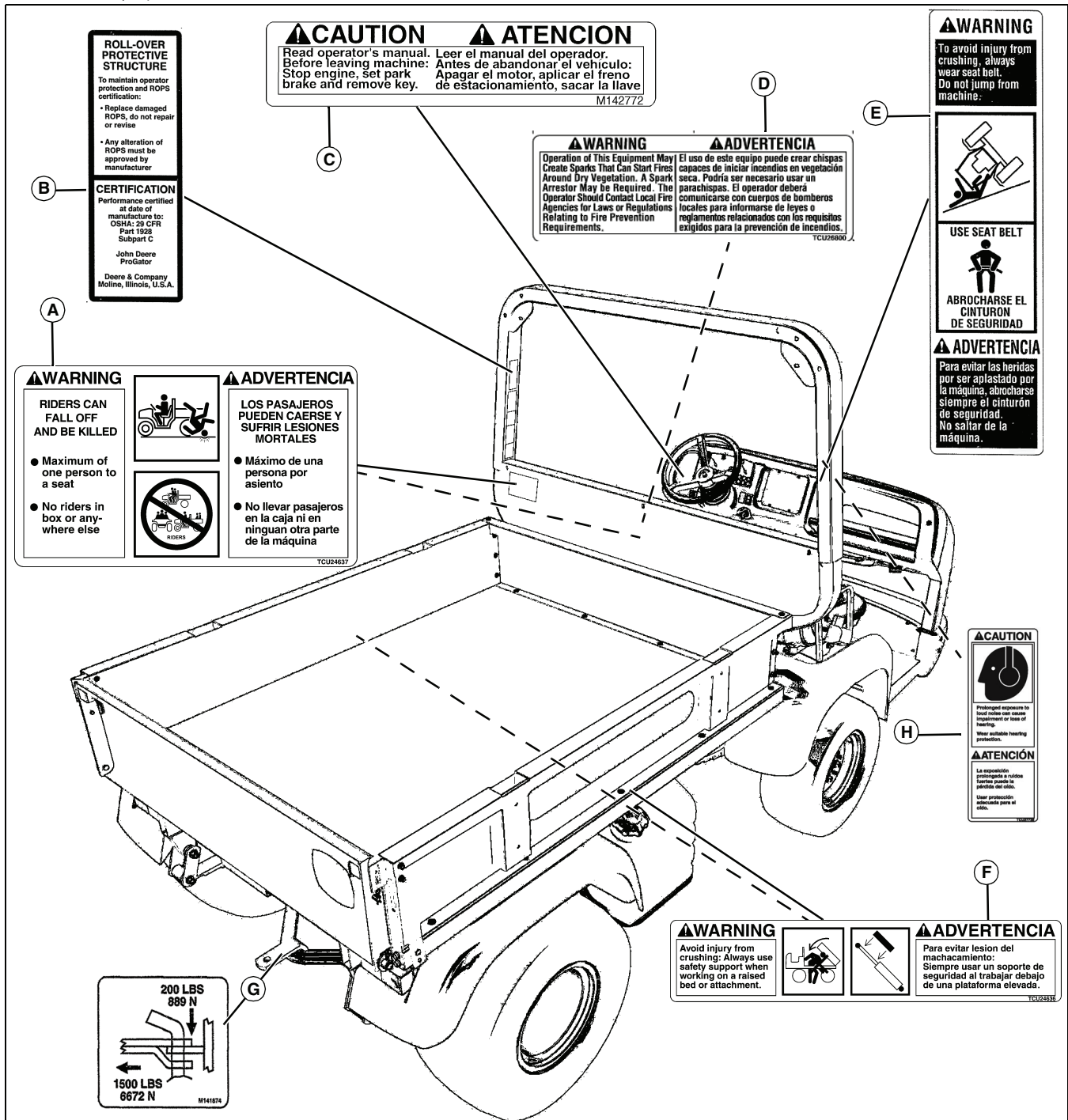
本マニュアル内の情報、イラスト、仕様は、全て発行時点での最新情報に基づくものです。本社はこれらの記載情報に予告なしに修正を加える権利を常時留保しています。

COPYRIGHT © 2010 Deere & Co. John
Deere Worldwide Commercial and
Consumer Equipment Division All
rights reserved Previous Editions
COPYRIGHT © 2006, 2008, 2009

OMTCU28387 C0 - 日本語

安全ラベル

安全ラベルの位置



MX44143

F - 警告 TCU24636

G - ドローバー M141874

H - 注意 TCU27738

図注：図の後に、各安全ラベルの全内容がそれぞれ記載されています。下表のラベル番号をもとに、対応するラベルの安全注意事項をご確認下さい。

A - 警告 TCU24637

B - ROPS M142597

C - 注意 M142772

D - 警告 TCU26800

E - 警告 MT4391

安全ラベル



機械に関する安全ラベルの理解

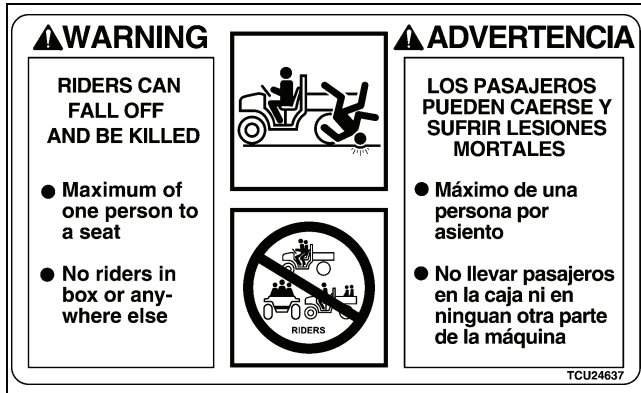
この項にある機械の安全ラベルは、潜在的な危険への注意を喚起するために機械の主要部に貼付されています。

本機の安全ラベルには、「危険」、「警告」、「注意」の語が安全喚起マークとともに使用されています。「危険」は最も深刻な危険性があることを示しています。

また安全喚起マークには「注意」と併記されている場合もあります。これは安全関連の特別な記述で、潜在的な危険について説明しています。

警告 TCU24637

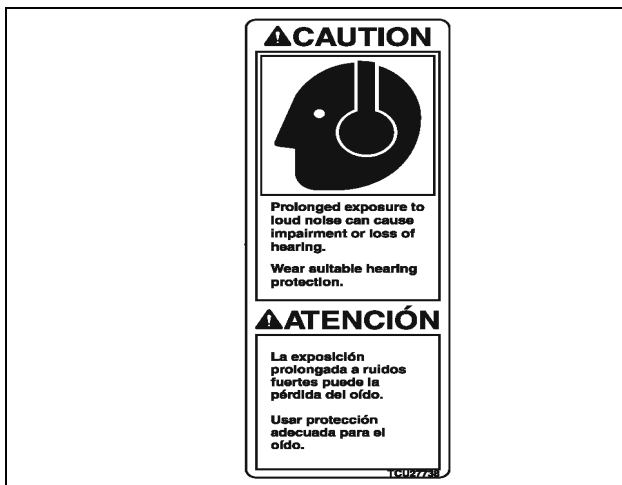
荷台に人を乗せると、転倒事故につながり死傷することがあります。



TCU24637

- ・ 1つの座席に座る人数は、1人が限度です。
- ・ 荷台の上には人を乗せないこと。

注意 TCU27738



TCU27738

- ・ 長時間にわたって騒音下で作業を続けると、聴力喪失や難聴に至るおそれがあります。
- ・ 適切な聴力保護具を着用して下さい。

注意 M142772



M142772

- ・ オペレーターズ・マニュアルを読んで下さい。運転席から離れる前に：エンジンを停止し、パーキング・ブレーキを入れ、キーを抜いてください。

警告 TCU26800

スパーク・アレスタ

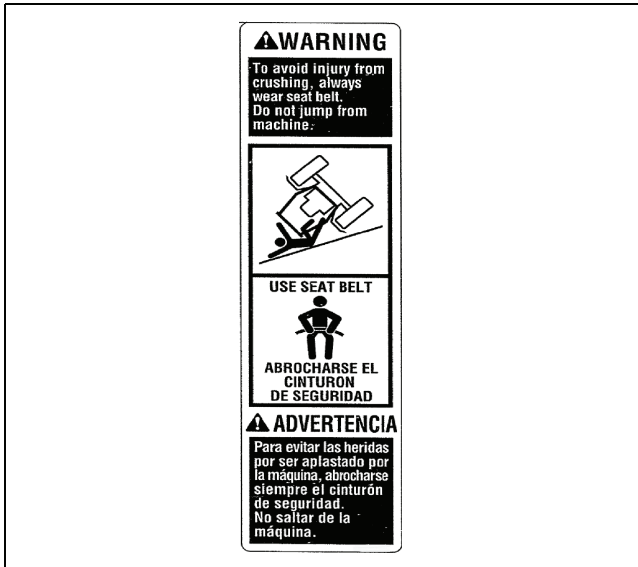


TCU26800

本機器の作動中にはスパークが発生することがあり、乾いた草木の周辺では発火に至る恐れがあります。スパーク・アレスタが必要となる場合があります。防火要件に関する法規制について地元の消防庁に問い合わせてください。

警告 MT4391

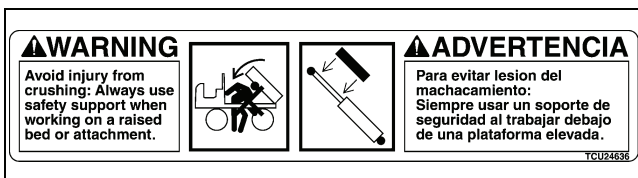
シート・ベルトを着用して下さい。



MT4391

- ・衝突による怪我を防ぐため、常にシート・ベルトを着用して作業を行なってください。機械から飛び降りないで下さい。

警告 TCU24636



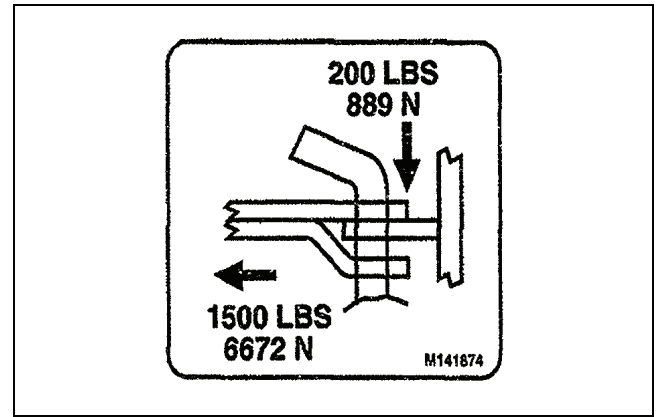
TCU24636

図注：ラベルは各車両の側面レールに配置されています。

- ・衝突による怪我の防止：高い荷台や付属物の上で作業するときは、安全な支えを必ず使用してください。

ドローバー M141874

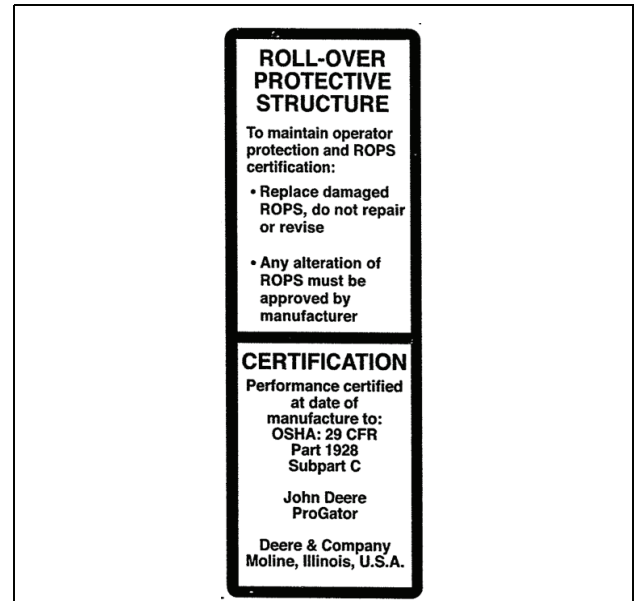
ラベルに表示されている推奨のドローバー負荷を超えないでください。



M141874

- ・ 水平 1500 lb (6672 N)
- ・ 垂直 200 lb (889 N)

転倒時保護構造 (ROPS) M142597



M142597

転倒時保護構造 (ROPS) — ROLL-OVER PROTECTIVE STRUCTURE

オペレータを保護し ROPS の機能証明を維持するため、以下を守って下さい：

- ・ 損傷した ROPS の交換、修理や修正を行なわないで下さい。
- ・ ROPS に変更を加える場合は必ずメーカーの承認を得なければなりません。

認証

製造日現在に認証された性能：

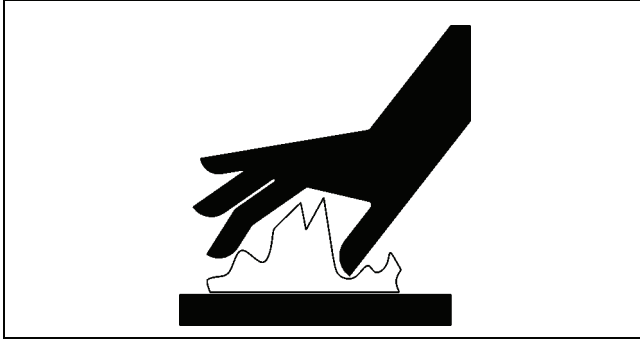
OSHA: 29 CFR Part 1928

Subpart C

John Deere ProGator

Deere & Company Moline, Illinois, U.S.A.

高温の表面による火傷の防止



MX23128

図注： マシンのマフラーの上部にスタンプが付けられました。

マシンのマフラーは高温になるので、絶対に触らないでください。

管理者の安全性に対する責任

- ・ この機械のすべての運転者が、完全なトレーニングを受けて、オペレーターズ・マニュアルを読み、機械の警告ラベルを理解していることを確実にします。
- ・ 既存の作業条件に対して特別な安全対策を確立し、そうした対策で運転者をトレーニングすることを確実にします。
- ・ 管理者、運転者、整備士は、この機械に適用される安全基準を理解して作業する必要があります。

運転前にはオペレーターのトレーニングが必要です

- ・ オペレーターズ・マニュアルと他のトレーニング資料を読んで下さい。オペレータまたはメカニックが英語を読めない場合、この資料の説明を行う義務は所有者にあります。このマニュアルは他の言語版でも入手可能です。
- ・ 機器の安全な操作方法、オペレータ・コントロール、安全記号を確実に把握して下さい。
- ・ オペレータとメカニックは全員訓練を受けているものとします。機械の所有者が使用する人に訓練を受けさせる義務を負います。
- ・ 子供、または訓練を受けていない者に機器を操作させたり、整備させてはなりません。現地法の規制によりオペレータの年齢が制限される場合があります。
- ・ 所有者。
- ・ 機械の操作は、障害物のない広々とした場所で、本機の操作に熟知した経験者の監視の下で行って下さい。

安全な操作

- ・ 作業を開始する前に、機械に関するマニュアルおよび機器上の手順説明をすべて読んで把握し、安全のためのビデオの説明を見て、これらを遵守して下さい。
- ・ 作業車両を目的外の用途に使用しないでください。作業車両はレジャー用の乗り物ではありません。
- ・ 作業車両のタイヤは、オフロード専用です。舗装された路面では、車両の取り扱いやコントロールに重大な影響を受ける場合があります。舗装された路面で操作する必要がある場合は、ゆっくり走行して急激に方向を変えたり停止したりしないでください。
- ・ 凍った湖や池などでは操作しないでください。氷が割れて怪我や死亡する恐れがあります。
- ・ 雪面や凍結面で運転する場合は、特に慎重にゆっくり運転して下さい。
- ・ 道路周辺で作業する時や道路を渡る時には速度を下げ、交通に十分注意して下さい。見通しの悪い曲がり角、植木

の茂み、樹木、その他の視界を遮る物体の近くを走行する場合は十分注意して下さい。

- ・ 作業車に同乗者がいる場合、運転者は同乗者が正しい安全措置を理解していることを確かめてください。
- ・ 車道付近で操作する場合は、車両の正しいフラグ、ライト、およびリフレクターを使用して他の運転者に注意を促して下さい。これらが 500 フィート (152 m) 先から明確に確認できるようにしておく必要があります。
- ・ 同乗者は必ずハンドホールドにつかまってください。
- ・ 大怪我をしないために、車両を起動する前に必ずシートベルトをしっかりと締めるようにして下さい。
- ・ 競馬やレクリエーションのような運転は、怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。曲芸的やジャンプなどの操作、または急速に加速しないでください。前輪が上に上がって地面から離れるので危険です。これらの動作は、事故や車両が転倒する原因になります。
- ・ シートの中央に座り、両足は常にフット・プラットフォームの範囲内に置きます。フット・プラットフォームが汚れたらきれいにし、フット・コントロール周辺のゴミや異物は全て除去します。
- ・ エンジン室で特にトランスアスクルの両側にあるブレーキ・リンケージの周りにある異物をチェックして下さい。
- ・ 操縦は常に両手で行って下さい。
- ・ 各コントロール装置の位置、操作方法と操作対象を熟知して下さい。
- ・ 立ったままの姿勢では絶対にミニバンを運転しないで下さい。
- ・ カargo・ボックスを上げたままミニバンを運転しないでください。
- ・ 車両の操作を始める前にブレーキの効き具合を点検します。必要に応じてブレーキの調整または整備を行って下さい。
- ・ 適切なブレーキ性能とトラクションを得るために、カargo・ボックスが一杯でなければ、荷物を積んだトレーラーや付属物を引っ張らないでください。
- ・ リバースにシフトする前に、必ず機械の後ろに障害物や人がいないかを確認して下さい。
- ・ ゆっくりとバックして下さい。
- ・ 「ルラ ケ、・、と量麵」 I。」金具が確実に締まっているかを確認し、部品に破損、欠損、極度の摩耗がある場合は、修理や交換を行います。ガードやシールドが良好な状態で所定の位置に固定されているかを確認します。必要な調整はすべて、作業を開始する前に済ませます。
- ・ エンジン稼動中に車両を離れてはいけません。
- ・ 日中または十分な人工照明のもとで作業を行います。夜間に作業する時は必ず照明を使用して下さい。
- ・ 酒気を帯びた状態、あるいは催眠性の薬物などを服用し

ている場合、機械を操作しないで下さい。

- ・ 急発進、急停止、急な方向転換は避けて下さい。
- ・ 常に、平らな場所で回転を行って下さい。
- ・ 決してラジオや音楽をヘッドホンで聴きながら作業を行わないで下さい。整備点検および操作を安全に行うには十分な注意が必要です。

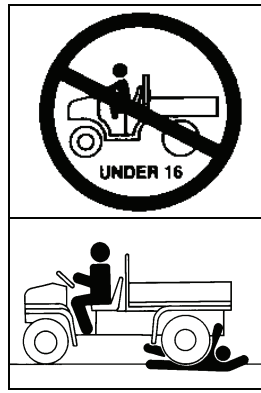
スパーク・アレスタの使用

この機械のエンジンにはスパーク・アレスタ・マフラーは装着されていません。カリフォルニア州においては、関連の地域もしくは州法に準拠するスパーク・アレスタ付きの排気システムが装着されていない状態でこのエンジンを森林、灌木、草の生えた土地あるいはその近隣で作動させることは、カリフォルニア州公共資源法第 4442 条への違反となります。他の州もしくは連邦地域にも同様の法律が存在する場合があります。

機械のスパーク・アレスタは、正規代理店でお求めいただける場合もあります。スパーク・アレスタの装着後は、良好な状態に維持するために適切な整備点検が必要となります。

安全な駐車

1. 水平な場所に駐車します。斜面に駐車しないでください。
2. ギアシフト・レバーをファーストかバックに入れます。
3. パーキング・ブレーキを入れます。
4. エンジン进行を止めます。
5. キーを抜き取ります。
6. 運転席を離れる前に、エンジンおよび全ての駆動部分が止まっていることを確認します。
7. 機械の整備点検は、バッテリーのマイナス極ケーブルの接続を外してから、あるいはスパーク・プラグ・ワイヤ（ガソリン・エンジンの場合）を取り外してから行って下さい。

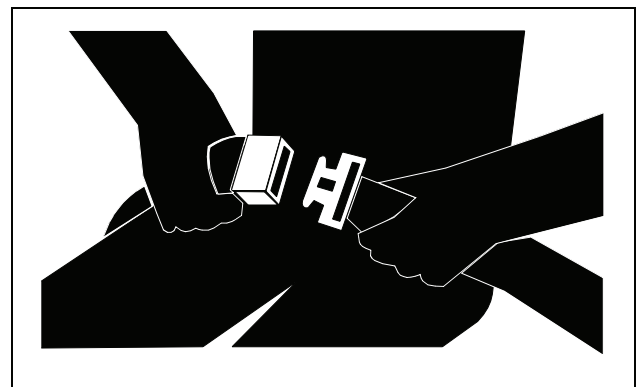


子供の保護ならびに事故の回避

- ・ このミニバンは、16 歳未満の子供に運転させないでください。
 - ・ 若年の運転者は機械の制御が身体的にできなかったり、安全運転の心がけが十分でない場合があります。
 - ・ 子供を同乗者として乗せないでください。子供は同乗者シートに安全に座ったり、ハンドホールド
- を正しく使用できない可能性があります。

- ・ 同乗者は、運転中は必ずハンドホールドを使用してください。
- ・ 同乗者保護構造（OPS）のミニバンに取り付けられているシート・ベルトは、子供を保護するようには設計されていません。
- ・ 同乗者、特に子供をカーゴ・ボックス・エリアに絶対に乗せないでください。またカートやトレイラに子供を乗せて引っ張ってはいけません。
- ・ 子供は、つい今しがた居たところにはじっとしていないものと考えて下さい。子供の存在や出現を常に予期して操作を行って下さい。
- ・ バックまたは旋回するとき、子供のために後ろと回りを見てください。
- ・ 常に細心の注意を払って、前進またはバックします。特に子供は、運転席にすぐに入ってきます。
- ・ 見通しの悪いコーナー、植木の茂み、生い茂った木、その他の視界を遮る物の近くを走行する場合には、十分注意して下さい。
- ・ 不正な使用やレクリエーションのような運転は、怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。

シートベルトの正しい着用



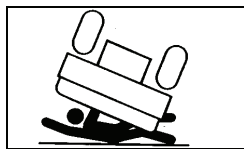
- ・ 転倒時保護構造（ROPS）の機器を操作する際はシートベ

ルトを使用し、転倒などの事故による怪我を防止して下さい。

- ・ シートベルトの改造、分解、修理は行わないで下さい。
- ・ 取り付け金具、バックル・ベルト、リトラクタに破損の兆候がある場合は、シートベルト全体を交換して下さい。
- ・ 少なくとも一年に一回はシートベルトと取り付け金具を点検して下さい。緩んだ金具や切断、擦り減り、極端／異常な磨耗、変色、摩擦などのベルトの損傷をチェックして下さい。ジョン・ディア代理店認定の交換用部品とのみ交換して下さい。
- ・ 厚目の衣服の重ね着はシートベルトの正しい位置決めの障害となり、ベルトの効果が低減する可能性があります。

ROPS（転倒時保護構造）は常に正しく取り付けしておくこと

- ・ 何らかの理由でROPSの構造が緩んだり取り外されたりしている場合は、ROPSのすべての部品が正しく取り付けられていることを確認して下さい。ROPSのハードウェアの全てが、メーカーの推奨値に従って正しいトルクに締め付けられていなければなりません。
- ・ ROPSに変更を加える場合には必ずメーカーからの承認を得なければなりません。ROPSに構造的な損傷がある場合、横転事故関連の場合、または溶接、屈曲、穿孔、切断によって程度に差はあれROPSが改造されている場合、ROPSから受けられる保護は損なわれます。
- ・ 損傷、改造されたROPSは絶対に修理しようとししないで下さい。メーカーの構造証明を維持するためには交換が必要となります。



機械の横転防止

ミニバンの転倒事故により、重傷を負ったり死に至る場合があります。事故を防ぐために、以下を守ってください。

- ・ ミニバンの誤使用。ミニバンを、遊びで乗らないでください。
- ・ 方向転換時は、ゆっくりと運転すること。急に曲がらないでください。ミニバンが転倒する原因になります。
- ・ 速度を落として、坂や荒れ地では十分に注意してください。
- ・ 車両に積み過ぎないでください。荷崩れしないようにしてください。デコボコや坂が多い地形で操作する時は、負荷を減らして下さい。
- ・ 登坂や降坂時には、急停止や急発進を行わないで下さい。坂道で方向を変える時には特に注意して下さい。
- ・ 地面の穴、または小石や他の隠れた危険物や危険性に常

に注意を払って下さい。

- ・ 断崖、溝、堤防、また池やその他の水域には近づかないで下さい。ホイールの一つが崖や溝の縁にかかった場合、また崖や溝の縁が陥没した場合には、機械が急転倒することがあります。
- ・ 坂の頂上または隆起した部分を超える時には前輪を真っ直ぐにして下さい。
- ・ 降坂時は、アクセルから足を外し、ブレーキで速度を落として機械の制御を維持します。
- ・ ミニバンを変更したり改良しないでください。



同乗者の禁止

- ・ 座席は運転車と1人の成人搭乗者のものです。

- ・ シートが取り付けられていない

カーゴ・ボックスやその他の場所に絶対に人を乗せないでください。

- ・ 同乗者は、異物が衝突したり車から投げ出されたりして怪我を負い、重大な損傷や死亡に至ることもあります。
- ・ 同乗者は、運転者が車両を制御する能力と重心の影響を受けます。また、同乗者が運転者の視界を妨げ、安全な運転ができなくなることもあります。

安全な積載物の輸送

- ・ 積載物がカーゴ・ボックスに均等に配置されていることを確かめます。
- ・ 積載ガードを超えて積載しないでください。
- ・ カーゴ・ボックスのすべての積載物をしっかりと固定します。
- ・ 凹凸や傾斜が多い地形で運転するときは、カーゴ・ボックスの積載物を減らします。

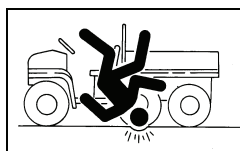
ミニバンでの安全な牽引

- ・ 適切なブレーキ性能とトラクションを確保するために、牽引物の重量（トレーラとカーゴ）は車両の最大積載量（運転者、同乗者、カーゴ・ボックスの荷物）を絶対に超過しないでください。
- ・ オペレーターズ・マニュアルに指定されているように、この車両の最大牽引積載量を超過する積載物を牽引しないでください。
- ・ 停車距離は、走行速度および積載物の重量が増すに連れて長くなります。ゆっくり走行し、停止する際は、ストップするには時間と停止距離が余計必要であることを心得て下さい。

- ・コントロールが維持できる十分な速度で牽引します。
- ・積載重量が重過ぎると、傾斜面でトラクションを失った車両の制御がきかなくなったりする恐れがあります。坂を走行する場合は積載重量を減らしてください。
- ・決して子供や他の人を積載台や積載物に載せてはなりません。
- ・必ず認可されたヒッチのみを使用して下さい。牽引専用のヒッチを備えた車両のみを用いて牽引して下さい。承認されているヒッチ・ポイント以外の個所に積載台を取り付けないで下さい。
- ・積載台の重量ならびに坂道での積載重量についてメーカーが推奨する重量制限を守って下さい。
- ・坂面で積載物を積んだまま後進できない場合、積載重量に対し傾斜がきつ過ぎることを意味しています。積載重量を減らすか、またはその斜面での牽引は断念して下さい。
- ・急旋回しないで下さい。カーブを曲がる時や地理的条件が良くない場所で走行する時は特に慎重に車両を操作して下さい。後退時には注意して下さい。
- ・ギアをニュートラルに入れ替えて坂道を惰走しないで下さい。

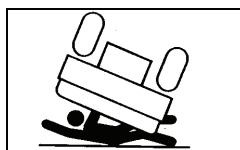
運転の前に

1. フット・プラットフォームが汚れたらきれいにし、フット・コントロール周辺のゴミや異物は全て除去します。シート中央に座り、両足は常にフット・プラットフォームの範囲内に置きます。
2. 摩耗や破損がないかミニバンを点検します。
3. 全ての安全装置が良好な状態で、所定の位置に固定されていることを確認して下さい。
 - ・ ライト
 - ・ シールド
 - ・ 安全スタート装置
4. 作動させる前に、ミニバンの周囲を点検し、近くに誰もいないことを確認して下さい。
5. ミニバンを使用する前には必ず機械の状態を点検し、ケガをしたり、作動できなくなり立ち往生することを防止して下さい。1日に歩くことができる距離より、1時間でそれ以上の距離を乗ることができます。
タイヤ、車輪、車輪ハードウェアトルクの状態を必ず点検して、適切なタイヤ圧を維持してください。
6. 積載物は全て安全に、しっかりと固定します。



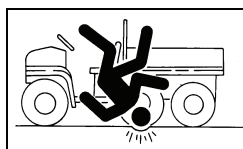
起伏の多い地形での運転

- ・ 地面に付けられたタイヤの跡を走行してください。危険な傾斜地や通り抜けられない沼地を避けてください。盛り上がり、穴、溝、柔らかい地面、障害物などには十分注意してください。
- ・ 真っ直ぐ前を見てください。起こることを予測して、反応できるようにしてください。危険に警戒してください。
- ・ 坂の頂上または隆起した部分を超える時には前輪を真っ直ぐにして下さい。
- ・ タイヤの跡、地面、視界条件に合わせて、速度を落としてください。
- ・ 搭乗員は必ずハンドホールドにつかまってください。



坂の上り下り

- ・ ミニバンは坂を下りる場合速度アップするので（フリーホイール）、坂を下る場合は必ずブレーキを使用してください。エンジンまたはクラッチのブレーキ効率は最小限です。
- ・ 積載物を均等にバランスよく載せて固定してください。ブレーキをかけると積載物が荷崩れして不安定になる場合があります。
- ・ 席の中央に座り、両足は足置き場内に置くようにしてください。
- ・ よく見える範囲に限って運転して下さい。坂の一番上の付近では、反対側がよく見えるようになるまで、速度を落として下さい。高速で坂を越えないでください。坂の向こう側には、障害物、落下物、車、または人がいる場合があります。
- ・ 坂の頂上または隆起した部分を超える時には前輪を真っ直ぐにして下さい。
- ・ 登坂や降坂時には、急停止や急発進を行わないで下さい。坂道で方向を変える時には特に注意して下さい。
- ・ 坂を上っている途中で車が停止またはガス欠になった場合は、傾斜面にミニバンを維持しておくために、パーキング・ブレーキをロックします。走行方向を維持し、ブレーキをゆっくりと解除します。コントロールしながらゆっくりと坂を真っすぐ後ろに下がります。車両を斜め向きにしないで下さい。車両を脇道の方に向けしないで下さい。車両は、真っ直ぐ前進または後進の位置にある時の方が安定しています。
- ・ 降坂時は、アクセルから足を外し、ブレーキで速度を落として機械の制御を維持します。



斜面を横切る運転

・スピードを落として、傾斜と急旋回に注意してください。

・地面の穴、または小石や他の隠れた危険物や危険性に常に注意を払って下さい。

・柔らかい地面上を運転するときは、前輪を少し坂上側に向け、坂を横切る直線上にミニバンを維持します。

・ミニバンが傾き始めたら前輪を坂下側に向け、コントロールを確保してから操作を続けます。

水域での運転

・水域はできる限り運転を避けてください。

・深さのわからない水域を渡らないでください。操作ガイドラインにあるように、水の深さが 152 mm (6 in.) を超える場所は水域と見なされます。タイヤが浮く可能性があるため、コントロールの維持が難しくなります。

・両岸が徐々に傾斜した水路の中のコースを選んでください。安全とされている地点を渡ります。

・水面下の障害物と滑りやすい岩を避けるために、ゆっくりと一定の速度で運転します。

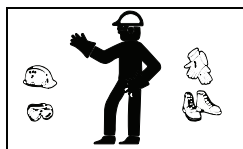
・ミニバンの運転が、水路の床に損害を与えたり、水路の縁を壊したりする原因になる水域を渡ることは避けてください。

ホイール金具の点検

・ホイール金具がきちんと締めつけられていないと大怪我に至ることがあります。

・作業開始後 100 時間までは、ホイール金具の締め具を頻繁に点検して下さい。

・ホイールの金具は、緩んでいる場合には適切な手順に従って指定のトルクまで締める必要があります。



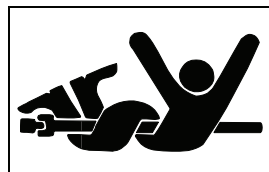
適切な作業衣の着用

・衣服はだぶつきのない体に合ったものを選び、作業に適した安全装具を装着して下さい。

・運転条件によっては、オペレータと同乗者が車両の運転中に適切な安全装備を着用するように指示します。機械を操作する前に、既存の条件や考えられる条件に対して準備します。

・現地の安全規定や保険規定により、保護メガネやヘルメットなどの追加の安全装備が要求される場合があります。

・常に頑丈な靴と長ズボンを着用してください。裸足やサンダル履きで機器の操作を行ってはいけません。



回転中の駆動装置 には絶対に近づかないこと

回転中の駆動装置に絡まると、重傷、または死亡に至る場合があります。

・衣服は身体にフィットしたものを着用して下さい。

・エンジンを停止させ、PTO 電力伝達装置が止まっていることを必ず確認してから近づいてください。



高圧液体を浴びないように注意する

・油圧ホースおよび油圧ラインは、物理的に破損やねじれがある場合、また長期の使用あるいは苛酷な作業

条件下での使用により正常に機能しなくなることがあります。ホースとラインは定期的に点検して下さい。破損しているホースとラインは交換します。

・作動油の接続部分は、物理的な破損や振動で緩むことがあります。接続部分を定期的に点検して下さい。接続部分が緩んでいる場合には締めます。

・高圧液体ラインから漏れた液は、皮膚を貫通して重傷を起こす危険があります。油圧ラインや他のラインの接続を切る前には、あらかじめ圧力を解除して危険を回避して下さい。圧力をかける前に接続部分を全て締め直します。

・ボール紙を使って漏れの有無を点検します。手や身体が高圧液に触れないよう十分に注意して下さい。

・もし事故が起き場合は速やかに医師の処置を受けて下さい。皮膚の内部に入った液体は、種類に関わらず、数時間以内に外科手術で除去しなければなりません。さもないと創部の壊疽（えそ）に至るおそれがあります。もし担当の医師がこの種の怪我の処置に精通していない場合は、専門医と連絡を取る必要があります。この件に関する情報は、下記へお問い合わせ下さい： Deere & Company Medical Department, Moline, Illinois, U.S.A. また、この情報は米国およびカナダ国内に限り、1-800-822-8262 へご連絡いただければご入手いただけます。



メンテナンス作業での安全事項

・本機器の整備は、相当の資格を有し訓練を受けた大人に限定されます。

・整備点検の手順は、作業を始める前に把握してなければなりません。作業場は常に清潔に保ち、床は滑らないよ

うに乾いた状態にしておきます。

- ・ 機械が稼動しているときには絶対に潤滑、整備点検、または調整を行ってはいけません。安全装置は、常時、所定の個所に取り付けられていて良好に作動する状態でなければなりません。

- ・ 手足、衣類、装身具、髪の毛などが機械に引き込まれるのを防ぐため、機械の動いている部分に近づけないで下さい。

- ・ 修理を行う前に、バッテリーの接続を外すかスパーク・プラグ・ワイヤ（ガソリン・エンジンの場合）を取り外します。

- ・ ナットとボルトは常に締まった状態に保ちます。

- ・ 整備点検のため上げておく必要のある個所は、作業中に落ちないようにしっかりと固定させて下さい。付属装置が上がった状態の機械を整備する場合は、事前にサービス・ラッチをロックします。

- ・ パーキング・ブレーキがロックされていない状態のままエンジンを作動させてはいけません。

- ・ 全てのパーツは、常に取り付けが適切で良好な状態であればなりません。破損個所は速やかに修理します。摩耗または破損しているパーツは交換します。安全ラベルおよび手順説明などのラベルに磨耗や破損がある場合もすべて交換します。

- ・ 火災を防止するため、機械にグリース、オイル、ゴミや異物がたまっている場合はすべて取り除きます。特にエンジンではこれを必ず守って下さい。

- ・ 機械あるいは安全装置を改ざんしないで下さい。承認されていない変更や改造を行うと、機能や安全性が損なわれる恐れがあります。

- ・ 決してラジオや音楽をヘッドホンで聴きながら整備作業を行わないで下さい。安全に整備を行うには、作業に専念する必要があります。

- ・ 機械に溶接作業を加える前に、機械のバッテリー接地ケーブル（－）を外すか、機械から付属装置を取り外してください。

火災の防止

- ・ 機械の温度が十分下がる前に保管すると、機械の重要な部分から断片などを取り除いていない場合や可燃物の近くに機械を保管した場合に、機械や構造物の火災に至る可能性があります。

- ・ 機械操作の前後には、エンジン・コンパートメントとマフラ近辺に付着した草や断片を取り除いて下さい。

- ・ 機械を保管または輸送する際は、機械に燃料シャットオフ・バルブがついている場合、必ず燃料をオフにしてください。

- ・ 温水器や火炉などの裸火や点火源の近くには絶対に機械を保管しないで下さい。

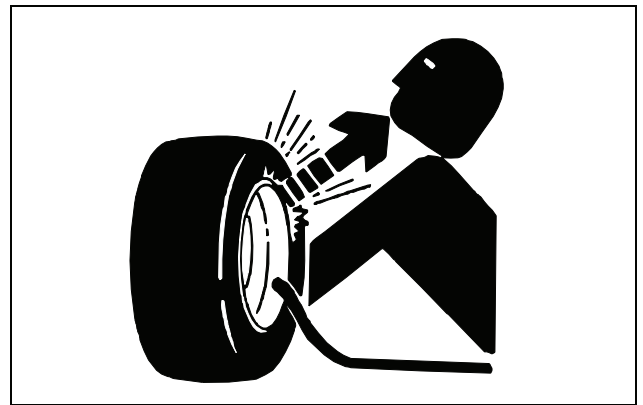
- ・ 燃料ライン、燃料タンク、燃料タンクのキャップ、フィッティングにひび割れや漏れが生じていないかを頻繁に点検し、必要に応じて交換して下さい。

機械を改造しないでください。

承認されていないどのような変更も機械に加えないでください。

改造によって機械が不安定になることがあり、転倒する危険性が高まり、重大な身体障害や死亡事故につながります。

タイヤの安全性



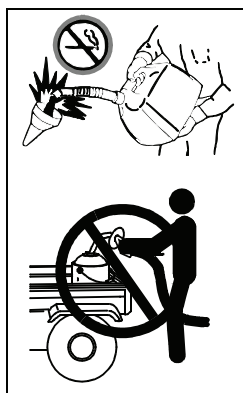
タイヤやリム・パーツの破裂は、重大な怪我や死亡の原因になることがあります：

- ・ タイヤを取り付ける際は適切な器具を用い、作業に熟知した人が行って下さい。

- ・ タイヤの空気圧は常に適切に維持して下さい。タイヤの空気圧は推奨圧以上に上げないで下さい。ホイールおよびタイヤ・アセンブリは絶対に溶接、加熱しないで下さい。熱を加えると空気圧が上がり、タイヤが破裂することがあります。また溶接はホイールの構造を弱めたり形状を歪めたりするおそれがあります。

- ・ タイヤに空気を入れる際は、タイヤ・アセンブリの前や上ではなく側面で作業を行えるよう十分な長さの延長ホースを使用します。

- ・ ホイールを、空気圧の低下、傷や気泡の有無、リムの破損、ラグ・ボルトやラグ・ナットの破損について点検します。



燃料の安全な取り扱い

人身事故や物的損害を回避するため、燃料の取り扱いには細心の注意を払って下さい。燃料は非常に引火性が強く、燃料蒸発には起爆性があります。

- ・ タバコ、葉巻、パイプ・タバコおよびその他の引火の原因となるものは全て消して下さい。

- ・ 承認された燃料容器のみを使用して下さい。アメリカ保険業者安全規格 (U.L.) (ASTM) 漏斗を使用する場合は、必ずスクリーンやフィルタが付いていないプラスチック製のものを使用して下さい。

格 (U.L.) (ASTM) 漏斗を使用する場合は、必ずスクリーンやフィルタが付いていないプラスチック製のものを使用して下さい。

- ・ エンジンの作動中には、絶対に燃料タンクのキャップを外したり燃料の補給を行ったりしてはいけません。燃料を補給する前に、エンジンの温度が下がるのを待って下さい。

- ・ 機械への燃料補給機械を屋外に出し、適切な換気措置をとって下さい。

- ・ 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。燃料が衣服にこぼれた場合には直ちに着替えて下さい。機械の近くに燃料がこぼれた場合は、エンジンを始動させようとせずに漏れのある個所から機械を移動させて下さい。燃料蒸気が放散しきるまで、点火源を発生させないように十分注意して下さい。

- ・ 機器および燃料容器は、温水器や他の器具の裸火、火花、パイロット・ライトがある空間には絶対に保管しないで下さい。

- ・ 静電気による火災や爆発が起きないようにして下さい。燃料容器が接地されていない場合、静電気放電により燃料蒸気に点火する可能性があります。

- ・ プラスチック・ライナーが付いた車両内部、荷台、トレイラ上では、絶対に容器を充填しないで下さい。燃料補給の前に、必ず容器を車両から離れた地面に置いて接地して下さい。

- ・ 燃料を動力源とする機器を荷台またはトレイラから移動し、地上で燃料を補充して下さい。これが実行できない場合、これらの機器への補給は、燃料補給ノズルからではなく携帯燃料容器を使用して行って下さい。

- ・ 燃料補充が完了するまで、ノズルを燃料タンクの縁部または容器の開口部と常時接触させておいて下さい。ノズルのロック／オープン装置は使用しないで下さい。

- ・ 燃料タンクを定量以上補充しないで下さい。燃料タンクにキャップを戻してしっかり締めます。

- ・ 作業後は燃料容器のキャップを確実に締めて下さい。

- ・ ガソリン・エンジンの場合、メタノールをガソリンと併用しないで下さい。メタノールは人体および環境に有害です。

廃棄物および化学薬品の取り扱い

使用済みのオイル、燃料、冷却液、ブレーキ液、バッテリー等の廃棄物は、環境を破壊し人体に害を及ぼします。

- ・ 飲料用のボトル、缶等には絶対に廃液を入れてはいけません。誰かが誤って飲んでしまう恐れがあります。

- ・ 廃棄物のリサイクル、廃棄方法については、お近くのリサイクリング・センターまたは認定代理店までお問い合わせ下さい。

- ・ 製品安全データ・シート (MSDS) に、化学薬品に関する次の特定の詳細が記載されています：人体に及ぼす危険性、安全のための手順、応急処置法。ご使用の機械で使用する化学薬品の販売業者が、当該製品の製品安全データ・シート (MSDS) を提供する責任を負っています。

リフト・シリンダ安全支持体の使用方法

車両を安全に整備点検するには、必ずリフト・シリンダ安全支持体を使用します。



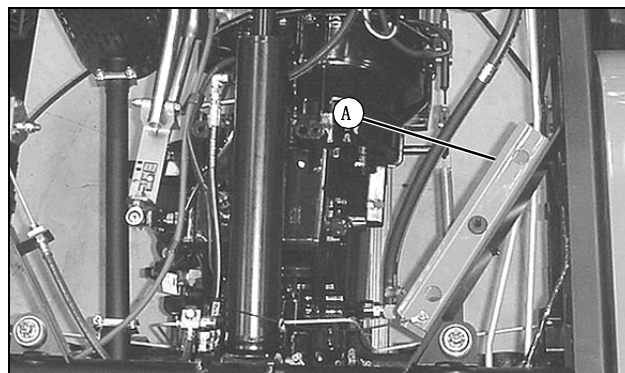
注意：ケガの防止に留意して下さい。付属装置が重いので、手や足をつぶす場合があります。

- ・ 点検する前に、メカニカル・ロックやその他安全な方法で高くなった付属装置を落ちないようにしっかり固定してください。

- ・ 補修する前に全ての付属装置を空にしてください。

取り付け：

1. 付属装置を空にします。
2. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。
3. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX14992

4. 安全支持体 (A) を車両の後部の右側にある格納場所から外します。



MX14982

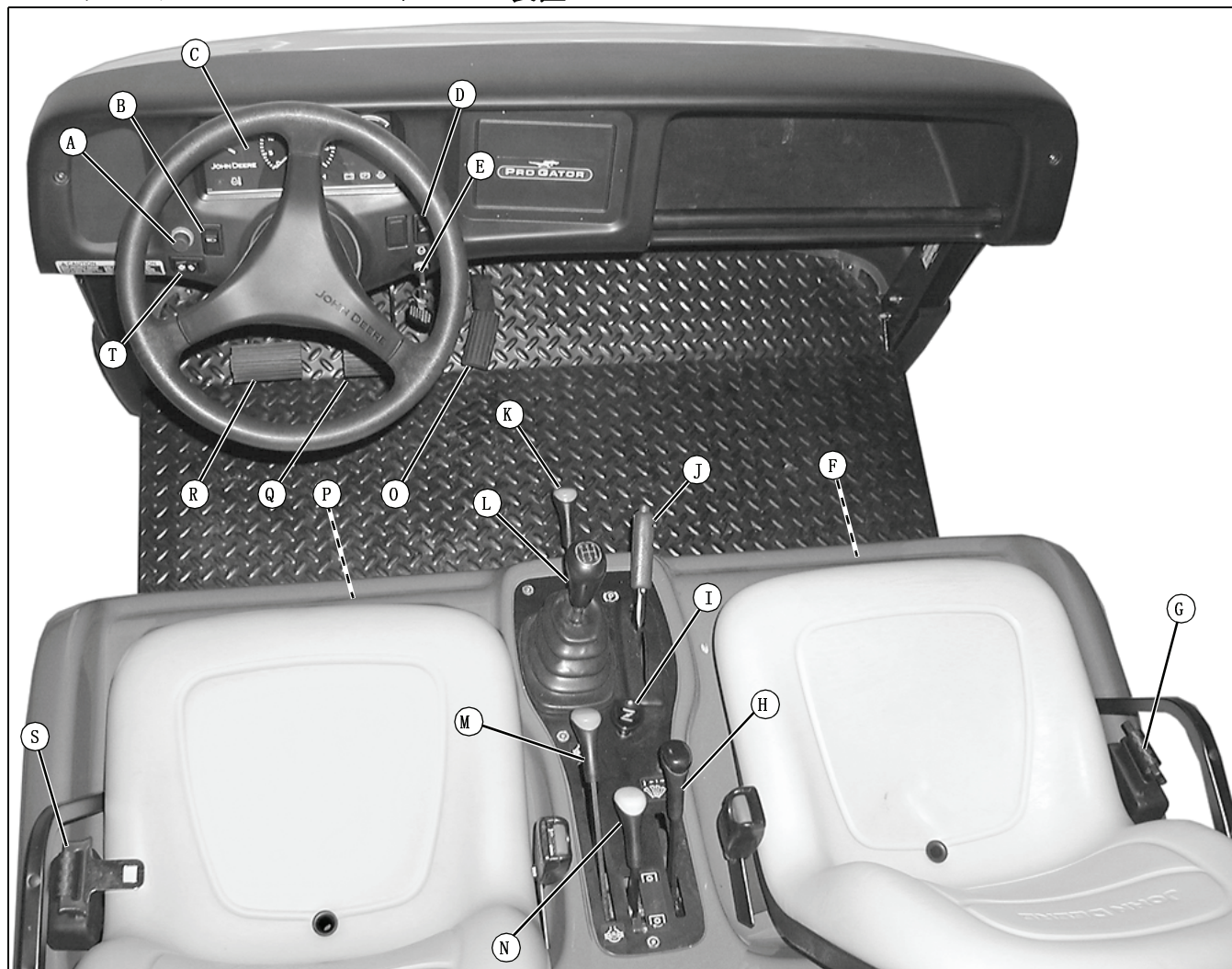
5. 安全支持体をリフト・シリンダ・ロッド (B) の上に取り付けます。リフト・シリンダ・ロッドが、安全支持体のゴム製グロメット (C) の間に正しく位置していることを確認します。

取り外し：

1. 安全支持体をリフト・シリンダ・ロッドから外します。
2. 安全支持体を保管位置に戻します。
3. 付属装置を下げます。

操作制御機能

オペレータ・ステーションのコントロール装置



MX24074

キー 説明

A	ホーン
B	ライト・スイッチ
C	計器パネル
D	ハザード・スイッチ (オプション)
E	キー・スイッチ
F	助手席調節用レバー
G	助手席シート・ベルト
H	リフト・シリンダ・レバー
I	チョーク・レバー (ガソリン・モデル)
J	パーキング・ブレーキ・レバー

キー 説明

K	2WD/4WD レバー (オプション)
L	ギアシフト・レバー
M	ディファレンシャル・ロック・レバー (トラクション・アシスト)
N	油圧 PTO レバー (オプション)
O	アクセル・ペダル
P	運転席調節用レバー
Q	ブレーキ・ペダル
R	クラッチ・ペダル
S	運転者用シート・ベルト
T	方向指示器スイッチ (オプション)

毎日の操作点検リスト

- ☐ 安全インターロック・システムをテストします。
- ☐ タイヤを点検し、空気圧をチェックします。
- ☐ 機械からゴミや異物を取り除きます。
- ☐ 部品に緩み、欠損、損傷がないかを点検します。
- ☐ エンジン・オイルのレベル、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ☐ トランスアクスル・オイルのレベル、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ☐ 油圧オイルのレベル（補助リザーバー）、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ☐ 冷却液のレベル、および冷却液漏れがないかを点検します。
- ☐ 吸気ロスクリーンとファン・シュラウドを点検して掃除をします。
- ☐ 燃料タンクのレベルと燃料が漏れていないかを点検します。
- ☐ マシンの下部分で漏れがないかを点検します。



MX1709

2. レバー（A）を左に引き、保持します。
3. 運転席を前後にずらし、希望の位置にします。
4. レバーを離します。

シート・ベルトの使用方法



注意：ケガの防止に留意して下さい。転倒時保護構造（ROPS）やキャブ付きの機械を操作する際は必ずシートベルトを着用して下さい。機械が転倒した場合には、機械から飛び降りないで下さい。

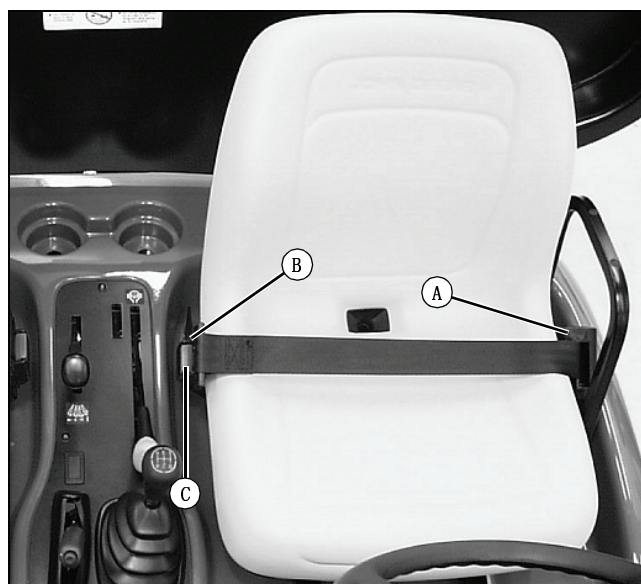
プラスチック面と塗装面の損傷を防ぐ

- ・プラスチックのパーツは、拭く前にまず必ず水でゆすいで下さい。乾いた布で拭くと表面に傷がつく恐れがあります。
- ・防虫スプレーはプラスチックや塗装表面を変質させる可能性があります。防虫スプレーは機械周辺では使用しないで下さい。
- ・機械に燃料をこぼさないよう注意して下さい。燃料もプラスチックや塗装表面を変質させる恐れがあります。燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。
- ・長時間日光に曝されるとフードの表面が損傷します。

シートの調整

1. 運転席または助手席に座ります。

シート・ベルトを装着するには：



MX1703

- ・一回の動作でシート・ベルトをリトラクタ（A）から引き出し、腰と臀部に回します。

操作

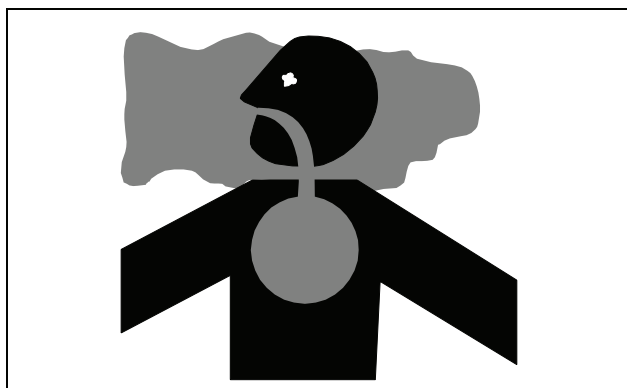
注記：シート・ベルトが短くてラッチに挿入できない場合は、リトラクタに戻してからもう一度引き出します。

・バックルをシートのもう片方のラッチ（B）に差し込みます。ラッチに正しく差し込むと、カチッという音がします。

シート・ベルトを外すには：

・赤いボタン（C）を押します。シート・ベルトがリトラクタに戻ります。

安全システムのテスト



注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。

エンジンの稼動は機械を屋外に移動してから行なって下さい。

換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。

・エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。

・新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

機械に取り付けられている安全システムは、各使用前に点検します。安全システムの点検を実行する前に、必ず機械のオペレーターズ・マニュアルを読んで機械の操作を完全に把握して下さい。

以下の点検手順に従って機械の通常作動状態の点検を行います。

以下の手順実行中に機能不全が認められた場合には機械を操作しないで下さい。この場合、整備点検について認定代理店までお問い合わせ下さい。

これらのテストは、広く清潔な場所で行って下さい。周囲に関係のない人を近づけないで下さい。

シートおよびパーキング・ブレーキ・スイッチのテスト

1. オペレータは運転席に着きます。
2. パーキング・ブレーキをロックします。
3. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。
4. エンジンを始動させます。
5. エンジンをアイドル状態にして、運転席で腰を上げます。
6. エンジンが作動し続けます。
7. オペレータは運転席に着きます。
8. パーキング・ブレーキのロックを外します。
9. 運転席から腰を上げます。

結果：エンジンは5秒以内に停止しなければなりません。エンジンが停止しない場合、安全インターロック回路に問題があります。その場合は認定代理店へお問い合わせ下さい。

ニュートラル・スイッチのテスト

1. オペレータは運転席に着きます。
2. パーキング・ブレーキを入れます。
3. ギアシフト・レバーを「R」（バック）の位置にします。
4. キー・スイッチを「スタート」（START）の位置に回します。
5. ここでは、エンジンはクランクしません。
6. それぞれのギアにシフト・レバーを入れて、始動を繰り返します。
7. ここでは、エンジンはクランクしません。
8. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。
9. キー・スイッチを「スタート」（START）の位置に回します。

結果：エンジンはクランクするはずですが、ギアシフト・レバーがニュートラル以外で始動する場合は、安全インターロック回路に問題があります。その場合は認定代理店へお問い合わせ下さい。

予備油圧システム・スイッチのテスト



注意：ケガの防止に留意して下さい。PTO インターロック・スイッチは、PTO コントロール・レバーが「オン」の場合に、補助クイック・カプラへ圧力をかけないでもエンジンが始動しないようにデザインされている安全機能です。PTO インターロック・システムが故障または接続されていない場合は、絶対に操作しないでください。車両の始動時に、補助付属装置が急発進する場合があります。

注記：車両の後部でどのような付属装置も予備油圧クイックカプラに接続されていないことを確かめます。

1. オペレータは運転席に着きます。
2. パーキング・ブレーキを入れます。
3. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。
4. 油圧 PTO レバーを「オン」(ON) の位置に入れます。
5. キー・スイッチを「スタート」(START) の位置に回します。

結果：ここでは、エンジンはクランクしません。エンジンがスタートする場合は、安全インターロック回路に問題があります。その場合は認定代理店へお問い合わせ下さい。

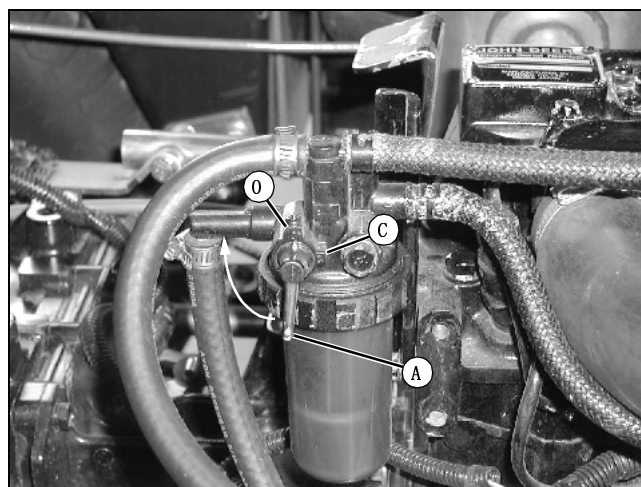
ライト・スイッチの操作方法

注記：エンジンを始動していないときに長い時間ヘッドライトを使用すると、バッテリーが消耗します。

1. ロッカー・スイッチの上部を押して、点灯します。
2. ロッカー・スイッチの底を押して、消灯します。

燃料シャットオフ・バルブの操作 (ディーゼル・モデル)

1. エンジンの右側にある燃料フィルタ・セディメント容器アセンブリの位置を確認します。



MX23700

図注：「開」位置の燃料シャットオフ・バルブ。

2. 燃料シャットオフ・バルブ・レバー (A) を、「0」(開)あるいは「C」(閉)の位置に回します。

「C」(閉)の位置にするのは：

- ・ エンジンの整備点検を行う場合。
- ・ 機械運搬時。
- ・ 長期保管中。

「0」(開)の位置にするのは：

- ・ 燃料をエンジンに正しく供給するには、燃料シャットオフ・バルブが「全開」になっていなければなりません。

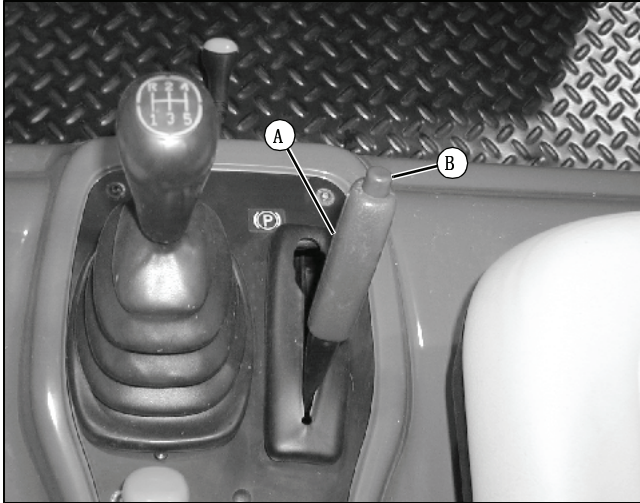
パーキング・ブレーキの使用



注意：ケガの防止に留意して下さい。ミニバンから離れる場合は、必ずパーキング・ブレーキをロックしてください。パーキング・ブレーキがロックされていない場合は、無人の状態でも車両が動き出す場合があります。

操作

パーキング・ブレーキをロックするには



MX23702

- ・ レバー (A) を引き上げて所定の位置にラッチします。

パーキング・ブレーキのロックを解除するには

- ・ レバー (A) を引き上げます。
- ・ ボタン (B) を押し下げます。
- ・ レバー (A) を完全に引き下げます。計器盤のインジケータ・ライトが消えます。

ディファレンシャル・ロック・レバーの使用



注意：ケガの防止に留意して下さい。ディファレンシャル・ロックが掛けられている場合は、車両が転倒しやすくなります。傾斜面や坂で車両の方向を変えないでください。高速で車両を運転しないでください。

ディファレンシャル・ロックは、後輪がスリップし始めた際により良いトラクションを得るために使用します。ディファレンシャル・ロック・レバーが掛けられると、左右のリア・アクスルが一緒にロックされ、最大のトラクションが掛かり両方の後輪が回転することになります。

重要：破損しないよう注意してください。ディファレンシャルの損傷を防ぐために、どちらかの後輪がスピンする場合は、ディファレンシャル・ロックを掛けてください。

注記：ディファレンシャル・ロックが掛けられている場合は、車両の半径旋回が増加されます。

ディファレンシャル・ロックを掛けるには：

- ・ 車両を停止するか、減速します。
- ・ ディファレンシャル・ロック・レバーを引き上げて、上

がった位置に維持します。後輪がスリップする間は、上
がった位置にレバーを維持してください。

ディファレンシャル・ロックを解除するには：

- ・ ディファレンシャル・ロック・レバーを下げます。

4WD の操作

これはマニュアル・シフトの 4WD システムで、パワートレインで前輪と後輪を駆動し、条件の悪い道でトラクションを高めま

4WD の使用

重要：破損しないよう注意してください。後輪がスピンする場合は、4WD に入れないでください。内部ギアが損傷する場合があります。4WD に入れるには、直線で、マシンを停止、または定常速度で走行する必要があります。

- ・ 4WD を使用するには、4WD レバーを押します。
- ・ 使用を中止するには、4WD レバーを上げます。前進する場合は、アクセルから足を放して 4WD の使用の一時的な中止が必要になるときもあります。

4WD で走行するときのヒント：

- ・ すべての路面条件で最適な性能を得るには、前輪と後輪で推奨されているタイヤ圧を維持します。
- ・ 歩道や固い路面で運転するときは、前輪の寿命を延ばしてドライブ・トレインの摩滅を防ぐために、4WD を使用しないでください。

油圧 PTO コントロール・レバーの使用

この操作手順は、補助油圧キットが装備されている車両用です。油圧 PTO レバーを掛けると、その能力を必要とする付属装置に補助油圧を提供します。

PTO が掛けられると、ダッシュ・インジケータが点灯します。

重要：破損しないよう注意してください。補助付属装置が接続されていない場合は、PTO コントロール・レバーを操作しないでください。油圧フローはブロックされ、圧力は油圧コントロール・バルブの凸ポートを介してバイパスされるので、その過熱によりコンポーネントが故障する可能性があります。

使用する前に、補助油圧オイルのレベルを点検してください。

油圧 PTO を掛けるには：

- ・ 油圧 PTO レバーをその位置まで引き上げます。

操作

油圧 PTO を解除するには：

- ・ 油圧 PTO レバーを「オフ」の位置に押します。

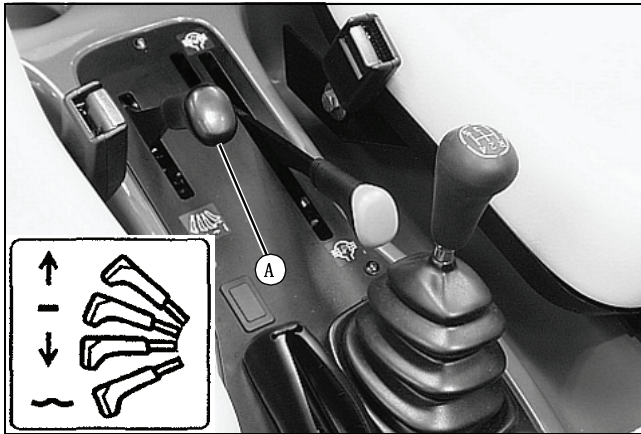
リフト・シリンダー・レバーの使用



注意：ケガの防止に留意して下さい。カーゴ・ボックスを引き上げる前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキング・ブレーキがロックされていることを確認してください。カーゴ・ボックスが上がっている状態で坂を上げる場合は、カーゴ・ボックスの重さによって転倒する恐れがあります。上がっている付属装置にリフト・シリンダの安全用サポートが取り付けられていない場合は、サービス機能を実行しないでください。

付属装置を上げるには

1. エンジンを始動させます。



MX14971

2. レバー (A) を後ろに引いた状態で付属装置を上げます。
3. レバーを離します。レバーはニュートラルの位置に戻り、リフト・シリンダが定位置でロックされた状態で、付属装置が所定の位置になります。

付属装置を下げるには

注記：エンジンが始動または停止している状態で付属装置を下げることができ、リフト・シリンダーは引っ込みます。

1. 付属装置が下がる、または任意の位置になるまで、レバーを押し続けます。
2. レバーを離します。レバーはニュートラルの位置に戻り、付属装置は所定の位置に維持され、リフト・シリンダーは適切にロックされます。

注記：補助油圧 PTO が掛けられた状態でマシンを操作する場合は、付属装置が下がったら少しの間リフト・シリンダー・レバーを下にしておくことをお勧めします。リフト・シリンダーが適切な位置にロックする、リフト・シリン

ダー・スプールの負荷点検チェックがしっかり行われます。

テールゲート・リリース・キットが取り付けられているのカーゴ・ボックス付属装置を操作する場合、ボックスが下がったら少しの間リフト・シリンダー・レバーを倒しておく必要があります。テールゲートをロックし、テールゲートのガタ音を消去します。

付属装置をフロートにするには

注記：フロート位置は、付属装置の下に付随しているアース端子で使用するためにリフト・シリンダーを自由に動くようにします。

フロート位置にリフト・シリンダー・レバーを置くと、上がっていた付属装置が完全に下になるまで下げられます。高く積み上げた積荷をコントロールしやすくするために、フロート位置を付属装置を下げるのに使用しないことをお勧めします。

1. レバー (A) を押して、「一番下」の位置を通ったら、さらに力を加えてレバーを押し、デテントを越えてフロート位置になるとレバーがロックされます。
2. レバーを引き上げてフロート位置を開放します。
3. レバーを離します。レバーはニュートラルの位置に戻り、付属装置は所定の位置に維持され、リフト・シリンダーは適切にロックされます。

4 速と 5 速のギア・ロックアウトの操作方法

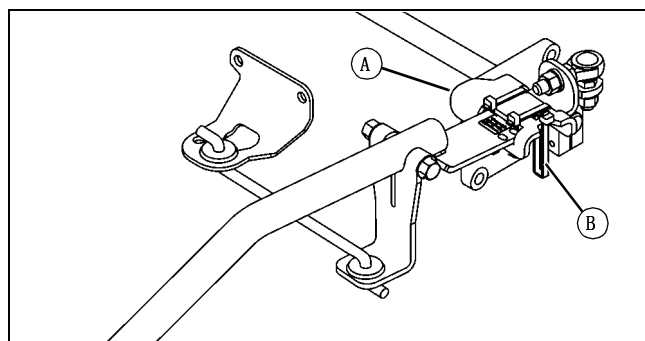


注意：ケガの防止に留意して下さい。ブレーキを作動させる、カーブに突入する、積載物を運搬する、および障害物の周辺や危険なオフロード条件で作動させる際は、必ず事前に速度を落として下さい。

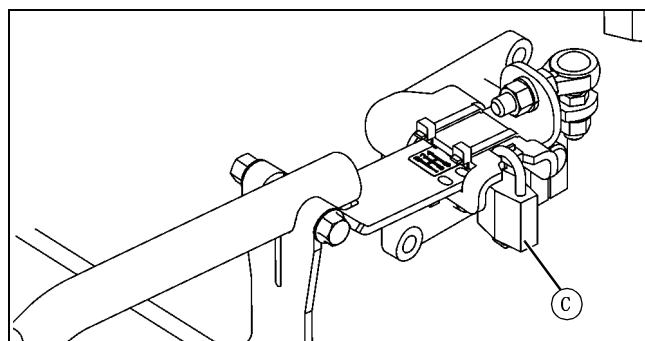
注記：ギア・ロックアウトの設定には、リア・アクスルの上で、トランスミッションの左側にあるトランスミッション・シフト入力シャフトにアクセスする必要があります。付属装置が取り付けられている場合は、付属装置を空にして整備点検位置に上げ、安全に停車し（安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい）、安全支持体を取り付けます。

4 速および 5 速ギア・ロックアウトを設定する前に、車両が固くて水平な面にあり、パーキング・ブレーキがロックされ、トランスミッションがニュートラルにあり、キー・スイッチが STOP 位置にあることを確認します。

操作



MX14974



MX14975

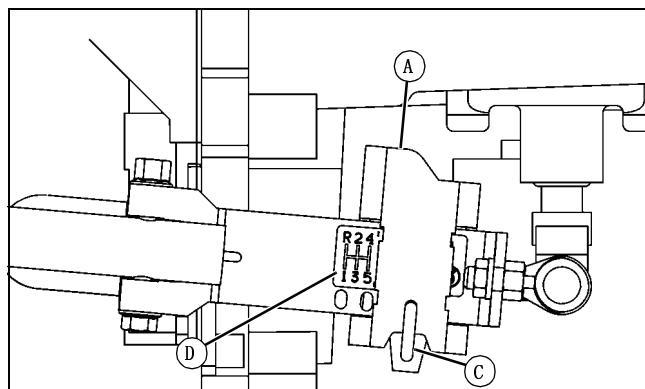
この車両には、4 速および 5 速ギア・ロックアウトのためのロック・チャンネル機能 (A) が装備されています。対地速度を制限しながら 4 速および 5 速ギアの使用を禁止することは、特定の運転条件で推奨される場合があります。

すべてのギアが使用できるように、ロックアウト機能は工場出荷時に設定されます (タイ・バンドの位置にロック)。ロック機能を使用するには、工場タイ・バンド (B) を解除し、パドロック (C) 4.8 mm (3/16 in.) 直径のシャックルの設置が必要です。

注記：パドロックは車両に供給されません。

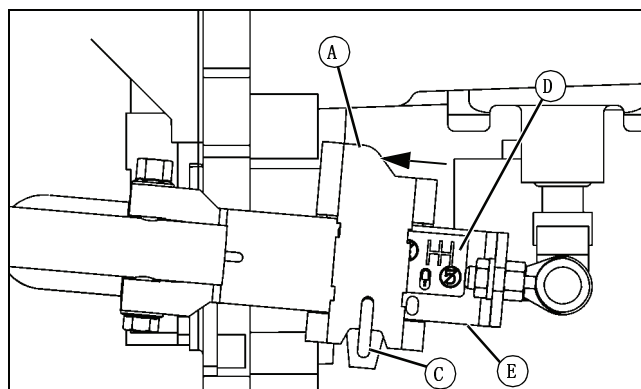
5 速ギアをロック・アウトするには：

注記：4 速および 5 速ギア・ロックアウトを設定する前に、車両が固くて水平な面にあり、パーキング・ブレーキがロックされ、トランスミッションがニュートラルにあり、キー・スイッチが STOP 位置にあることを確認します。



MX14976

図注：ラベル (D) はすべてのギアが使用できることを示します。



MX14977

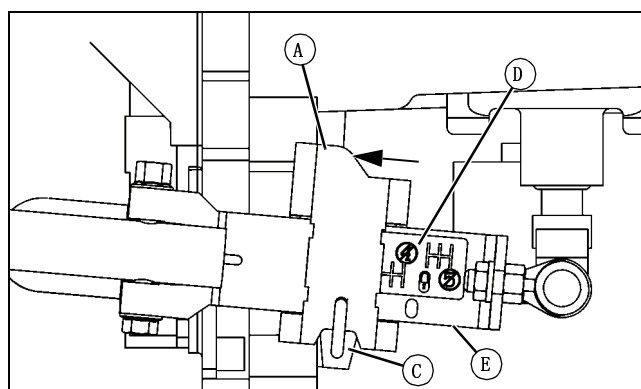
注記：トランスミッションがすでに 5 速ギアになっている場合は、ロックは作動しません。

1. ギアシフト・レバーを 5 速ギア以外の位置に入れます。
2. パドロック・キーを使用して、パドロック (C) のロックを解除し、ロック・チャンネル (A) から外します。
3. ロック・チャンネル (A) を前方にスライドさせ、スロットをシフト・ブラケット (E) にある次の穴に合わせます。

注記：ロック・チャンネルを移動するとき、ラベル (D) が 5 速ギアのロックアウトの正しい位置を示します。

4. パドロック (C) をロック・チャンネル (A) のスロットに差し込みます。
5. 安全支持体を外して、付属装置を下ろします。

4 速と 5 速ギアをロック・アウトするには：



MX14978

注記：トランスミッションがすでに 4 速または 5 速ギアになっている場合は、ロックは作動しません。

1. ギアシフト・レバーを 4 速または 5 速ギア以外の位置に入れます。
2. パドロック・キーを使用して、パドロック (C) のロックを解除し、ロック・チャンネル (A) から外します。
3. ロック・チャンネル (A) を前方にスライドさせ、スロットをシフト・ブラケット (E) にある次の穴に合わせます。

操作

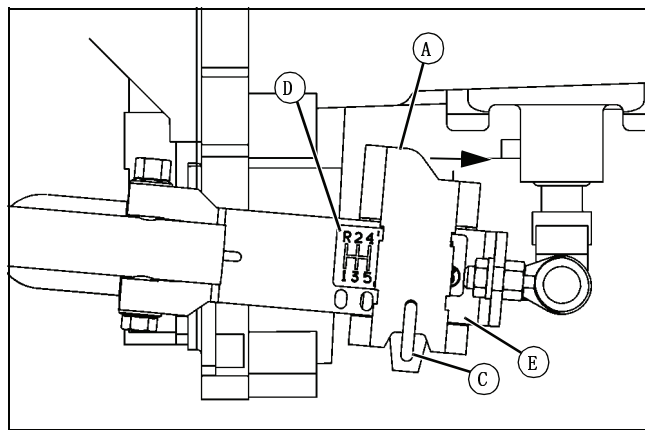
注記：ロック・チャネルを移動するとき、ラベル (D) が 4 速と 5 速ギアのロックアウトの正しい位置を示します。

4. パドロック (C) をロック・チャネル (A) のスロットに差し込みます。

5. 安全支持体を外して、付属装置を下ろします。

4 速および 5 速ギアのロックを解除するには：

注記：ギア・ロックアウトの設定には、リア・アクスルの上で、トランスミッションの左側にあるトランスミッション・シフト入力シャフトにアクセスする必要があります。付属装置が取り付けられている場合は、付属装置を空にして整備点検位置に上げ、安全に停車し（安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい）、安全支持体を取り付けます。



MX14976

1. パドロック・キーを使用して、パドロック (C) のロックを解除し、ロック・チャネル (A) から外します。

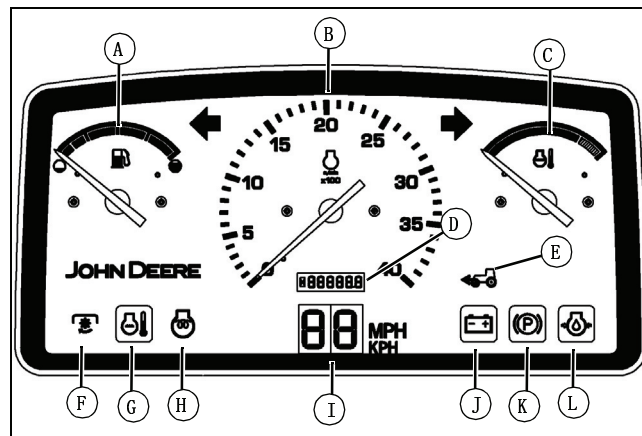
2. ロック・チャネル (A) を後方にスライドさせ、スロットをシフト・ブラケット (E) にある最後の穴に合わせます。

注記：ロック・チャネルを動かすと、ラベル (D) がすべてのギアが使用できることを示します。

3. パドロック (C) をロック・チャネル (A) のスロットに差し込みます。

4. 安全支持体を外して、付属装置を下ろします。

計器パネル



A - 燃料ゲージ

B - タコメータ

C - 冷却液温度ゲージ

D - 時間計

E - 四輪駆動 (4WD) インジケータ (装備されている場合)

F - PTO インジケータ

G - 冷却液温度インジケータ

H - グロー・プラグ回路インジケータ (ディーゼル・モデル)

I - 速度計 LED 表示

J - バッテリ低電圧インジケータ

K - パーキング・ブレーキ・インジケータ

L - エンジン・オイル圧インジケータ

燃料ゲージ (A) は燃料タンクにあるおおよその燃料残量を示します。

タコメータ (B) は速度を測定するための計器です。エンジン速度は 100s 単位で表示されます。例：インジケータが 20 を示している場合は、(20 x 100 = 2000 rpm) を意味します。

エンジン冷却液温度ゲージ (C) は、エンジンの温度が上がりすぎているかどうかを表示します。ゲージのインジケータの針が赤いゾーンに達する場合は、直ちにエンジンを止めて原因を調べてください。

時間計 (D) は、エンジンのおおよその作動時間を表示します。時間計と「整備点検記録表」から、車両の整備点検の時期を判断して下さい。

四輪駆動 (4WD) インジケータ (装備されている場合) (E) は、インジケータ・ライトをオンにした時のみ表示され、4WD を使用すると点灯します。

PTO インジケータ (F) は、インジケータ・ライトをオンにした時のみ表示され、油圧 PTO レバーを使用すると点灯します。

エンジン冷却液温度ゲージ (G) は、エンジン冷却液が高

操作

温で危険になると表示されます。アイドルまで回転数を落とします。エンジン冷却液レベルを点検し、ラジエーターへの空気の流れが遮られていないことを確認します。連続作業を行うと温度がより高くなり、機械が破損します。

グロー・プラグ・インジケータ（ディーゼル・モデル）(H) は、インジケータ・ライトをオンにした時のみ表示され、キー・スイッチを「作動」位置に回すと点灯します。インジケータ・ライトは、キー・スイッチを「作動」位置にしてから約 3 秒後に消えるはずです。このインジケータは、エンジンのグロー・プラグがオンになり、エンジンの燃焼室が予熱で暖められたことを知らせます。

速度計 LED 表示 (I) は、キー・スイッチが「作動」位置に回されると点灯します。この LED 表示は、車両の速度を示します。

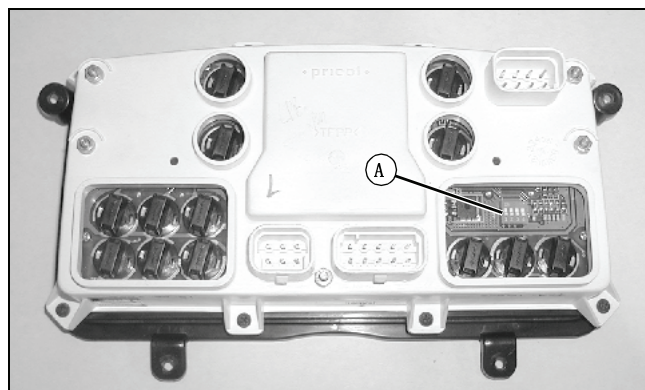
バッテリー放電インジケータ (J) は、キー・スイッチが「作動」位置に回されると点灯します。このインジケータは、エンジンが始動すると消えます。点灯されたままになっている場合は、オルタネータで適切な電流が作られていない可能性があります。エンジンを止めて原因を調べて下さい。

パーキング・ブレーキ・インジケータ (K) は、パーキング・ブレーキがロックされると点灯します。

エンジン・オイル圧インジケータ (F) は、エンジン・オイル圧が低くなると点灯します。エンジン作動中にこのランプが点灯したら、直ちにエンジンを停止して下さい。このインジケータは、エンジン・オイルが少ないか、エンジンが大きく損傷する可能性を表します。

エンジン・スピードメータの切替

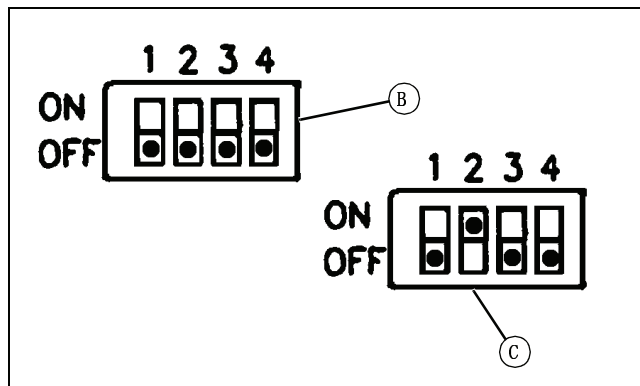
1. バッテリーのマイナス極ケーブルの接続を外します。
2. フロント・グリルを取り外します。



MX23994

3. マシンの計器パネルの裏にある mph/kph 切替スイッチ (A) を見つけます。

注記：標準タイヤを使用する機械でスイッチをセットします。



MX7260b

4. それぞれのスイッチに届くねじ回しを使用して、工場出荷時の mph (B) から kph (C) にスイッチを切り替えます。
5. フロント・グリルを取り付けます。
6. バッテリーのマイナス極ケーブルを接続します。

5 速同期トランスミッションの操作

クラッチ・ペダルの使用

重要：破損しないよう注意してください。不必要な摩耗を防いでください。車両が稼働中にクラッチ・ペダルに足を置いてクラッチの操作を絶対にしないでください。

ファースト・ギア、セカンド・ギア、またはリバース・ギアの状態の車両から離れる場合や、クラッチ・ペダルを押したまま坂を下りる場合に、極端に速度がでる可能性があります。クラッチを押したままのギアでは、車両は自由に動きません。

クラッチ・ペダルの機能は以下のとおりです：

- ・ エンジン出力をトランスミッションに接続したり切り離したりします。
- ・ ギアをシフトするギアシフト・レバーと併せて操作します。

クラッチを解除するには

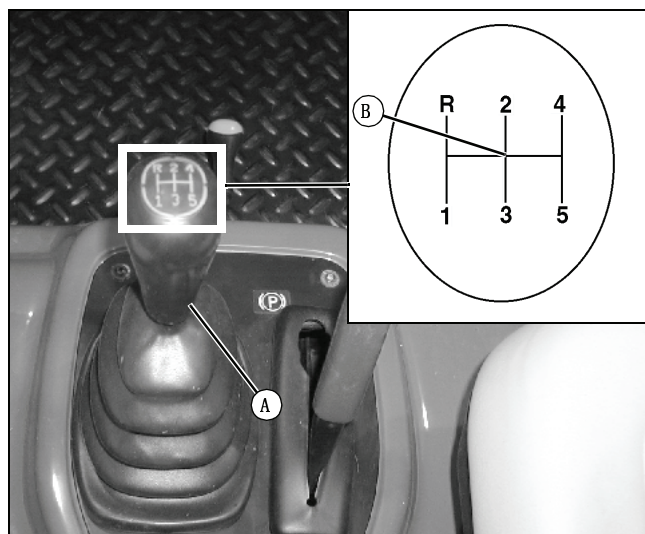
- ・ クラッチ・ペダルを一番下まで踏みます。これにより、トランスミッションがエンジン出力から切り離されます。

クラッチを入れるには

- ・ クラッチ・ペダルから足をゆっくりと離します。これにより、トランスミッションがエンジン出力に接続されます。

操作

ギアシフト・レバーの使用



MX1646a MX23702

ギアシフト・レバー (A) は、運転席の右側のコンソールにあります。ギアシフト・レバーで、5 速の前進と 1 速の後退を行います。

ギアシフト・レバーで、希望する速度と方向に一致するギアを選びます。ファーストおよびセカンド・ギアは低速で、重い荷物を引っ張るときに使用します。

ギア	標準サイズのタイヤでは、最大対地速度は 3300 RPM です。
1	4.5 km/h (2.8 mph)
2	7.4 km/h (4.6 mph)
3	12.7 km/h (7.9 mph)
4	24.1 km/h (15 mph)
5	30.7 km/h (19.1 mph)
R	5.8 km/h (3.6 mph)

前進

1. パーキング・ブレーキを入れます。

注記：ギアシフト・レバーを、エンジンを始動するためにニュートラルにします。

2. ギアシフト・レバーをギア 2 と 3 の間のニュートラル (B) に入れます。
3. クラッチ・ペダルを踏んでエンジンを始動させます。
4. ギアシフト・レバーを望ましい始動ギアに移動します。
 - ・ 積み荷のある車両 ・ ファースト・ギア
 - ・ 積み荷のない車両 ・ セカンドまたはサード・ギア
5. パーキング・ブレーキのロックを外します。

6. クラッチを徐々に放して、ゆっくりと荷物を積み込みます。

重要：破損しないよう注意してください。この車両をダウンシフトする場合は、一度に複数のギアをスキップしないことが重要です。例えば、ギア 5 から 4 へのシフトは好ましく、ギア 5 から 3 へのシフト、ギア 5 から 2 へのシフトは容認され、ギア 5 から 1 へのシフトはお勧めできません。一度に 2 つ以上のギアをダウンシフトすると、制限の 10,000 rpm 以上クラッチを回転させます。10,000 rpm、またはそれ以上にクラッチを回転させると、クラッチが壊れたり、故障する可能性があります。

7. 走行中のギアのシフト：

- ・ クラッチを踏んで次のギアにシフトします。
- ・ クラッチをゆっくりと放します。

後退

1. 車両を完全に停車させます。
2. クラッチを踏みます。
3. ギアシフト・レバーをバックに入れます。
4. クラッチをゆっくりと放します。

エンジンの始動



注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。

エンジンの稼働は機械を屋外に移動してから行なって下さい。

換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。

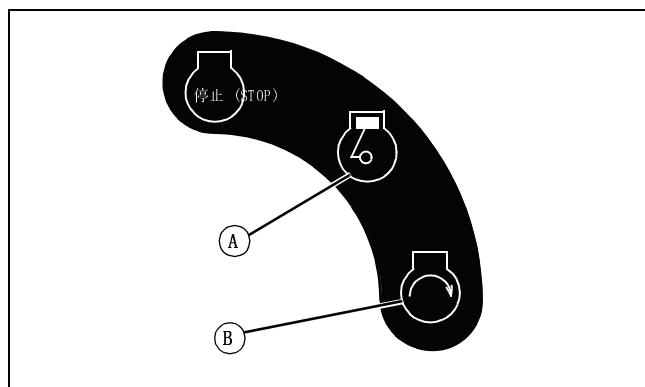
- ・ エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。
- ・ 新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

注記：ディーゼル・モデル：必ず燃料シャットオフ・バルブが開いていることを確認して下さい。

1. パーキング・ブレーキをロックします。
2. 油圧 PTO レバーを「オフ」の位置まで押します。
3. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。
4. 手動チョークのガソリン・モデル：寒い日にエンジンを起動する場合のために、チョーク・ノブを引き出します。エンジンが作動できる状態になったら、完全に開くま

操作

でチョーク・ノブを押します。エンジンが温まると、チョーク・ノブが中に押し込まれます。



5. キー・スイッチを「作動」の位置 (A) にします。
6. インジケータ・ライトをチェックして下さい：
 - ・ バッテリー電荷インジケータ・ライトが点灯している。
 - ・ パーキング・ブレーキ・インジケータ・ライトが点灯している。
 - ・ エンジン・オイル圧インジケータ・ライトが点灯している。
 - ・ ディーゼル・モデル：グロー・プラグ・インジケータ・ライトが点灯している。約 3 秒後、インジケータ・ライトが消える。これでエンジンは始動準備完了です。

重要：破損しないよう注意してください。スタータは一度に 20 秒より長く稼働させると破損することがあります。エンジンが始動しない場合は、少なくとも 2 分待ち、やり直して下さい。

7. キー・スイッチを「スタート」の位置 (B) にします。
*注記：*エンジンは、始動すると $1250 \text{ rpm} \pm 50$ の範囲で低アイドル作動になるよう工場で校正されています。
8. エンジンが始動したらキーを「作動」の位置にします。
 - ・ バッテリー電荷インジケータ・ライトが消えるはずで
 - ・ エンジン・オイル圧インジケータ・ライトが消えます。
9. パーキング・ブレーキのロックを外します。
 - ・ パーキング・ブレーキ・インジケータ・ライトが消えます。

エンジンを止める



注意：ケガの防止に留意して下さい。ミニバンから離れる場合は、必ずパーキング・ブレーキをロックしてください。パーキング・ブレーキがロックされていない場合は、無人で車両が動き出す場合があります。ギアシフト・レバーが「ニュートラル」の位置に移動されると、車両は自由に動きます。

1. アクセス・ペダルから足を放して、エンジンをゆっくりアイドリングさせます。

2. クラッチ・ペダルとフット・ブレーキを踏みます。

*注記：*ガソリンエンジンには、キー・スイッチを停止位置に設定してもエンジンはすぐに停止しません。車両から離れる前にエンジンが停止していることを確認してください。

3. キー・スイッチを「停止」(STOP) の位置にします。
4. ギアシフト・レバーをファーストかバックに入れます。
5. パーキング・ブレーキをロックします。
6. キーを抜きます。

オペレータが運転席にいない状態での車両エンジンの操作



注意：ケガの防止に留意して下さい。

- ・ 席から離れる場合は、必ずパーキング・ブレーキをロックしてください。
- ・ 付属装置で必要としない限りは、車両が作動している場合は席から離れないでください。

*注記：*通常の運転条件では、オペレータが運転席で腰を上げると、車両のエンジンは停止するはずで

オペレータが運転席を離れた時に、エンジンを作動させておくには：

1. クラッチ・ペダルとフットブレーキ・ペダルを踏んで、車両を停止します。
2. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。
3. パーキング・ブレーキを入れます。
4. クラッチ・ペダルとフットブレーキ・ペダルをゆっくりと放します。
 - ・ エンジンは、オペレータが運転席を離れても作動し続けます。

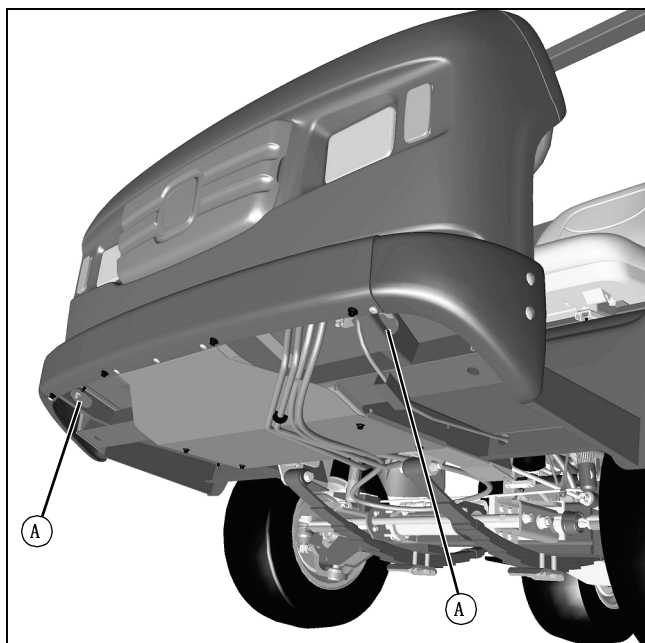
操作

ミニバンの牽引



注意：ケガの防止に留意して下さい。牽引する前に車両のカーゴ・ボックスまたは付属装置からの積載物を取り除いてください。荷積みされた車両を牽引すると、車両のコントロールを失うことになります。

1. ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。



MX44257

2. 車両のフロントの下のメイン・フレームの両側にある楕円形のスロット (A) に牽引ラインをつなぎます。
3. パーキング・ブレーキのロックを外します。



注意：ケガの防止に留意して下さい。車両を牽引する場合、16 km/h (10 mph) を超えないでください。エンジンが作動していないと、車両のかじ取りが難しくなります。

4. 車両を希望する場所までゆっくりと注意深く牽引します。

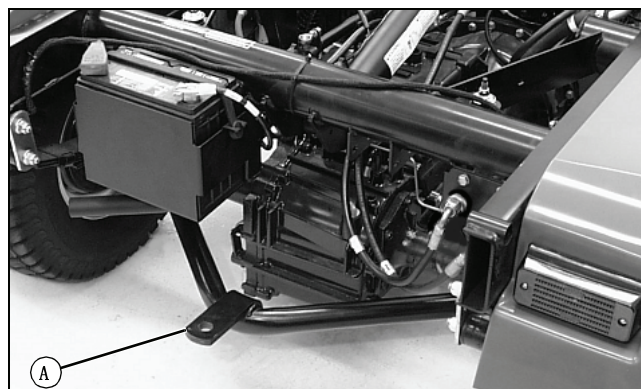
積載物の牽引



注意：ケガの防止に留意して下さい。積載重量が重過ぎると、傾斜面でトラクションを失ったり車両の制御がきかなくなったりする恐れがあります。停車距離は、走行速度および積載物の重量が増すに連れて長くなります。

本オペレーターズ・マニュアルで指定されている、この車両の最大積載量を超えないでください。

- ・ 適切なブレーキ性能とトラクションを確保するために、牽引物の重量（トレーラとカーゴ）は車両の最大積載量（運転者、同乗者、カーゴ・ボックスの荷物）を絶対に超過しないでください。
- ・ オペレーターズ・マニュアルに指定されているように、この車両の最大牽引積載量を超過する積載物を牽引しないでください。
- ・ 680 kg (1500 lb) を超過する積載物を牽引しないでください。
- ・ タングの重さは 90.7 kg (200 lb) を超えないでください。
- ・ コントロールが維持できる十分な速度で牽引します。



MX14985

- ・ このミニバンに認められた後部ヒッチ・ポイント (A) を必ず使用してください。これは承認されているヒッチ・ポイントです。改造しないでください。

ミニバンの運搬

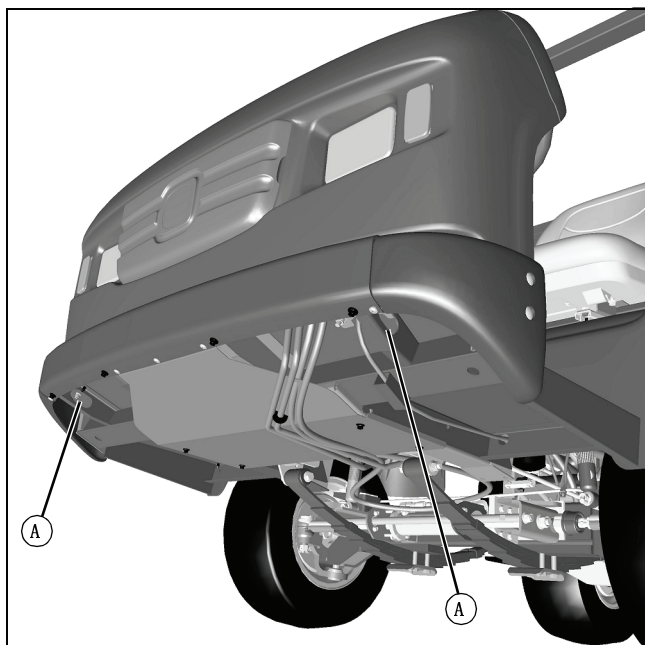


注意：ケガの防止に留意して下さい。運搬速度でマシンを操作する場合は、十分に注意してください。マシンより牽引荷重が大きい場合は速度を落としてください。適切な運搬速度に関しては、牽引装置のオペレータ・マニュアルを参照してください。

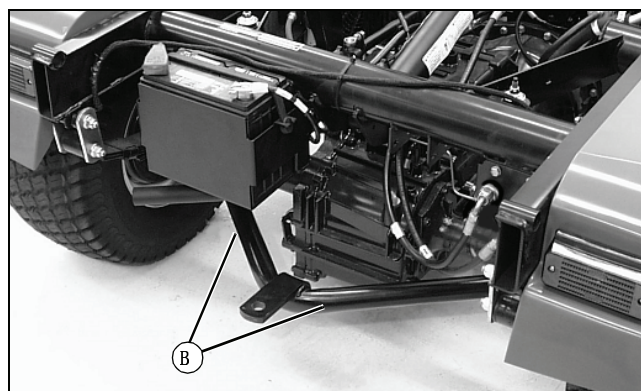
悪い条件の路面で積載物を運搬している場合、特に方向を変えたり傾斜面の場合は、十分に注意をする必要があります。

州または地域の規制で禁止されていない限り、公道で走行する場合は、警告灯や方向信号灯を使用してください。安全照明道具キットは John Deere の代理店からご購入いただけます。

1. 車両を前進で運転してトレーラに載せます。
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）
3. ディーゼル・モデル燃料シャットオフ・バルブを「OFF」の位置まで回します。
4. 後輪をチョークか木のブロックで固定します。
5. ヘビー・デューティ用のストラップ、チェーンまたはケーブルを使って、車両をトレーラに固定します。



MX44257



MX14985

・ 固定用具は、車両前部の下のメイン・フレームの両側にある楕円形のスロット (A) と後部の両側のヒッチ・アセンブリ (B) に取り付けて下さい。

・ 前部、後部のストラップは両方とも、車両から下向きおよび外向きにかけていなければなりません。

6. 道路または高速道路上で運搬する場合は、アクセサリ・ライトと適切な警告装置を使用して、他の車輛の運転者に適切な注意を促します。関連するすべての法令を守って下さい。

カーゴ・ボックスの上げ下げ



注意：ケガの防止に留意して下さい。

・ カーゴ・ボックスを引き上げる前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキング・ブレーキがロックされていることを確認してください。車両がカーゴ・ボックスが上がっている状態で坂を上げる場合は、カーゴ・ボックスの重さによって転倒する恐れがあります。

・ 上がっている付属装置にリフト・シリンダの安全用サポートが取り付けられていない場合は、サービス機能を実行しないでください。

・ 車両の点検整備の前に、カーゴ・ボックスを空にしてください。

1. エンジンを始動させます。
2. リフト・シリンダー・レバーを後に引いたまま、カーゴ・ボックスを引き上げます。

注記：エンジンが始動または停止するとリフト・シリンダーが引っ込み、カーゴ・ボックスが下がります。

一番低い位置を通過してデテント・フロート位置になるまでレバーを押すと、急に下がらないように回路が制限されているので、さらにゆっくりとボックスが一番下の位置に下がります。

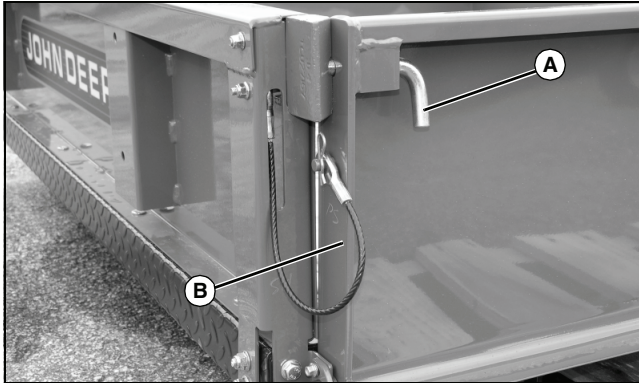
3. レバーを下に押し続けて、カーゴ・ボックスを下げます。

操作

4. エンジンを止めます。

カーゴ・ボックス・テールゲートの操作

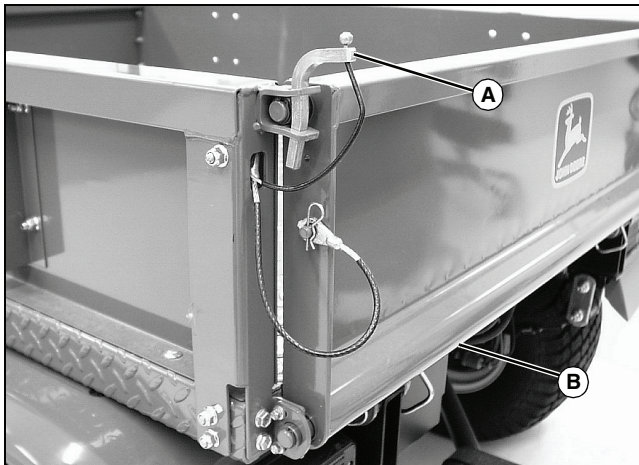
バネ付きラッチ・ピンを開く



MX27752

1. 両方のテールゲート・ラッチ・ピン (A) を引いてテールゲート (B) を下げます。

バネのないラッチ・ピンを開く



MX3105

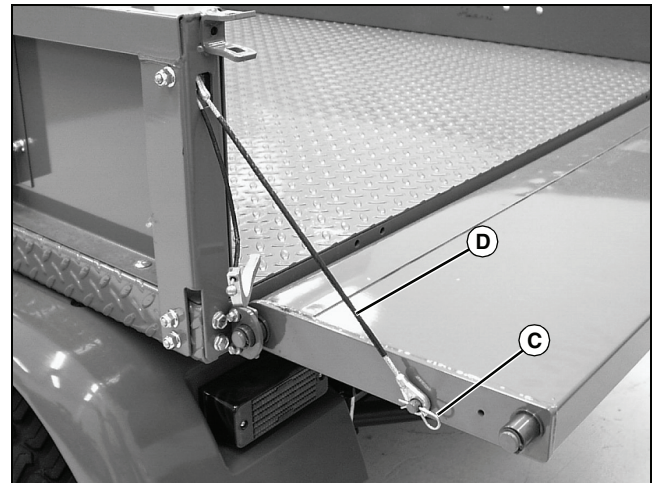
1. 各テールゲート・ラッチ・ピン (A) を引き上げて取り外します。
2. テールゲート (B) を下ろします。

テールゲートを完全に下げる



注意：ケガの防止に留意して下さい。テールゲートが完全に下げられた状態で車両を操作しないでください。テールゲートが完全に下げられた状態では車両のテールライトが妨害されるので、後部が衝突する可能性があります。

重要：破損しないよう注意してください。テールゲートが完全に下げられている場合は、後部フェンダに接触する可能性があります、構造的損傷を負う可能性があります。テール・ゲートが完全に下がっている場合は、ミニバンを操作しないでください。



MX3107

図注：図はバネなしラッチ・ピンのついたカーゴ・ボックス

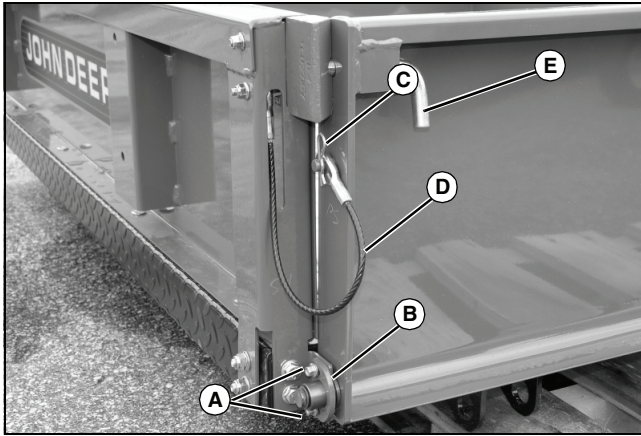
1. スプリング・ロック・ピン (C) と、ケーブル (D) を各穴付きスタッド (E) から取り外して、テールゲートを完全に下ろします。

カーゴ・ボックス・テールゲートの取り外し

バネ付きラッチ・ピンのついたテールゲート

1. テールゲートを閉じて、両側をラッチします。

操作



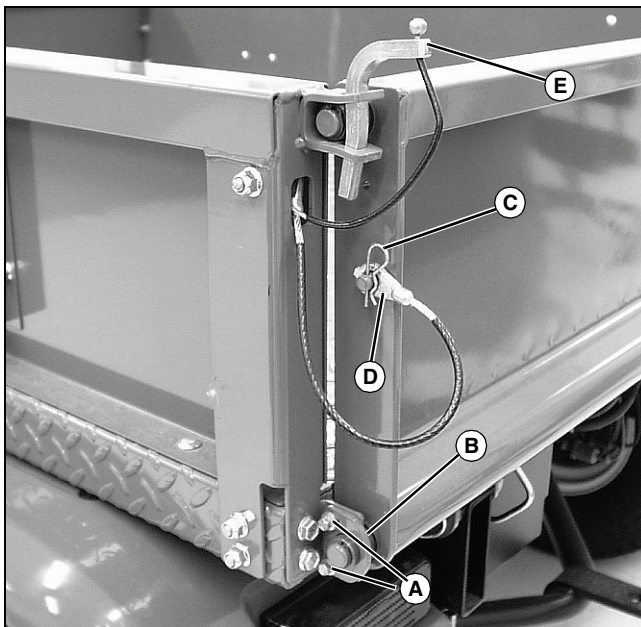
MX27752

6. テールゲートの取り付け手順の逆を行います。

2. 2 個のネジ (A) とテールゲート・サポート・プレート (B) を両側から取り外します。
3. スプリング・ロック・ピン (C) とケーブル (D) を各穴付きスタッド から取り外します。
4. 両方のテールゲート・ラッチ・ピン (E) を引き、テールゲートを取り外します。
5. テールゲートの取り付け手順の逆を行います。

バネなしラッチ・ピンのついたテールゲート

1. テールゲートを閉じて、両側をラッチします。



MX3105

2. 2 個のネジ (A) とテールゲート・サポート・プレート (B) を両側から取り外します。
3. スプリング・ロック・ピン (C) とケーブル (D) を各穴付きスタッド から取り外します。
4. 各テールゲート・ラッチ・ピン (E) を引き上げて取り外します。
5. テールゲートを取り外します。

交換用パーツ

整備点検用文献

本機のパーツ・カタログまたは技術マニュアルをご希望の場合は、以下までお問い合わせ下さい。

- ・ 米国／カナダ 1-800-522-7448。
- ・ 上記の国を除く全地域：最寄のジョン・ディア代理店へお問い合わせ下さい。

パーツ

ジョン・ディア純正の高品質なパーツと潤滑油のご使用を推奨します。純正品は最寄のジョン・ディア代理店にてお求め下さい。

パーツ番号は変更されることがあります。ご注文の際は下記に一覧されているパーツ番号をご使用下さい。番号に変更があった場合には代理店で把握していますので、お問い合わせ下さい。

ご注文の際は、お使いの機械や付属装置のシリアル番号、または製品認識番号（PIN）が必要となります。これらの番号は、本マニュアルの「製品識別」セクションでお客様に書き写していただいた番号です。

整備点検用パーツのオンラインでの注文

インターネットでのパーツ注文と関連情報については、<http://JDParts.deere.com> をご参照下さい。

パーツ番号

アイテム	パーツ番号
エア・クリーナ・アセンブリ ・ 全モデル共通 ・ 1 次エレメント ・ 2 次エレメント	M113621 M123378
エンジン・オイル・フィルタ ・ 全モデル共通	M806418
トランスミッション・オイル・ストレーナ	M800489
作動油フィルタ	M131053
バッテリー	AM125463
燃料フィルタ ・ ガソリン・モデル ・ ディーゼル・モデル	AM876035 CH15553

アイテム	パーツ番号
ヒューズ ・ 10 アンペア ・ 25 アンペア	57M7121 99M7069
イグニッション・キー	AM131841
ライト ・ ヘッドライト ・ ストップライト / テールライト ・ 表示ライト	AH166909 AR48041 57M7926

(パーツ番号は予告無しに変更されることがあります。米国内向けと輸出向けでは異なる番号を使用している場合があります。)

整備点検周期

機械の整備点検

重要：破損しないよう注意してください。BIO HY-GARD[®] トランスミッションと油圧オイルはすべての用途に使用され、点検の回数は、オペレータズ・マニュアルで説明されている保守回数の2倍実行する必要があります。

極端な条件での作動では、より頻繁な整備点検が必要となります：

- ・ 酷暑やホコリ、その他の過酷な条件下での作動では、エンジン部品が汚れたり目詰まりを起こしたりする可能性があります。
- ・ 機械を継続的に低速で操作したり短距離の走行を頻繁に行ったりすると、エンジン・オイルが劣化することがあります。

下記の表に従って、機械の定期点検を行って下さい。

ブレークイン期間中 — 機械の初期稼動から 10 時間後

- ・ 車輪のラグ・ナットとブレーキドラムのボルトのトルクを点検して締めてください。
- ・ 金具が緩んでいないかを点検します。

ブレークイン期間中 — 機械の初期稼動時から 50 時間経過後

- ・ 車輪のラグ・ナットとブレーキドラムのボルトのトルクを点検して締めてください。
- ・ エンジン・オイルとフィルタを交換します。
- ・ トランスアクスル（取り付けられている場合は予備リザーバ）、作動油、フィルタを交換して、ストレーナを清掃します。
- ・ ブレーキ液の量を点検します。
- ・ すべてのホース・クランプ（吸気口、冷却、油圧）を点検して締めます。
- ・ オルタネータ・ベルトの張力を点検し、必要に応じて調整するか交換します。
- ・ 4WD モデル：(MFWD) フロント・アクスル・オイルを点検します。
- ・ パーキング・ブレーキを点検し、調整します。

毎日の点検事項

必須事項：

- ・ 安全インターロック・システムをテストします。
- ・ タイヤを点検し、空気圧をチェックします。
- ・ 機械からゴミや異物を取り除きます。
- ・ 部品に緩み、欠損、損傷がないかを点検します。
- ・ エンジン・オイルのレベル、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ・ トランスアクスル・オイルのレベル、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ・ 油圧オイルのレベル（補助リザーバー）、およびオイル漏れがないかを点検します。
- ・ 冷却液のレベル、および冷却液漏れがないかを点検します。
- ・ 吸気口スクリーンとファン・シュラウドを点検して掃除をします。
- ・ 燃料タンクのレベルと燃料が漏れていないかを点検します。
- ・ マシンの下部分で漏れがないかを点検します。

必要に応じて：

- ・ 水分を排出して、燃料セディメント容器をきれいにします（ジーゼルエンジン）。
- ・ ブレーキ液の量を点検します。
- ・ クラッチとアクセル・ケーブルを調整します。
- ・ フロント・ホイールのベアリングに油を塗ります。

稼動 100 時間おき

- ・ 車輪のラグ・ナットとブレーキドラムのボルトのトルクを点検して締めてください。
- ・ 4WD モデル：(MFWD) フロント・アクスル・オイルを点検します。
- ・ バッテリーをきれいにし、バッテリー液のレベルを点検します。
- ・ 必要に応じて、エア・クリーナ・エレメントを点検します。
- ・ シートの下にある上部の油圧 PTO 制御バルブをきれいにします。バルブ・ブロックが入る両方のスプールに油圧オイルを塗ります。
- ・ クラッチとスロットルのケーブルの端が接続されていないことを確認します。汚れとゴミを取り除きます。

整備点検周期

稼動 200 時間おき

- ・ エンジン・オイルとフィルタを交換します。
- ・ すべてのホース・クランプ（吸気口、冷却、油圧）を点検して締めます。
- ・ オルタネータ・ベルトの張力を点検し、必要に応じて調整するか交換します。
- ・ 4WD モデル：ドライブシャフトにグリースを塗ります
- ・ 3 つの取付け部品
- ・ ラジエータ・フィンとオイル冷却フィンをきれいにします。

稼動 500 時間おき

- ・ トーイン調整を点検します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
- ・ トランスアックスル（取り付けられている場合は予備リザーバ）、作動油、フィルタを交換して、ストレーナを清掃します。
- ・ パーキング・ブレーキを点検し、調整します。
- ・ 4WD モデル：フロント・アックスルのオイルを交換します。

毎年

- ・ 転倒時保護構造システム（ROPS）の金具の締め具合を点検し、必要に応じて締めます。
- ・ 冷却液の凍結温度と透明度を点検します。
- ・ 燃料フィルタを交換します。ディーゼル・モデル：さらに、水分を排出して、燃料セディメント容器をきれいにします。

稼動 1500 時間おき、あるいは 2 年ごと

- ・ ディーゼル・モデル：燃料インジェクタを点検します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
- ・ バルブのクリアランス（間隔）を点検します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
- ・ ガソリン・モデル：スパーク・プラグを取り替え、ギャップを調整します。

稼動 2000 時間おき、あるいは 2 年ごと

- ・ ブレーキ・ラインをフラッシュして、オイルを交換しま

す。

- ・ COOL-GARD Ⅹ CONCENTRATE ANTIFREEZE (TY16036)（クールガード濃縮不凍液）を使用している場合は、エンジン冷却液とサーモスタットを交換して下さい。

稼動 3000 時間おき、あるいは 3 年ごと

- ・ ディーゼル・エンジン・モデル：燃料インジェクション・ポンプを点検します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
- ・ COOL-GARD Ⅹ PREDILUTED ANTIFREEZE (TY16034)（クールガード希釈不凍液）を使用している場合は、エンジン冷却液とサーモスタットを交換して下さい。

整備点検 — エンジン

エンジンの保証およびメンテナンスに関する表明

本機エンジンの排気制御装置およびシステムのメンテナンス、修理、および交換は、お客様が自費で実行される場合には、ノンロード・エンジン用のエンジン修理施設への委託は可能です。保証下の修理は、認定を受けたジョン・ディア代理店によって行われなければなりません。

キャブレタの調整

注記：キャブレタはエンジン・メーカーで校正されているため、調整できません。

エンジンを標高 1,829m 以上で作動させる場合、一部のキャブレタでは高い標高用のメインジェットが必要になる場合があります。その場合は認定代理店へお問い合わせ下さい。

エンジンが始動しにくい、またはスムーズに作動しない場合は、本マニュアルの「故障診断」の章をご覧ください。

トランスミッションがニュートラル「N」の位置にありモアの連結レバーが解放されていてエンジンの回転数が高いと、エンジン・サージが起こることがあります。これは、排ガス規制機能による正常な状態です。

故障診断の章のチェック項目を確認した後もエンジンの不調状態が続く場合は、認定代理店までご連絡下さい。

排気ガスを避ける



注意：ケガの防止に留意して下さい。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重篤な疾患や死亡の原因となることがあります。

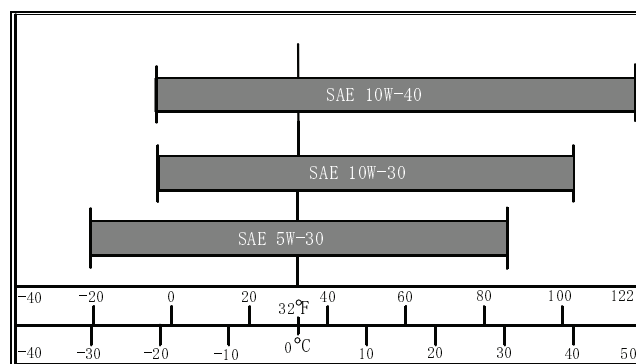
エンジンの稼動は機械を屋外に移動してから行なって下さい。

換気設備が不十分な密閉された場所ではエンジンを作動させないで下さい。

- ・ エンジンの排気用パイプに延長パイプを接続し、作業を行うエリアから排気ガスを排出します。
- ・ 新鮮な外気を作業エリアに取り入れて排気ガスを完全に排出して下さい。

エンジン・オイル ・ ガソリン・モデル

オイルを交換する際は、次の交換に至るまでの間、どの程度の気温が予想されるかを判断し、予想気温に適するオイル粘度を選んで下さい。



下記のジョン・ディア社製オイルを推奨します。

- ・ TURF-GARD ™
- ・ PLUS- 4 ™

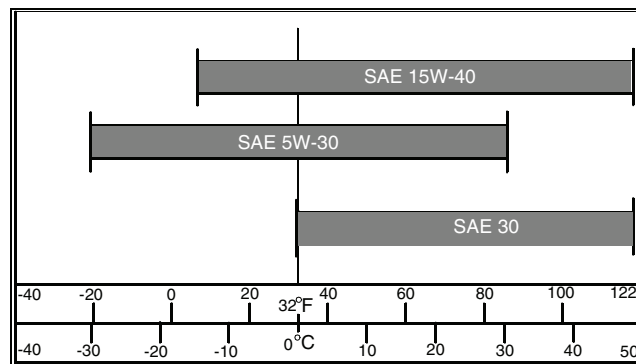
このジョン・ディア社製オイルが入手できない場合は、下記の仕様に適合していれば他のオイルを使用することも可能です。

- ・ API 整備点検等級 SG 以上。

エンジン・オイル — ディーゼル・エンジン・モデル

オイルは次のオイル交換までに予想される気温に適したオイル粘度のものを使用して下さい。

下記のジョン・ディア社製のオイルが適切です



- ・ PLUS-50 ™ (SAE 15W-40)
- ・ TORQ-GARD SUPREME ™ (SAE 30)
- ・ TORQ-GARD SUPREME ™ (SAE 5W-30)
- ・ PLUS-4 ™

上記のジョン・ディア社製オイルが入手できないときには、下記の仕様に適合している場合、他のオイルを使用することも可能です

- ・ SAE 15W-40 - API Service Classification CF-4 またはそれ以上

整備点検 — エンジン

- ・ SAE 5W-30 - API Service Classification CC またはそれ以上
- ・ SAE 10W-30 - API Service Classification CF またはそれ以上
- ・ SAE 30 - API Service Classification CF またはそれ以上

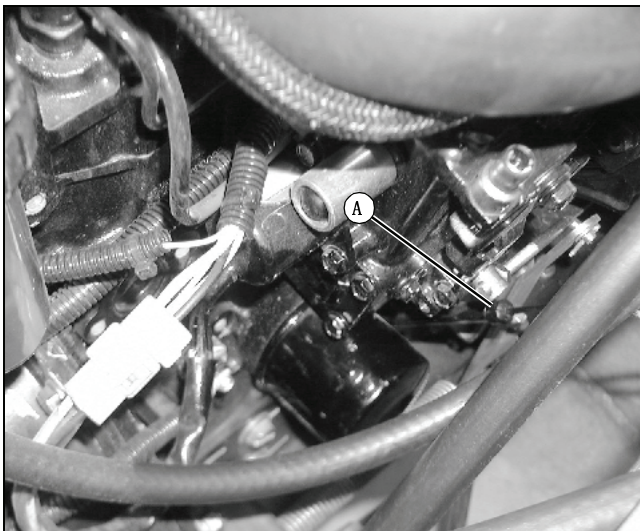
エンジン・オイル・レベルの点検

重要：破損しないよう注意してください。ゴミや他の汚染物質がディップスティック・チューブから混入しないよう注意して下さい。ディップスティックを抜く前に必ず周辺をきれいにして下さい。

オイル・レベルを定期的に点検しないと、オイル・レベルが低くなった時にエンジンに重大な支障が起きる可能性があります。

- ・ 作動前にオイル・レベルを点検して下さい。
- ・ オイル・レベルの点検は、エンジンが作動しておらず温度が十分下がっている時に行います。
- ・ レベルは「上限」(FULL)と「追加」(ADD)のマークの間に保ちます。
- ・ エンジンを止めてからオイルを追加します。
- ・ 1日4時間以上エンジンを稼働する場合は、1日に2回オイルの量を点検してください。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

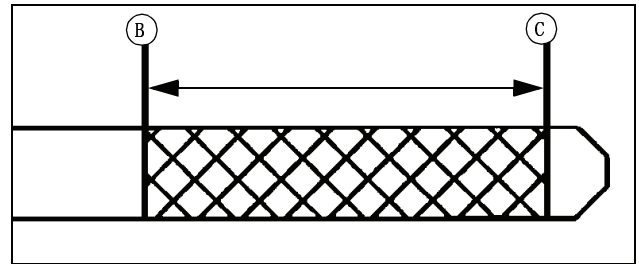


MX23699

3. エンジンが準備されるまで2～3分待ってください。オイルゲージ (A) を取り外して、清潔な布で拭いてくださ

い。

4. オイルゲージを差し込みます。



M71680

5. オイルゲージを抜き取ります。オイルゲージでオイル・レベルを点検します。オイル・レベルは、オイルゲージの (B) と (C) の間になっていなければなりません。

- ・ オイル・レベルが低い時は、オイルゲージの (B) のレベルを超えない範囲でオイルを補充します。
- ・ オイル・レベルがオイルゲージのレベル (B) を超えている場合は、適量になるまでオイルを抜きます。

6. オイルゲージを差し込みます。
7. 付属装置を下ろします。

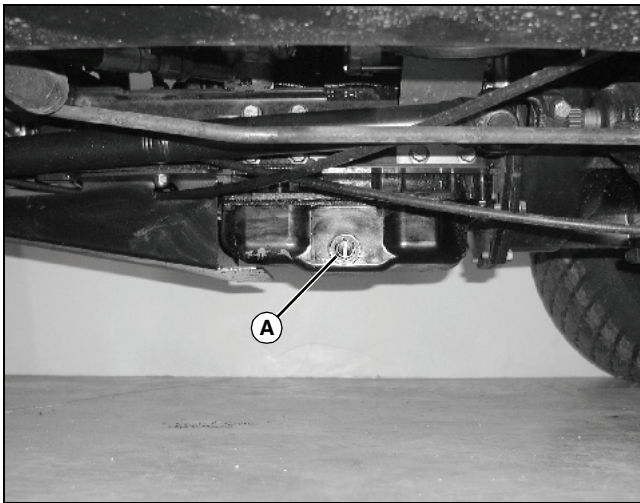
エンジン・オイルとフィルタの交換

重要：破損しないよう注意してください。車両が非常に厳しい状況で使用されている場合は、より頻繁にオイルを交換してください。

- ・ 非常に埃っぽい状況。
- ・ 頻繁に低速度で操作する。
- ・ 頻繁に短距離を走行する。

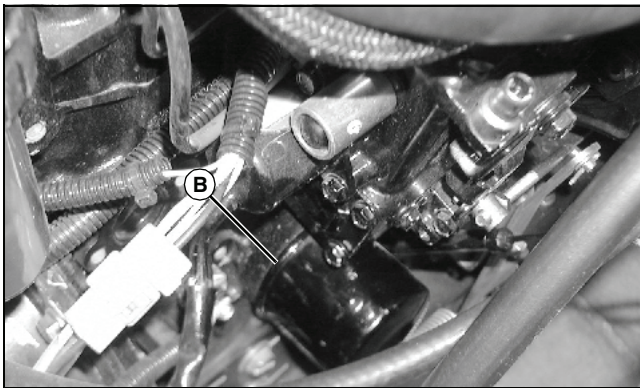
1. エンジンを作動させ、オイルを温めます。
2. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)
3. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)
4. オイル抜き部位の下に容器を置きます。

整備点検 — エンジン



MX23703

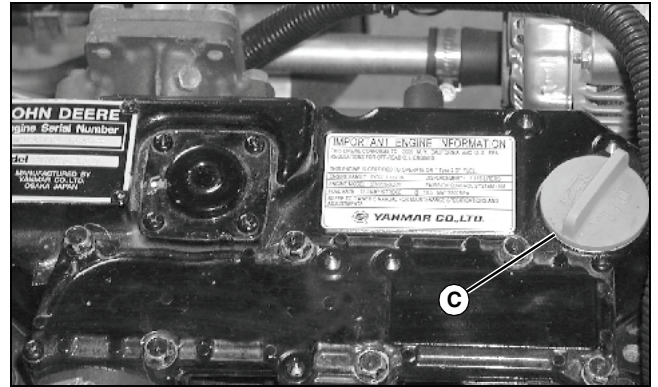
5. エンジン左下部にあるドレーン・プラグ (A) を取り外します。



MX23699

6. オイル・フィルタ (B) を取り外します。
- ・ エンジンの右側の下にあるフィルタを見つけます。
 - ・ フィルタを反時計回りに回して取り外します。
7. 新しいフィルタのガスケットに汚れのないエンジン・オイルを薄く塗って下さい。
8. オイル・フィルタを取り付けます。
- ・ ガスケットが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、1/2 ～ 3/4 回転分、更に締めます。
9. オイル・ドレーン・プラグを取り付けます。締め付け過ぎないように注意して下さい。

注記：補助のオイル注入キャップはエンジンの右側にあります。



MX23701

10. エンジンの上のオイル注入キャップ (C) を取り外します。
11. 推奨された液体を追加します。
12. オイル注入キャップを戻します。
13. エンジンを始動して、約 2 分間アイドリングします。漏れがないか点検します。漏れがあった場合は操作する前に修理して下さい。
14. エンジンを止めます。
15. 約 2 分後に、エンジン・オイルのレベルを点検します。必要に応じてオイルを補給します。
16. 付属装置を下ろします。

スパーク・プラグの点検



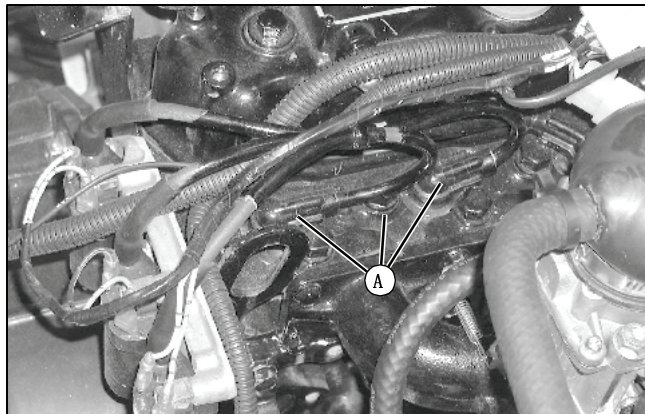
注意：ケガの防止に留意して下さい。高温面に触れると、皮膚に火傷を負うおそれがあります。エンジンの作動により、エンジンや部品、液体類は高温になります。整備点検作業、エンジンやコンポーネント周辺での作業を行う場合は、必ずエンジンの温度が下がるのを待ってから行って下さい。

重要：破損しないよう注意してください。スパーク・プラグは研磨剤を使って清掃しないでください。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）
3. 各スパーク・プラグの周辺をきれいにします。

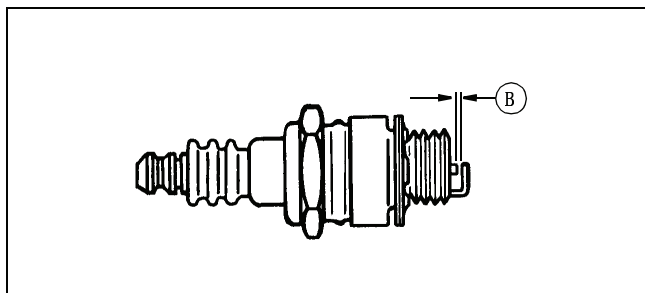
整備点検 — エンジン

注記：分かりやすくするため、写真では給排気ホースをエンジンから離しています。



MX24127

4. それぞれのプラグからのスパーク・プラグ・ワイヤー (A) の接続を外します。
5. スパーク・プラグを取り外して、点検します。
 - ・ 各プラグをきれいにして、損傷がないか点検し、必要に応じて交換します。
 - ・ プラグの状態が良好な場合は、ギャップを点検します。



M85200

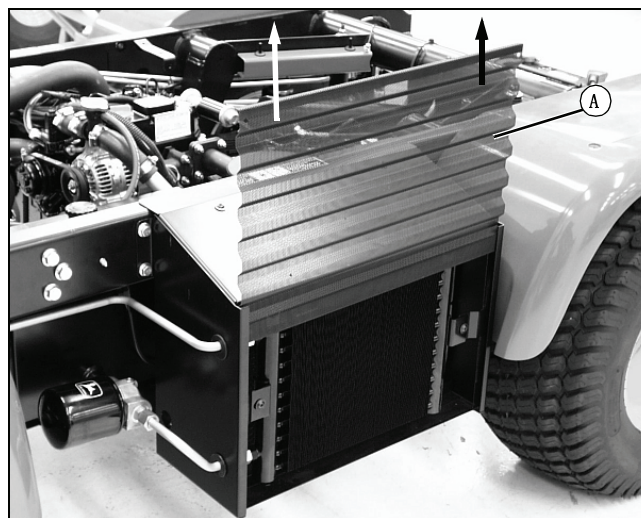
6. スパーク・プラグのギャップ (B) を点検し、0.76 mm (0.030 in.) に調整します。
7. スパーク・プラグを取り付けます。
 - ・ 20 N 瀕 (15 lb-ft) になるように締めます。
8. 各スパーク・プラグ・ワイヤーを取り付けます。
9. 付属装置を下ろします。

ラジエータ・スクリーンの手入れ



注意：ケガの防止に留意して下さい。高温面に触れると、皮膚に火傷を負うおそれがあります。エンジンの作動により、エンジンや部品、液体類は高温になります。整備点検作業、エンジンやコンポーネント周辺での作業を行う場合は、必ずエンジンの温度が下がるのを待ってから行って下さい。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX7252

3. エンジン・ラジエータの前の位置にあるラジエータ・スクリーン (A) を引き上げます。
4. スクリーンをブラシまたは圧縮空気で清掃します。
5. グリル・スクリーンを取り付けます。
6. 付属装置を下げます。

整備点検 — エンジン

ラジエータ冷却ファンとファン・シュラウドの手入れ

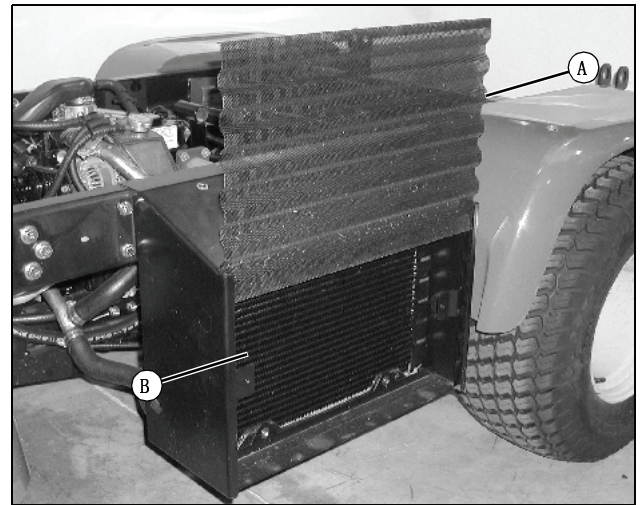


注意：ケガの防止に留意して下さい。圧縮空気を使用すると埃や異物が遠くへ飛び散ることがあります。

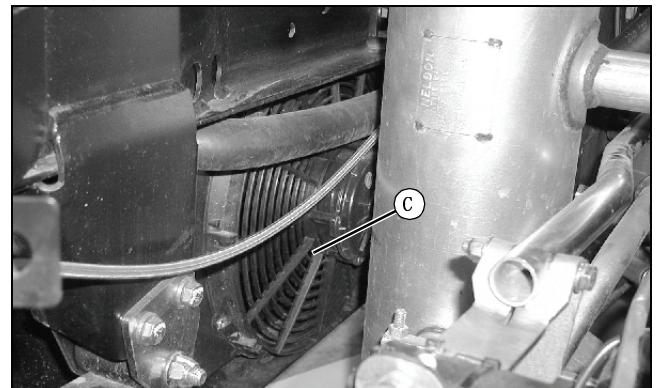
- ・ 作業スタッフ以外の人を周囲に近づけないで下さい。
- ・ 清掃のために圧縮空気を使用する際は、目を保護するためにゴーグルを着用して下さい。
- ・ 圧縮空気を 30 psi (210 kPa) まで減圧します。

重要：破損しないよう注意してください。冷却フィンとラジエータ・スクリーンが汚れていると、エンジンが過熱する恐れがあります。ラジエータ冷却フィンとファンを掃除してください。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX24011



MX24305

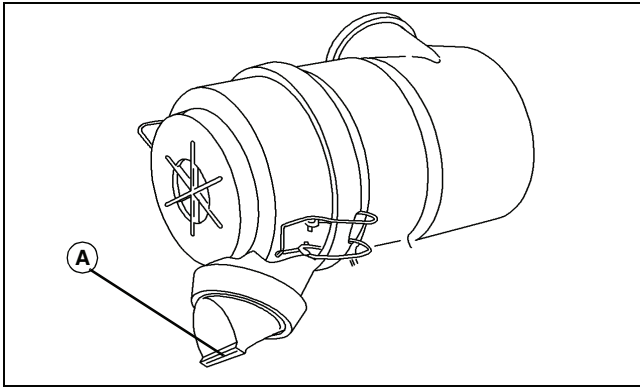
3. ラジエータ・スクリーン (A) を取り外します。
4. 圧縮空気または水を使用し、補助油圧、コイル冷却器、ラジエータ冷却ファン (B)、およびファン・シュラウド (C) からゴミや埃を取り除きます。
5. ラジエータ・フィンが損傷していないかを点検します。
6. ラジエータ・スクリーンを取り付けます。
7. 付属装置を下げます。

防塵バルブの清掃

重要：破損しないよう注意してください。エアクリーナ・エレメントおよびゴム製防塵バルブが付いていない状態ではエンジンを作動しないで下さい。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）
2. エンジンの温度が下がるまで待ちます。
3. エンジン・コンパートメントにアクセスします。

整備点検 — エンジン



MX22502

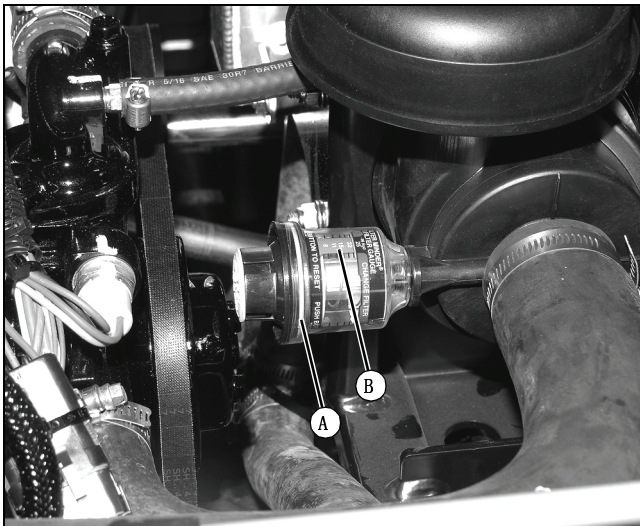
4. 防塵バルブ (A) を手で強く握ってきれいにします。破損がある場合は新しいものと交換します。

空気制限インジケータの点検 (ディーゼル・エンジン)

重要：破損しないよう注意してください。制限インジケータが赤、または 6.2 kPa (25 in. of H₂O) 真空になるまで、絶対にエア・クリーナを点検しないでください。吸気系統に汚染物が入るのを最小限にします。

埃っぽい状態で操作している場合は、より頻繁に空気制限インジケータを点検してください。

1. パーキング・ブレーキをロックします。
2. トランスミッションをニュートラルにします。
3. エンジンを始動させます。



MX44264

4. サイトウィンドウ (A) の色とスケール (B) の真空目盛り読み取りを点検してください。
5. エンジンを止めて、可動している部分が停止するまで待機します。

6. サイトウィンドウが赤か、読み取りが 6.2 kPa (25 in. H₂O) 真空の場合は、エア・クリーナの要素を点検します。

エア・クリーナ・エレメントの整備点検

重要：破損しないよう注意してください。フィルタ・エレメントが損傷していると、そこからエンジン内にゴミや異物が入り込む可能性があります。

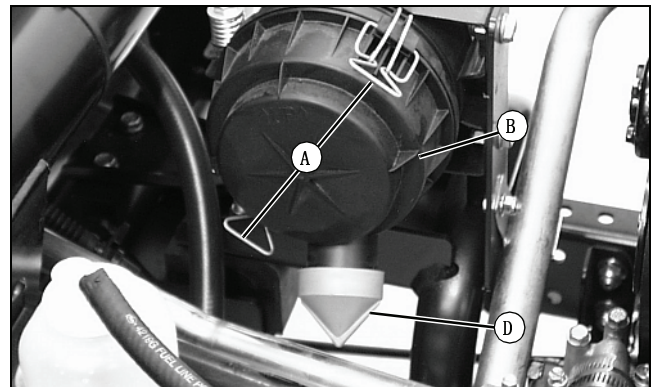
- ・ ペーパー・エレメントは洗浄しないで下さい。
- ・ ペーパー・エレメントを何かにたたきつけてホコリを落とそうとははいけません。
- ・ エレメント清掃に圧縮空気を使わないで下さい。
- ・ エレメントの交換は、ひどい汚れや破損がある場合、またはシールにひびが入っている場合にのみ行います。

エア・クリーナ・エレメントの点検

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

重要：破損しないよう注意してください。エア・クリーナ・キャニスタが開いている場合に、エンジンにゴミや異物が入り込む可能性があります。定期的な点検整備に必要な限り、キャニスタを開けないでください。吸気系統に汚染物が入るのを最小限にします。

埃っぽい場所で操作している場合は、より頻繁にフィルタ・エレメントを点検してください。



MX1658

3. ラッチ (A) を外し、エア・クリーナ・キャニスタ・カバー (B) を取り外します。
4. 取り外す前にそれぞれのエレメントを目で点検します。エレメントは、損傷しているか極度に汚れている場合にのみ交換します。

整備点検 — エンジン

1 次エア・フィルタ・エレメントの交換



MX1659

1. 1 次エレメント (C) を取り外し、廃棄します。新しい 1 次フィルタ・エレメントと交換します。

2. エア・クリーナのキャニスタ・カバー (B) を取り付けます。

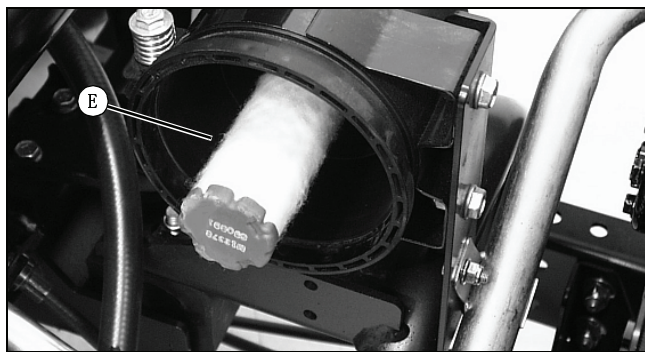
- ・ 正しい取り付け方法については、キャニスタ・カバーに型取りされている記載に従ってください。
- ・ ゴム製チリ除去バルブ (D) は、カバーが正しく取り付けられると下向きになるはずです。

3. ラッチ (A) を掛けます。

2 次エア・フィルタ・エレメントの交換

1. エア・クリーナのキャニスタ・カバーを取り外します。

2. 1 次エア・フィルタ・エレメントを取り外します。



MX1660a

3. 2 次エア・フィルタ・エレメント (E) を取り外し、廃棄します。新しい 2 次エア・フィルタ・エレメントと交換します。

4. 1 次エア・フィルタ・エレメントを戻します。

5. エア・クリーナのキャニスタ・カバーを交換します。

6. 付属装置を下ろします。

吸気ホース、油圧ホース、ラジエータ・ホース、クランプを点検します

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。 (「安全」セ

クションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)

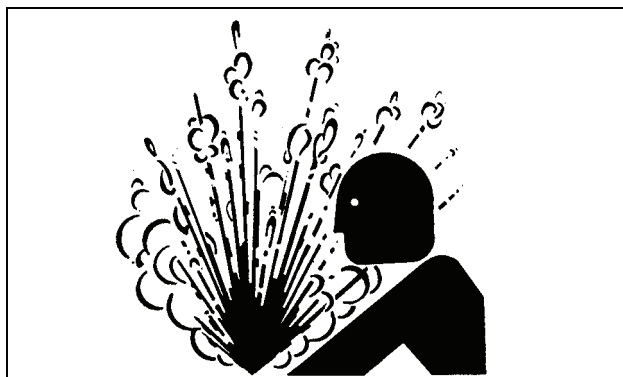
2. 車両を安全に駐車します。 (「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

3. ホースに漏れや損傷がないか点検して、以下でリストされている系統を締め付ける場合は、クランプを調整してください。必要に応じて交換して下さい。

- ・ 燃料系統
- ・ 冷却系統
- ・ 油圧系統
- ・ 吸気系統

4. 付属装置を下げます。

冷却システムの安全な整備点検



TS281



注意：ケガの防止に留意して下さい。ラジエータは高温になるため、皮膚に火傷を負うおそれがあります。ラジエータ・キャップを取り外す際、蓄積された圧力によって冷却液が急激に噴出する場合があります。

- ・ エンジンを止め、オイルを冷やします。
- ・ ラジエータとエンジンの温度が十分に下がって素手で触れられるようになるまでラジエータ・キャップを開けないで下さい。
- ・ ラジエータ・キャップを最初のストッパのところまでゆっくり緩め、内部の圧力を全て解除します。この後、キャップを外します。

推奨エンジン冷却液

重要：破損しないよう注意してください。冷却液の混合が正しくないと、ラジエータが破損する可能性があります。

- ・ 水だけしか入っていない状態ではエンジンを作動させないで下さい。
- ・ アルミニウム製ラジエータまたはアルミニウム製エンジン用に認定されたエチレングリコール・ベースの不凍液を使用して下さい。
- ・ 冷却液と水の混合比率が 50% を超えないようにして下さい。
- ・ エンジンが熱いうちは冷却液もしくは水をラジエータに注入しないで下さい。

下記のジョン・ディア社製の冷却液が適切です：

- ・ COOL-GARD[®] 夏季用事前希釈冷却液 (TY16036)
- ・ COOL-GARD[®] 夏季用濃縮冷却液 (TY16034)

上記の推奨冷却液のどちらも入手できない場合は、以下の仕様に適合するグリコール・ベースの冷却液を使用して下さい。

- ・ ASTM D4985 (JDM H24A2)。

使用する前に容器のラベルを点検し、ご使用の機械に適合した仕様のものであるかを確認して下さい。冷却液は、最初からコンディショナが調合されているものを選ぶか、そうでない場合には使用前にコンディショナを足してから使用します。

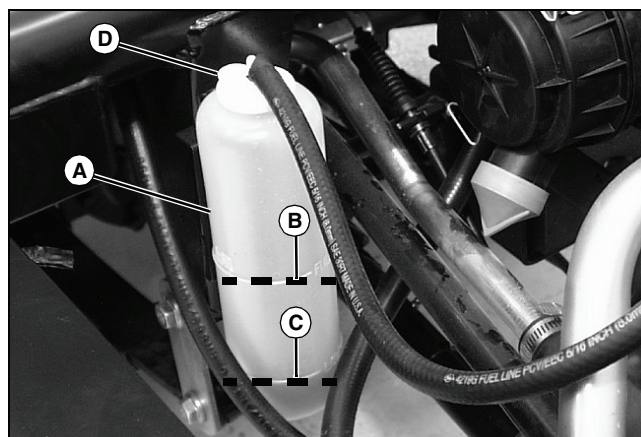
濃縮液を使用する場合は、冷却システムに補充する前に、不凍液が約 50%、蒸留水または脱イオン水が 50% になるように混合します。この混合液には -37℃ までの不凍結効果があります。

特殊な地理的条件下においては、更に低い温度に適応可能な不凍液が必要になります。その場合の最新情報および推奨事項については、ご使用の不凍液のラベルをお読みになるか、またはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。使用する冷却液の最大希釈率を絶対に超えないで下さい。最大率を超えて使用すると、冷却液の効果が大幅に下がります。

冷却システムの整備点検

冷却液レベルの点検 れいきやくえきれべるのてんけん

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

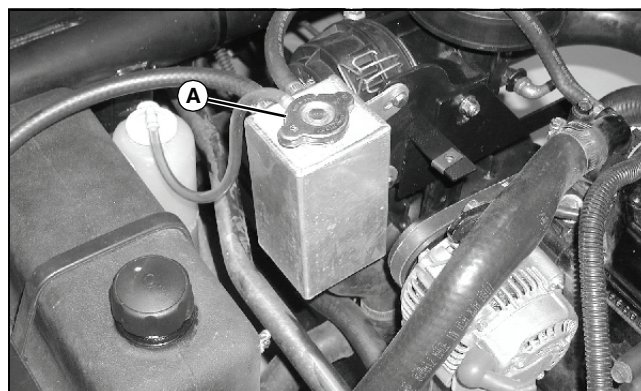


MX1691

3. リカバリ・ボトル (A) の冷却液レベルを点検します。
 - ・ エンジンが暖まっている時は、冷却液レベルは「FULL」ライン (B) と「LOW」ライン (C) の間になっているはずです。
 - ・ エンジンの温度が低い時は、冷却液レベルはリカバリ・ボトルの「LOW」ラインになっているはずです。
4. リカバリ・ボトルのキャップ (D) を外し、冷却液を補充します。
5. 冷却液レベルが低い時は、希釈済みの冷却液または不凍液と水を指定の割合で加えたものを追加します。
6. リカバリ・ボトルのキャップを戻して締めます。
7. 吸気系統、ファン・カバー、ラジエータ冷却フィン、補助オイル冷却コイルからゴミを取り除きます。
8. 冷却液システムのホースとクランプの状態を点検します。接続の緩みや漏れがないかを点検して下さい。

冷却システムの排液

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。(「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)



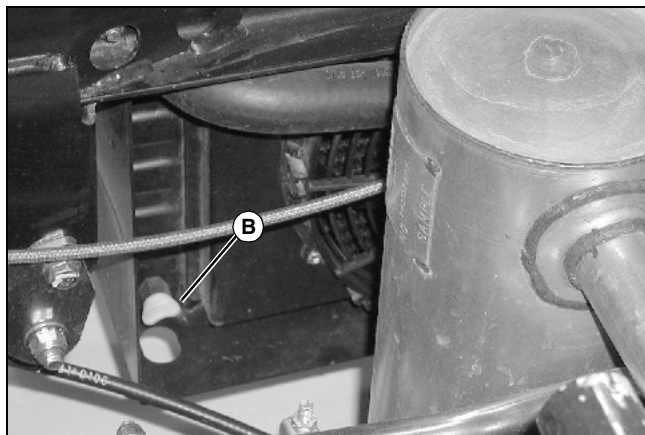
MX24303

3. ラジエータ・キャップ (A) を最初のストッパのところ

整備点検 — エンジン

までゆっくり開け、内部の圧力を全て解除します。

- ラジエータ・キャップをしっかりと閉じます。



MX24304

- ラジエータのペットコック (B) を開きます。冷却液を排液皿に排出します。
- 冷却液をリカバリ・ボトルから排出したら、ラジエータ・キャップを取り外します。
- 冷却液が全部排液されたらラジエータのペットコックを閉めます。
- 冷却システムをフラッシュします。

冷却システムのフラッシュ

- 冷却システムに、清浄水と John Deere Cooling System Cleaner (ジョン・ディア製冷却システム・クリーナ) または John Deere Cooling System Quick Flush (ジョン・ディア製冷却システム・クイック・フラッシュ)、あるいは同等の溶液を注入します。缶容器の説明に従ってください。
- ラジエータのキャップを戻して締めます。
- エンジンをオンにし、作動温度に達するまで作動させます。
- エンジンを止めます。



注意：ケガの防止に留意して下さい。ラジエータは高温になるため、皮膚に火傷を負うおそれがあります。ラジエータ・キャップを取り外す際、蓄積された圧力によって冷却液が急激に噴出する場合があります。

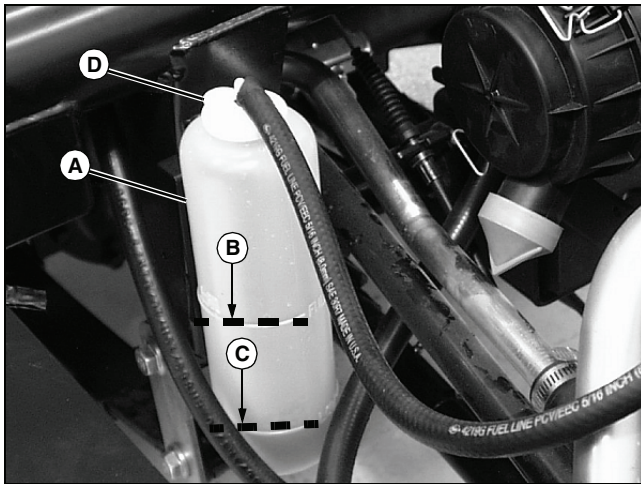
- ・ エンジンを止め、オイルを冷やします。
- ・ ラジエータとエンジンの温度が十分に下がって素手で触れられるようになるまでラジエータ・キャップを開けないで下さい。
- ・ ラジエータ・キャップを最初のストoppaのところまでゆっくり緩め、内部の圧力を全て解除します。この後、キャップを外します。

- ラジエータのペットコックを開きます。
 - ・ さびや汚れが付着しないうちに、速やかに冷却システムを排液します。
 - ・ ペットコックからの排出が遅くなったら、ラジエータ・キャップを最初のストoppaのところまで開けて空気を入れ、排出を完全にします。
- ラジエータのペットコックを閉めます。
- 冷却システムに清浄な水を満たし、システムがきれいになるまでフラッシングを繰り返します。

冷却システムの充填

- 推奨の冷却液を冷却システムに充填します。
 - ・ 特定の地理的条件においては、これ以下の温度からの保護が必要になることがあります。その場合の最新情報および推奨事項については、ご使用の不凍液のラベルをご参照いただくか、またはジョン・ディア代理店までお問い合わせ下さい。
 - ・ ジョン・ディア社の冷却システムシーラーまたは同等の製品をラジエータに加えると、漏れを防ぐことができます。他の添加剤は使用しないで下さい。
- ラジエータのキャップを戻して締めます。
- エンジンが作動温度に達するまで作動させます。
- エンジンを止めます。

整備点検 — エンジン



MX1691

- リカバリ・ボトル (A) の冷却液レベルを点検します。
 - エンジンが暖まっている時は、冷却液レベルは「FULL」ライン (B) と「LOW」ライン (C) の間になっているはずです。
 - エンジンの温度が低い時は、冷却液レベルはリカバリ・ボトルの「LOW」ラインになっているはずです。
- 必要であれば、キャップ (D) を取り外して冷却液を補充します。
- キャップを取り外してある場合には元に戻します。
- 冷却液システムのホースとクランプの状態を点検します。
- 付属装置を下ろします。

燃料フィルタの交換 (ガソリン・モデル)



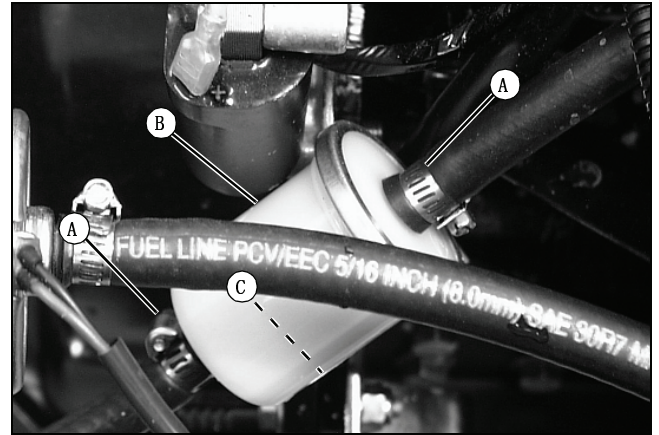
注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料蒸気は爆発性で可燃性です。

- 燃料取り扱い中の喫煙は厳禁です。
- 燃料は火炎やスパークに近づけないで下さい。
- 点検の前にはエンジンを切ってください。
- エンジンが冷えてから点検を行ってください。
- 換気の良い場所で作業を実施して下さい。
- 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。

注記：燃料が少なくなったらフィルタを交換してください。

- 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
- 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安

全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX1738

- ホース・クランプ (A) を緩めてエンジンの右側にあるフィルタ (B) から外します。
- フィルタからのホースの接続を外します。

注記：新しい燃料フィルタを取り付ける場合は、フィルタの矢印 (C) が燃料が流れる方向に一致するように取り付けてください。
- 新しいフィルタを取り付けます。
- 新しいフィルタにホースを接続します。
- ホース・クランプを取り付けます。
- 付属装置を下ろします。

燃料フィルタのセディメント容器 (ディーゼル・エンジン) の整備点検

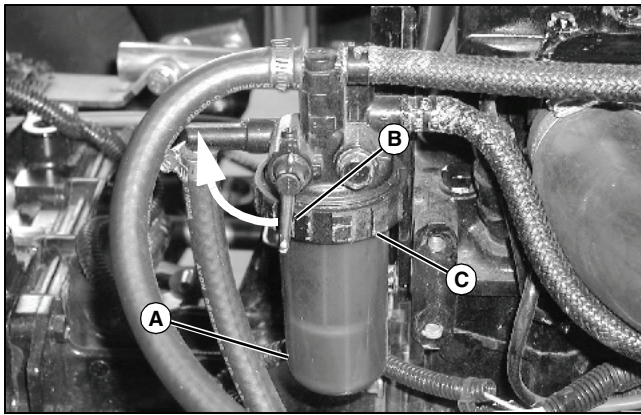


注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料蒸気は爆発性かつ可燃性です：

- 燃料の取り扱い中は喫煙は厳禁です。
- 燃料は火炎やスパークに近づけないで下さい。
- 整備点検の前にはエンジンを切ります。
- エンジンが冷えてから点検を行います。
- 換気の良い場所で作業を実施して下さい。
- 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。

点検

- 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
- 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX23700

3. セディメント容器 (A) 内に水や沈殿物があるかを目視点検します。
4. 必要であれば、容器をきれいにしてフィルタを交換します。

クリーニングと交換

1. 燃料シャットオフ・バルブ (B) を閉じます。
2. カラー (C) を回し、容器とフィルタを取り外します。フィルタは廃棄します。
3. 容器をきれいにします。
4. 新しいフィルタときれいにした容器を取り付けます。
5. カラーを締めます。
6. 燃料シャットオフ・バルブを開けます。
7. 付属装置を下げます。

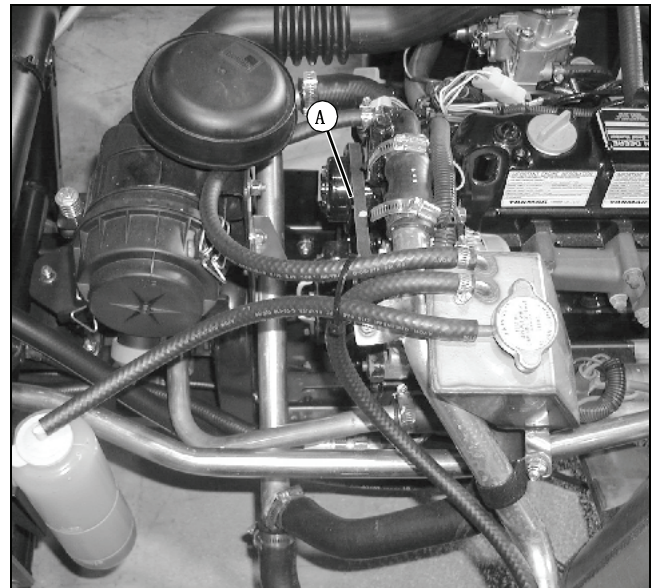
オルタネータ・ベルトの点検と調整



注意：ケガの防止に留意して下さい。シーブやベルトに絡まると、大怪我をする場合があります。エンジンを止めた後、全ての動いている部分が止まるのを待って下さい。

ベルト張力の点検

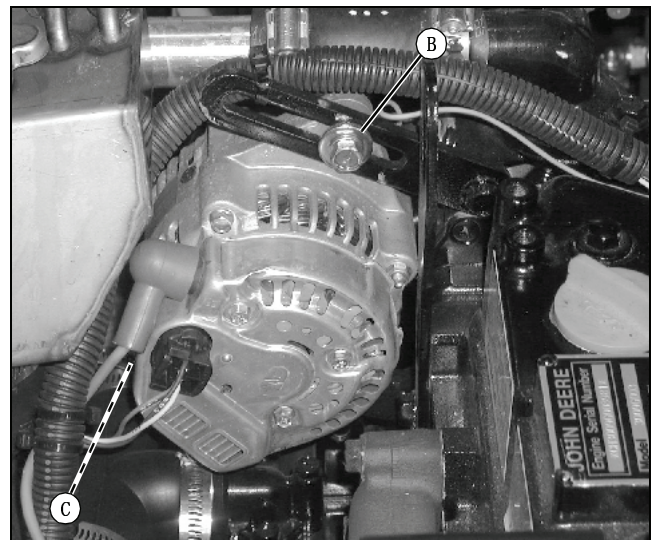
1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX24007

3. オルタネータ・ベルト (A) を点検します。
 - ・ シーブ上の所定位置にある状態で、ベルトに過度の摩耗、破損、伸びがないかを点検します。
 - ・ シーブのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトは約 10 mm (3/8 インチ) 内側にたわむはずです。

ベルト張力の調整



MX24009

1. 調整用ボルト (B) を緩めます。
2. オルタネータの取り付け用ボルト (C) を緩めます。
3. オルタネータ・ハウジングに外向きの圧力を加えます。
4. オルタネータ調整用ボルトと取り付け用ボルトを締めます。
5. ベルト張力を点検します。

整備点検 — エンジン

・ シーブのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトは約 10 mm (3/8 インチ) 内側にたわむはずです。

6. 付属装置を下ろします。

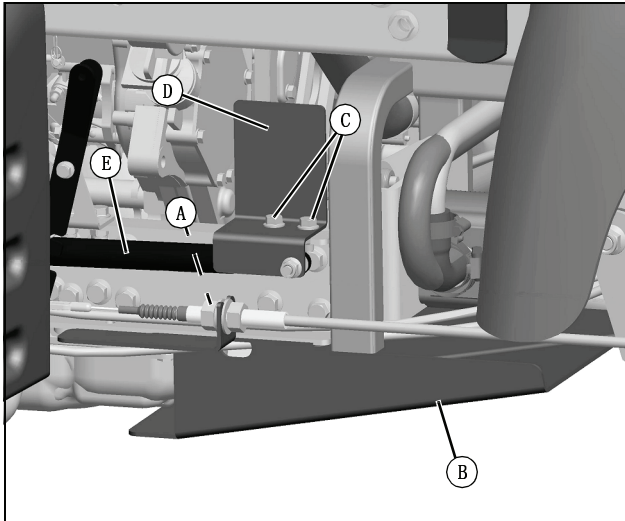
オルタネータ・ベルトの交換



注意：ケガの防止に留意して下さい。シーブやベルトに絡まると、大怪我をする場合があります。エンジンを止めた後、全ての動いている部分が止まるのを待って下さい。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）

2. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）

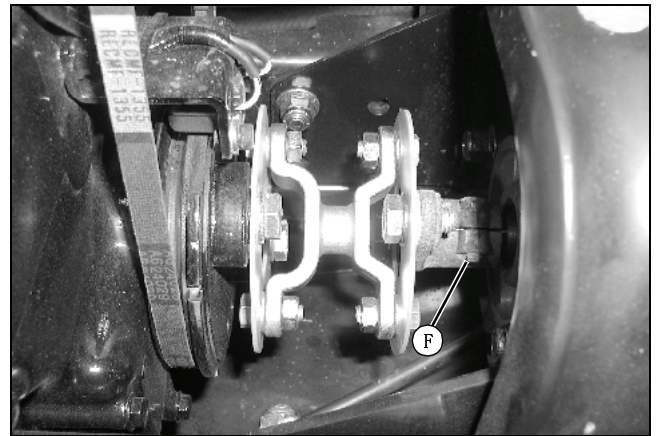


MX44260

3. 2 つのナット (A) とキャップ・スクリュー（各側に 1 つ）を外します。

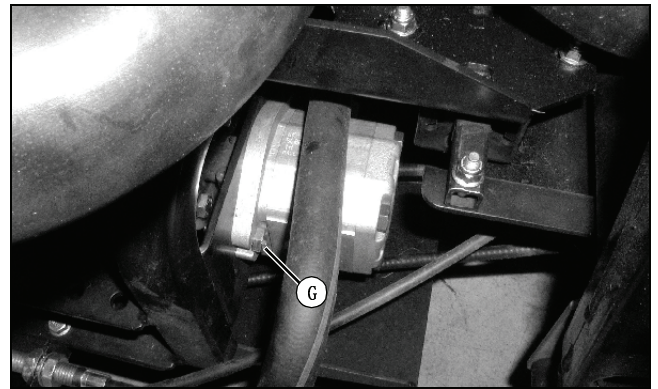
4. 滑りプレート (B) を取り外します。

5. 2 つのキャップ・スクリュー (C)、下の継ぎ手ガード (D)、アブソーバ (E)（装着されている場合）をエンジンから取り外します。



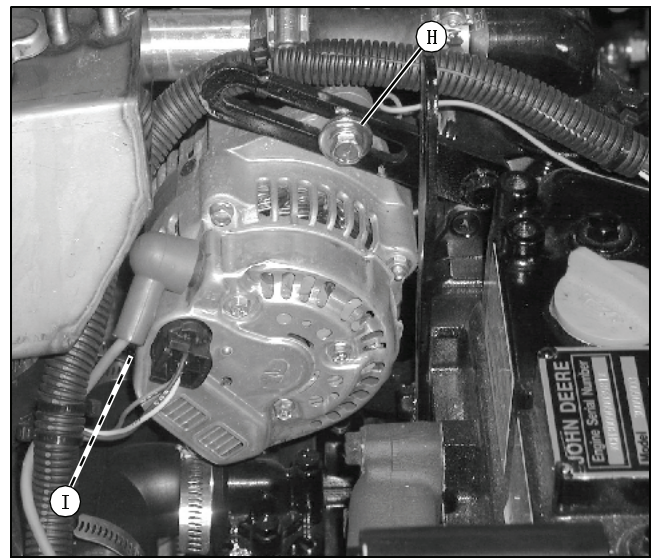
MX24013

6. カップリングを補助ポンプ・シャフトに固定しているスクリュー (F) を緩めます。



MX24151

7. 補助ポンプの両側にあるボルト (G) を外し、ポンプをカップリングから取り外します。



MX24009

8. オルタネータ調整用ボルト (H) と取り付け用ボルト (I) を緩めます。

9. オルタネータを内側に回してベルト張力を緩めます。

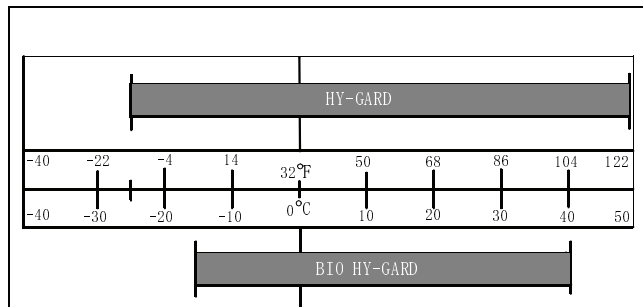
10. オルタネータ・ベルトを交換します。
11. オルタネータを外側に回して、オルタネータのベルトを張ります。
12. 調整用ボルトと取り付け用ボルトを締めます。
13. ベルト張力を点検します。
 - ・ シーブのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトは約 10 mm (3/8 in.) 内側にたわむはずです。
14. 補助ポンプを 2 つのボルトで取り付けます。
15. カップリングを補助ポンプ・シャフトに固定しているスクリューを締めます。トルクを 15 Nm (11 lb-ft.) にします。
16. 継ぎ手ガードを 2 つのキャップ・スクリューで取り付けます。
17. 滑りプレートを 2 つのキャップ・スクリューとナットで取り付けます。
18. 付属装置を下げます。

整備点検－トランスミッション

トランスミッション・オイル

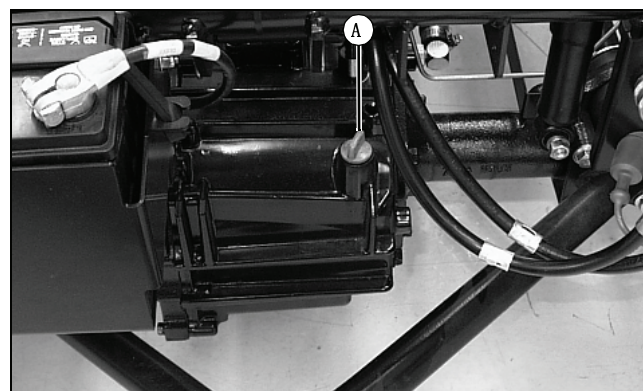
オイルを交換する際は、次の交換に至るまでの間、どの程度の気温が予想されるかを判断し、予想気温に適するオイル粘度を選んで下さい。

下記のジョン・ディア社製トランスミッションおよびハイドロリックオイルを使用して下さい：



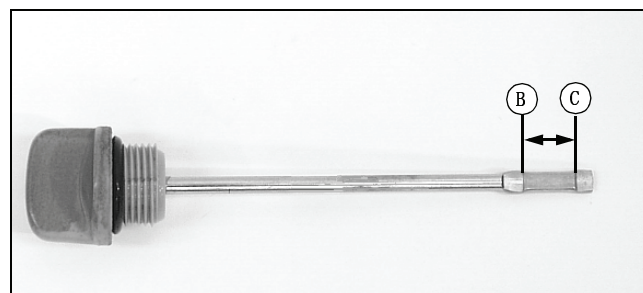
- ・ HY-GARD Ⅱ (JDM J20C)
- ・ BIO HY-GARD Ⅱ

重要：破損しないよう注意してください。このトランスミッションには必ず品質の確かなオイルのみを使用して下さい。また本トランスミッションには決して他のオイルを混合しないで下さい。エンジンオイル、または「Fタイプ (赤)」オートマチック・トランスミッション・フルイドを使用しないで下さい。



MX1663

2. リザーバ給油口キャップ / オイルゲージ (A) の周辺を十分にきれいにします。
 3. 給油口キャップ / オイルゲージを取り外して、清潔な布で拭いてください。
- 注記：**オイルゲージを締めつけないでください。トランスミッション・ハウジングの上にスレッドを置きます。
4. 給油口キャップ / オイルゲージを取り付けます。



MX1647

5. 給油口キャップ / オイルゲージを取り外します。オイルゲージでオイル・レベルを点検します。オイルレベルは、オイルゲージのレベル (B) ～ (C) の範囲である必要があります。
- ・ オイル・レベルが低い時は、オイルゲージの (B) のレベルを超えない範囲でオイルを補充します。
 - ・ オイル・レベルがオイルゲージのレベル (B) を超えている場合は、適量になるまでオイルを抜きます。
6. 給油口キャップ / オイルゲージを取り付けます。

トランスミッション・オイルとフィルタの交換

重要：破損しないよう注意してください。作動油が汚染されると、トランスミッションの破損または故障の原因となることがあります。必要な場合を除き注入口からキャップを外さないでください。

過酷な状況または特殊な状況では、より頻繁に整備点検を行なう必要が生じることがあります。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。 (「安全」セ

トランスミッション・オイル・レベルの点検

重要：破損しないよう注意してください。高温状態では作動油が膨張するため、正しいオイル・レベルは表示されません。オイルの量の点検：

- ・ オイルが冷えている時。
- ・ エンジンが稼働していない場合。

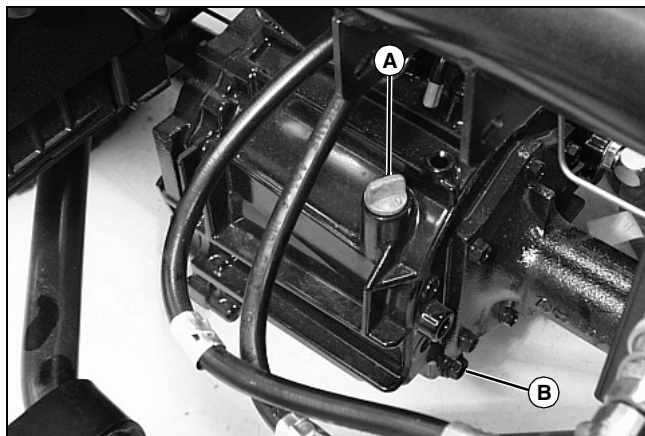
1. 車両を安全に駐車します。 (「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

整備点検—トランスミッション

クションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）

2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）

- ・ エンジンとトランスミッションの温度が下がるまで待ちます。



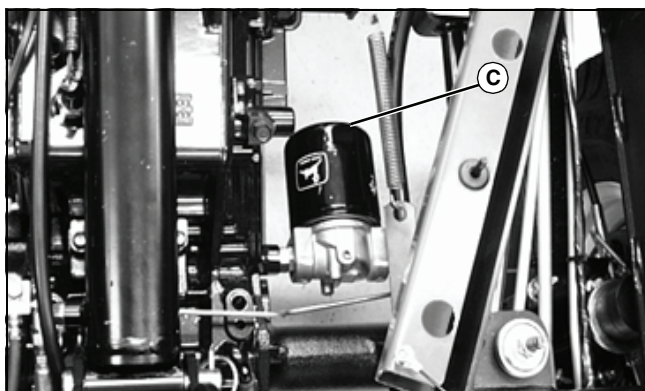
MX1675

3. トランスミッションの注入キャップ / オイルゲージ (A) の周辺をきれいにします。給油口キャップ / オイルゲージを取り外します。

4. トランスミッションの右下にあるドレーン・プラグ (B) に位置を確認します。

5. ドレーン・プラグを取り外します。オイルが 排液皿に排出されるのを待ちます。

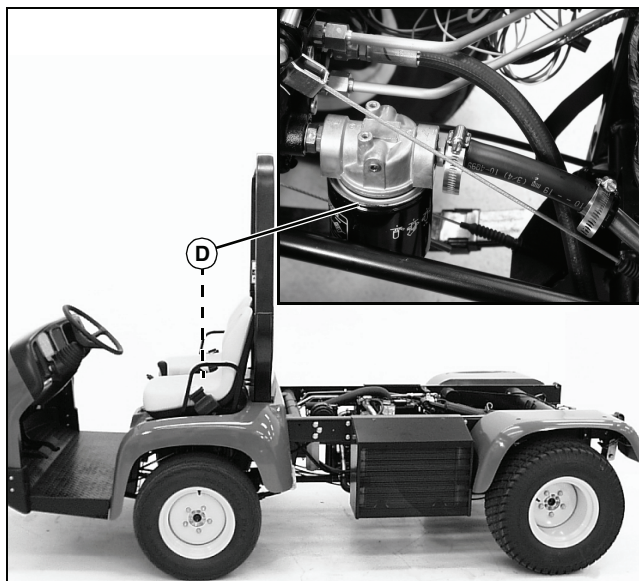
注記：車両に補助油圧キットが装備されている場合は、トランスミッション・フィルタ (C) は車両の右側になります。



MX7256

6. トランスミッション・オイル・フィルタ (C) はトランスアクスルの右側にあります。

注記：補助油圧キットが装備されていない場合は、トランスミッション・フィルタ (D) はコントロール・バルブのすぐ後ろの車両の中心にあります。



MX7261 MX1654

a. 標準マシンのトランスミッション・オイル・フィルタ (D) は、コントロール・バルブの後ろの中央にあります。

7. フィルタを反時計回りに回して取り外します。排液皿でオイルの滴りを受けます。

8. 新しいフィルタを取り付けます。

- ・ 新しいフィルタのガスケットに汚れのないエンジン・オイルを薄く塗ります。

- ・ ガスケットが取り付け面に接触するまでフィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、1/2 ~ 3/4 回転分、さらに締めます。

9. トランスミッション・オイル・ストレーナーをきれいにします。

10. ドレーン・プラグを再び取り付け、49 N 瀬 (16.33 kg-ft) に締めます。

11. 推奨される液体を給油口から注入します。

注記：オイルゲージを締めつけないでください。トランスミッション・ハウジングの上にスレッドを置きます。

12. 給油口キャップ / オイルゲージを取り付けます。

13. 給油口キャップ / オイルゲージを取り外します。オイルの量を点検します。必要に応じてオイルを追加または抜きます。

14. 給油口キャップ / オイルゲージを取り付けます。

15. 付属装置を下ろします。

整備点検—トランスミッション

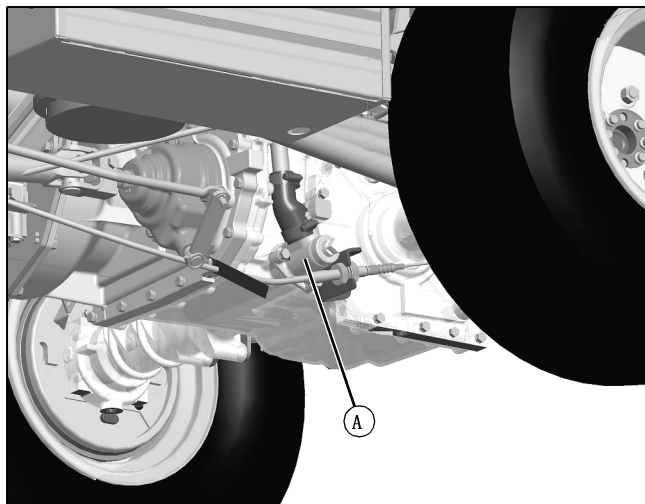
トランスミッション・オイル・ストレナの洗 浄



注意：ケガの防止に留意して下さい。オイル・ストレナを手入れする場合は、十分に注意してください。マシンの作動中は作動油の温度が高くなるため、注意が必要です。

注記：トランスミッション・オイルとフィルタを交換する場合は、定期的にストレナを洗浄してください。ストレナの点検は、トランスミッションが空の場合に行ってください。

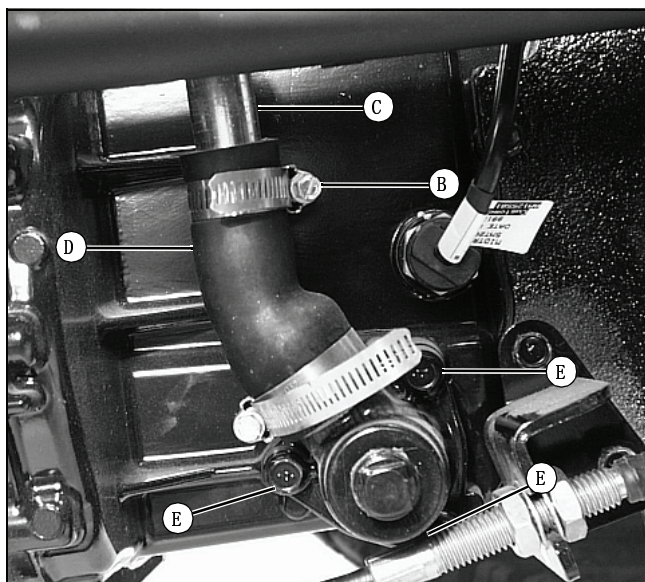
1. トランスミッション・オイルとフィルタを交換します。



MX44262

2. 車両の左側には、ストレナ・ハウジング (A) があります。

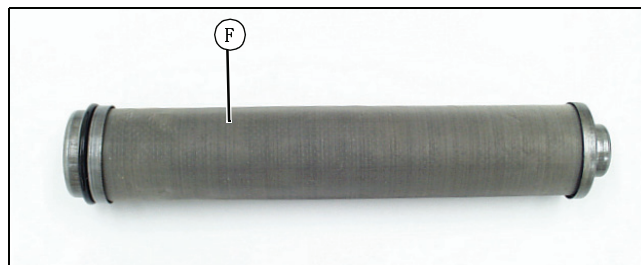
注記：排液皿でオイルの滴りを受けます。



MX1723

3. 調節可能タイプのホース・クランプ (B) を緩めます。

4. 油圧パイプ (C) をゴム・ホース (D) から外します。
5. 3 個のヘクス・ボルト (E) を緩めて外します。
6. ストレナ・ハウジングとストレナを取り外します。



MX1718

7. 溶剤またはミネラル・スピリットを使用し、ストレナ (F) を洗浄して乾かします。
8. ストレナをストレナ・ハウジングに取り付けます。
9. ストレナ・ハウジングを取り付けます。
10. 3 個のヘクス・ボルト (E) を取り付けて締めます。
11. ゴム・ホース (D) を油圧パイプ (C) に取り付けます。
12. ホース・クランプ (B) を調整して締めます。

グリース

重要：破損しないよう注意してください。部品の不具合や早期の磨耗を避けるため、ジョン・ディア社製の推奨グリースを使用して下さい。

ジョン・ディア製の推奨グリースの場合、 $-29 \sim 135^{\circ}\text{C}$ ($-20 \sim 275^{\circ}\text{F}$) の気温範囲の使用に適しています。

この温度範囲の枠外で使用する場合は、特別用途のグリースについてお近くのサービス代理店までお問い合わせ下さい。

下記のグリースが推奨されます：

- ・ ジョンディア製汎用 SD リチウム・ポリ尿素グリース (John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease)
- ・ ジョンディア製汎用 HD リチウム錯体グリース (John Deere Multi-Purpose HD Lithium Complex Grease)

推奨グリース以外のグリースを使用する場合は、必ず NLGI グレード 2 級を満たす標準の汎用グリースをお選び下さい。

水分を多く含む環境や高速での作業の場合、特別用途のグリースが必要になることがあります。詳しくはお近くのサービス・ディーラーまでご連絡下さい。

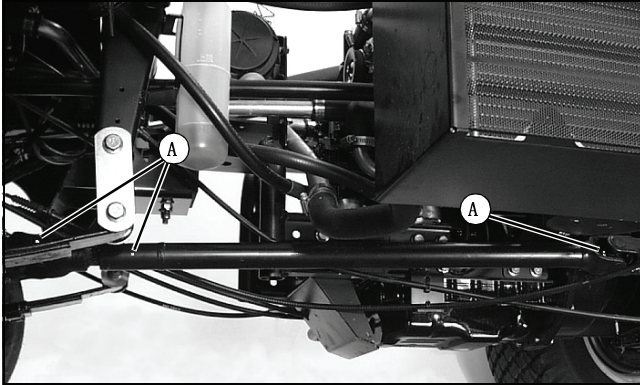
推奨される潤滑油は以下のとおりです：

- ・ SUPER LUBE I 潤滑油¹

整備点検—トランスミッション

ドライブ・シャフトの潤滑化（4WD モデル）

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX1702

2. ドライブ・シャフトの 3 つのグリース・フィッティング（A）に、ジョンディア製 SD ポリ尿素グリースか同等のグリースを塗ります。

1. *SUPER LUBE* は、*Synco Chemical Corp.* の登録商標です。

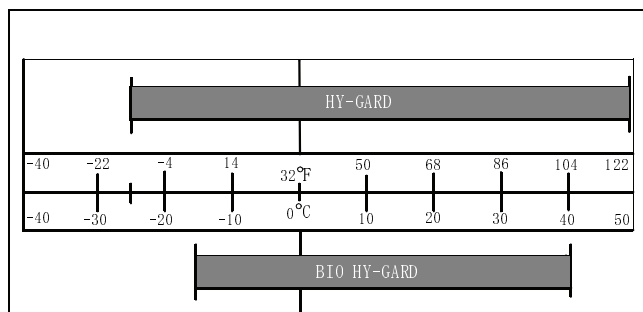
整備点検

作動油

オイルを交換する際は、次の交換に至るまでの間、どの程度の気温が予想されるかを判断し、予想気温に適するオイル粘度を選んで下さい。

下記のジョン・ディア社製トランスミッションおよびハイドロリックオイルを使用して下さい：

- ・ HY-GARD ™ (JDM J20C)
- ・ BIO HY-GARD ™



重要：破損しないよう注意してください。この補助オイル冷却リザーバーには必ず品質の確かなオイルのみを使用して下さい。またこのオイル・リザーバーには決して他のオイルを混合しないで下さい。このリザーバーにはエンジンオイル、または「Fタイプ (赤)」オートマチック・トランスミッション・フルイドを使用しないで下さい。

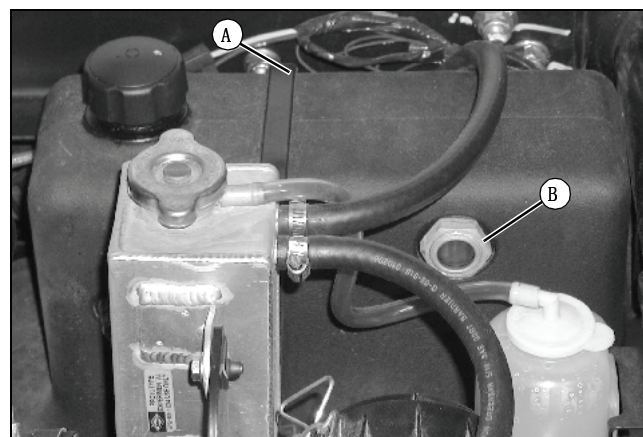
作動油レベルの点検

重要：破損しないよう注意してください。高温状態では作動油が膨張するため、正しいオイル・レベルは表示されません。オイルの量の点検：

- ・ オイルが冷えている時。
- ・ エンジンが稼働していない場合。

注記：作動油リザーバ・タンクにはオイルを入れ過ぎないで下さい。作動中にオイルが膨張してタンクから溢れる恐れがあります。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX24014

3. 補助オイル・リザーバー (A) は、マシンの左側にあります。
4. サイト・グラス (B) のオイルの量を目視で点検します。
5. 必要に応じてオイルを補給します。
6. 付属装置を下げます。

予備油圧装置の整備点検



注意：ケガの防止に留意して下さい。高圧液体ラインから漏れた液は、皮膚を貫通して重傷に至らせる危険があります。油圧ラインや他のラインの接続を切る時は、あらかじめ圧力を解除して危険を回避して下さい。圧力をかける前に接続部分をすべて締め直します。ボール紙を使って漏れの有無を点検します。手や身体が高圧液に触れないよう十分に注意して下さい。

作動油を補充したり抜いたりする時には慎重に行ってください。機械作動中は作動油リザーバの温度が高くなるため、注意が必要です。整備点検は、必ずエンジンとオイル・リザーバの温度が十分に下がってから始めて下さい。

重要：破損しないよう注意してください。作動油が汚染されると、トランスミッションの破損または故障の原因となることがあります。オイル・リザーバ・キャップは、必要な場合以外は決して開けないで下さい。

過酷な状況または特殊な状況では、より頻繁に整備点検を行なう必要が生じることがあります。

注記：この整備点検方法は、予備油圧キットが装備された車両にのみ適用されます。

液体の排出とフィルタの交換

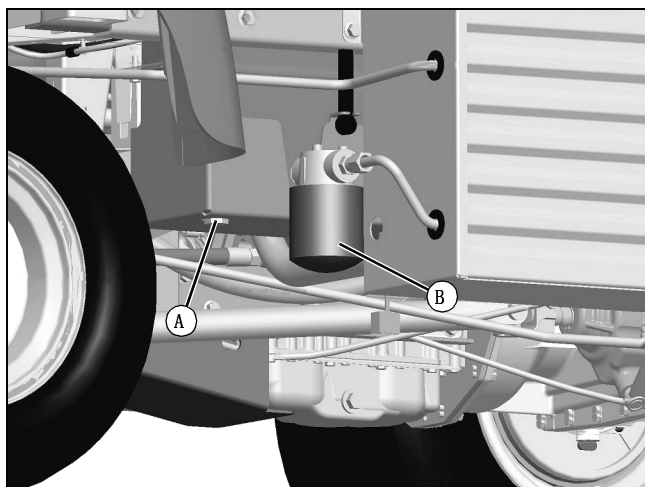
1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セ

整備点検

クションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。)

2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

3. エンジンとオイル・リザーバを冷却できます。



MX44258

4. 車両の左側にあるオイル・リザーバの下にあるドレーン・プラグ (A) を見つけます。

5. オイル抜き部位の下に容器を置きます。

6. ドレーン・プラグを外してオイルを抜きます。

7. 油圧キットが取り付けられているときは、車両の左側にある油圧オイル・フィルタ (B) を外します。

8. フィルタを反時計回りに回して取り外します。排液皿でオイルの滴りを受けます。

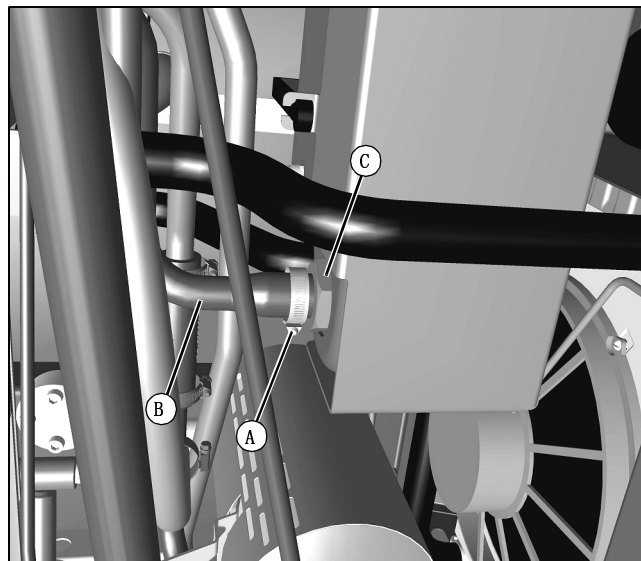
9. 新しいフィルタのガスケットに汚れのないエンジン・オイルを薄く塗ります。

10. ガスケットが取り付け面に接触するまでフィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、1/2 ~ 3/4 回転分、さらに締めます。

11. ドレーン・プラグを戻します。締め付け過ぎないように注意して下さい。

作動油ストレーナの清掃

注記：作動油およびフィルタを交換する際は、ストレーナの清掃を習慣づけて下さい。ストレーナに作業を加える場合は、作動油タンクが空の状態で行って下さい。



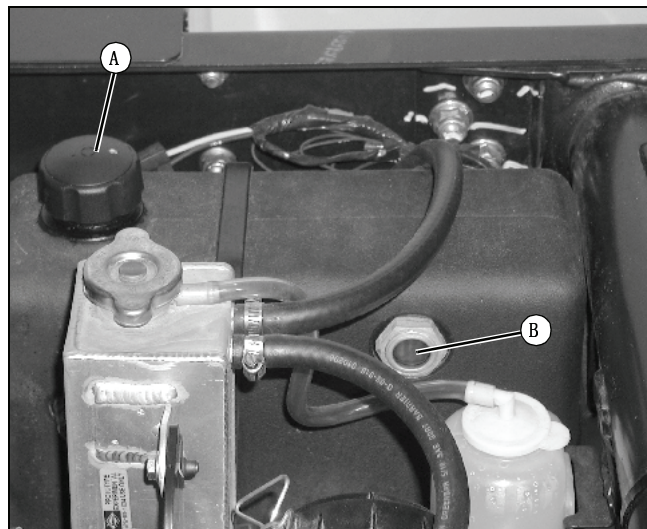
MX44259

図注：機械底面からの図。

1. 調節可能タイプのホース・クランプ (A) を緩めます。
2. ストレーナ (C) からゴム製ホース (B) を取り外します。
3. 動作油タンクからストレーナを外します。
4. ストレーナを溶剤またはミネラル・スピリットで洗って乾かします。
5. 動作油タンクにストレーナを取り付けます。
6. ゴム製ホースをストレーナに取り付けます。
7. アジャスタブル・ホース・クランプを締めます。

整備点検

リザーバを満たします。



MX24014

1. キャップ (A) の周りを完全にきれいにします。
2. リザーバ・タンクからキャップを外します。
3. 推奨されている液体でオイル・リザーバを満たします。
4. エンジンを始動させます。
5. 油圧 PTO レバーをおよそ 3 秒回します。漏れがないかを点検します。
6. エンジンを止めます。
7. オイル・レベルを点検します。オイル・レベルがサイト・グラス (B) で見えるように、必要に応じてオイル・リザーバを調整します。
8. 付属装置またはカーゴ・ボックスを下げます。

オイル冷却器のクリーニング



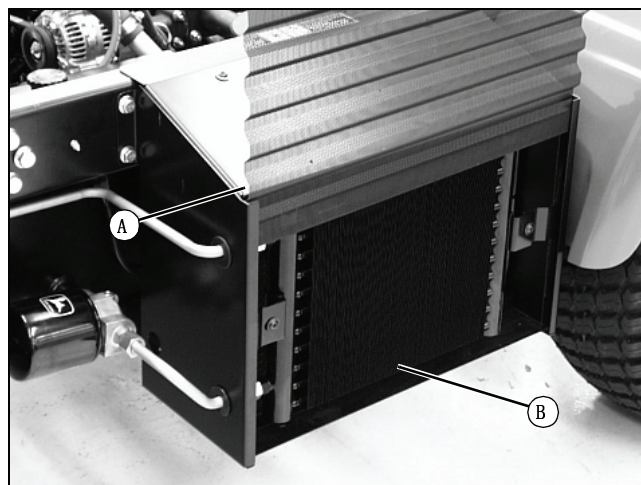
注意：ケガの防止に留意して下さい。圧縮空気を使用すると埃や異物が遠くへ飛び散ることがあります。

- ・ 作業スタッフ以外の人を周囲に近づけないで下さい。
- ・ 清掃のために圧縮空気を使用する際は、目を保護するためにゴーグルを着用して下さい。
- ・ 圧縮空気を 30 psi (210 kPa) まで減圧します。

重要：破損しないよう注意してください。冷却ファンは、エンジンの過熱を防止し、清浄な空気を取り入れるために、清潔にしておく必要があります。

注記：この点検保守は、補助油圧キットが装備されている車両で行う必要があります。

1. 付属装置を整備点検の位置まで上げます。（「安全」セクションの「リフト・シリンダの安全用サポートの操作」の項を参照して下さい。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）



MX1726

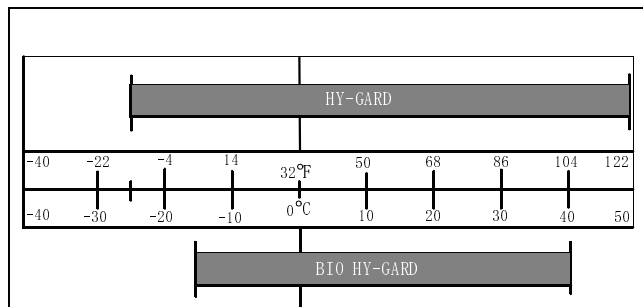
3. エンジン・ラジエータの前の位置から吸気口スクリーン (A) を上にあげます。
4. 圧縮空気や水を使用してオイル冷却器コイル (B) からゴミや汚れを取り除きます。コイルが損傷していないか点検します。
5. 吸気口スクリーンを取り付けます。
6. 付属装置を下げます。

整備点検－ステアリング&ブレーキ

フロント・アスクルのオイル

オイルを交換する際は、次の交換に至るまでの間、どの程度の気温が予想されるかを判断し、予想気温に適するオイル粘度を選んで下さい。

下記のジョン・ディア社製油圧オイルを推奨します：



- ・ HY-GARD ㊦ (JDM J20C)
- ・ BIO HY-GARD ㊦

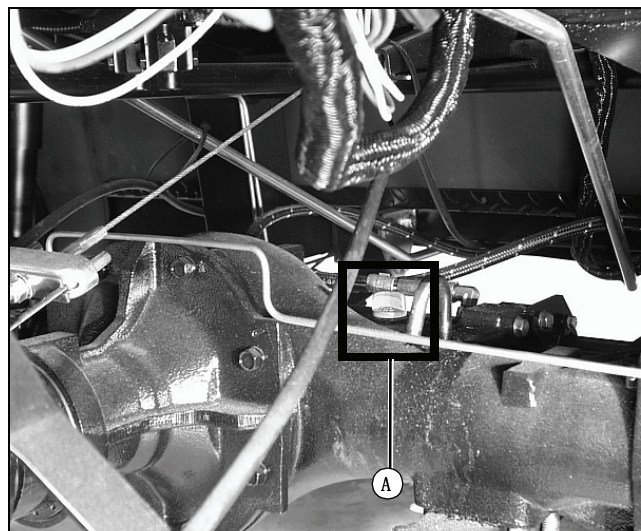
重要：破損しないよう注意してください。ギア・ケースに使用するオイルは、必ず品質のしっかりしたものを選んで下さい。ギア・ケース用のオイルには絶対に他の種類のオイルを混ぜないで下さい。

フロント・アスクルのオイル・レベルの確認 (4WD モデル)

IMPORTANT: Avoid damage! オイル・レベルをチェックする前に、フロント・アスクルのオイルが冷えるまで待ちます。

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

重要：破損しないよう注意してください。オイルにゴミや異物が含まれていると、故障の原因になります。汚染物質がオイルゲージの場所から混入しないよう注意して下さい。オイルゲージを抜く前に必ず周辺をきれいにして下さい。

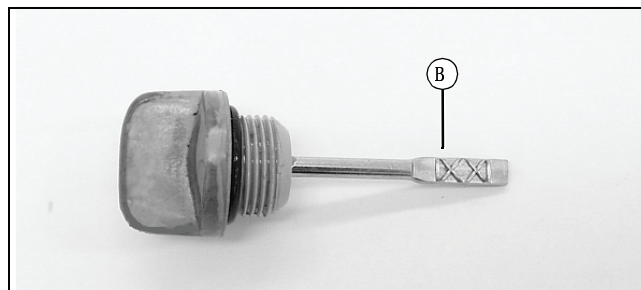


MX1694

2. ディップスティック (A) を回して、アスクルから外します。
3. ディップスティックをきれいな布で拭いて乾燥させます。

注記：ディップスティックを強く締めないでください。スレッドが車軸ケースの上にくるようにしてください。

4. ディップスティックを車軸ケースの中に差し込みます。



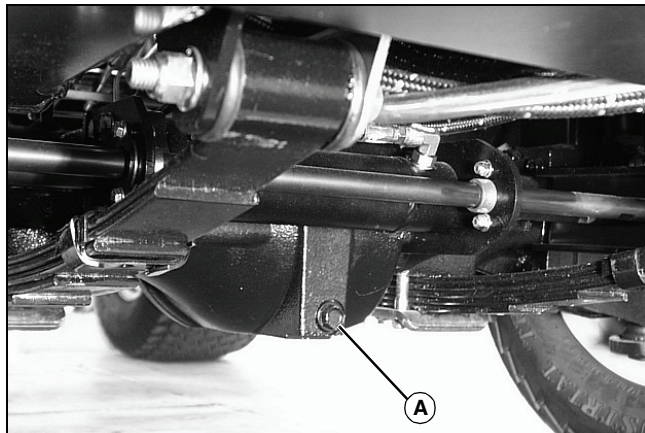
MX1696

5. ディップスティックを抜き取ります。適切なオイル・レベルは、ディップスティックのレベル (B) です。
 - ・ オイルがこのレベルより低い場合は、オイルを追加します。オイル・レベルは、ディップスティックの XX エリア (B) の頂点に達する必要があります。
6. ディップスティックを元に戻し、固定します。

整備点検—ステアリング&ブレーキ

フロント・アクスル・オイル (4WD モデル) の交換

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)
2. オイル抜き部位の下に容器を置きます。



MX1695

3. 別のドレーン・プラグ (A) を取り外し、オイルを抜きます。
4. ドレーン・プラグを取り付け、締めます。

重要：破損しないよう注意してください。オイルにゴミや異物が含まれていると、故障の原因になります。汚染物質がオイルゲージの場所から混入しないよう注意して下さい。オイルゲージを抜く前に必ず周辺をきれいにして下さい。

5. ディップスティックを緩めて、差動ハウジングから取り外します。
6. ディップスティック開口部から推奨の液体を加えます。
7. ディップスティックをきれいな布で拭いて乾燥させます。

注記：ディップスティックを強く締めないでください。スレッドを開いているディップスティックの上に置きます。

8. オイルゲージを差し込みます。
9. オイルゲージを抜き取ります。オイルの量は、ディップスティックの XX 範囲の一番上になっている必要があります。

- ・ オイルがそれより少ない場合は、オイルの量がディップスティックの XX 範囲の一番上になるまでオイルを追加します。

10. ディップスティックを元に戻し、固定します。

注記：オイルが、フロント・アクスル・ハウジングを通してゆっくりと流れます。操作の開始から数時間にもう一度オイルの量を点検します。

ブレーキ液

すべてのドラムとディスクブレーキには、以下のヘビードューティブレーキ液を推奨します。

- ・ ブレーキ液 - DOT3

以下に準じている場合は、他のブレーキ液を使用できます。

- ・ 自動車の安全装置の基準 No. 116 に準拠。
- ・ 最小ウェット沸点 140° C (284° F)。
- ・ ベーパーロックを防ぐための最小ドライ沸点 232° C (450° F)。

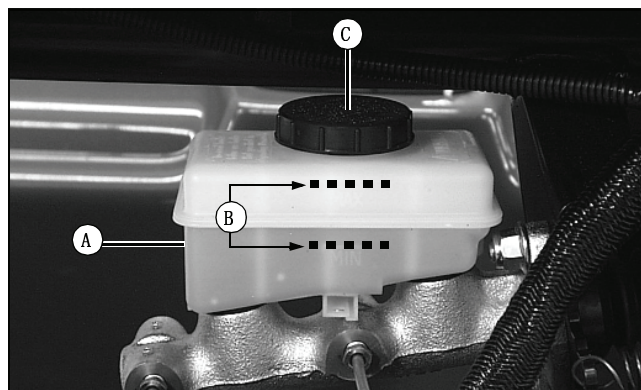
ブレーキ液の量を点検する

重要：破損しないよう注意してください。ブレーキ液に汚染物質が入らないようにしてください。取り外す前に注入口キャップの周辺をきれいにします。ブレーキ液リザーバ・キャップは、どうしても必要な場合以外は決して開けないで下さい。

リザーバーは慎重に注入してください。液体がペイントされた面にこぼれると損傷の原因になります。

密閉された容器に入っているブレーキ液のみを使用してください。

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)
2. フロント・グリルをまっすぐ引いて取り外します。



MX1682

3. 透明リザーバー (A) から目視で液体の量が適切であるかどうかを確認します。

- ・ 液体の量は「MAX」最大フィルラインから「MIN」最小フィルライン (B) の間にある必要があります。
- ・ 「MIN」最小フィルライン以上の場合、キャップを開かないでください。

4. 液体の量が少ない場合：

- ・ リザーバー・キャップ (C) の周辺をきれいにしま

整備点検－ステアリング&ブレーキ

す。キャップを緩めます。

- ・ リザーバーの最大および最小のフィルライン間の中央ぐらいまで注入します。

5. リザーバー・キャップを取り付けます。こぼれた液体は拭き取ります。

6. フロント・グリルを取り付けます。

警告： バッテリー・ポストやターミナル、関連アクセサリには、カリフォルニア州で癌および生殖不全の原因として認知されている、鉛ならびに鉛成分、化学物質が含まれています。バッテリーを取り扱った後は手を洗ってください。

バッテリーの安全な整備点検



注意： ケガの防止に留意して下さい。バッテリーの電解液には硫酸が含まれています。硫酸は有毒で、重症の火傷を起こす危険性があります。

- ・ 目の保護用のゴーグルおよび手袋を着用して下さい。
- ・ 皮膚を露出させずに覆って保護して下さい。
- ・ 電解液を飲み込んだ場合、直ちに医師の処置を受けて下さい。
- ・ 電解液が飛び散って目に入った場合は、直ちに水で 15 ～ 30 分間洗眼し、医師の手当てを受けます。
- ・ 電解液が皮膚にかかった場合は直ちに水で洗い流し、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

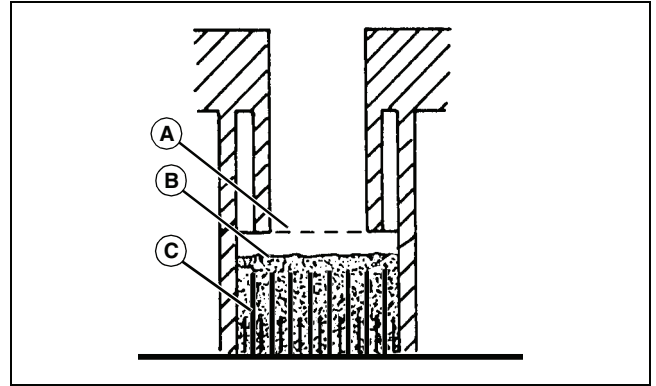
バッテリーからは可燃性で爆発性のガスが発生します。バッテリーは爆発する可能性があります：

- ・ バッテリーの近くでは喫煙しないで下さい。
- ・ 目の保護用のゴーグルおよび手袋を着用して下さい。
- ・ バッテリーのプラス・マイナスの極ポスト間を金属で直結しないようにして下さい。
- ・ 接続を外す際は、最初に（－）極側のケーブルを取り外します。
- ・ 接続する時は（－）極側のケーブルを最後に取り付けます。

バッテリーの電解液レベルの点検

注記： バッテリー電解液の補充には蒸留水のみを追加して下さい。

1. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）
2. バッテリーのセル・キャップを取り外します。キャップの通気孔が塞がっていないことを確認します。



M39772

3. 電解液レベルを点検します。電解液（B）は、補給孔（A）底部と電極板（C）上部のほぼ中央の位置でなければなりません。

重要： 破損しないよう注意してください。バッテリーには充填し過ぎないようにして下さい。バッテリーを充電した際に電解液があふれて破損することがあります。

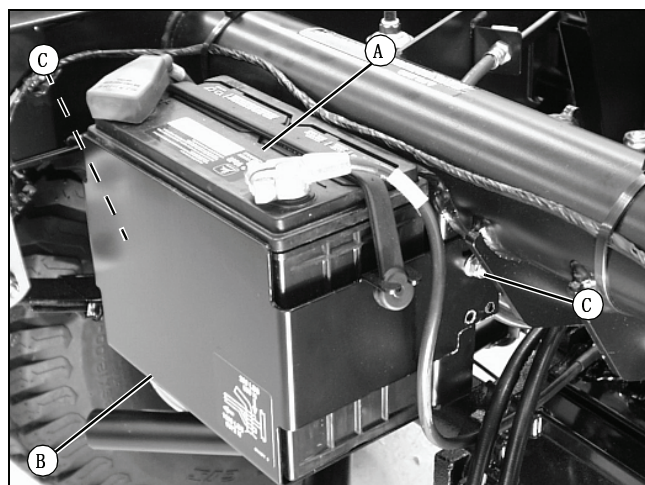
4. 必要に応じて蒸留水のみを加えます。
5. バッテリーのセル・キャップを取り付けます。

バッテリーとバッテリー端子の清掃

1. 機械を安全に駐車します。
2. バッテリーの接続を外して取り外します。
3. 溶液 4.5 4 ソーダ溶液がバッテリー・セルに入らないよう十分注意して下さい。
4. 水だけでバッテリーをすすぎ、乾燥させます。
5. ワイヤ・ブラシを使用し、端子とバッテリー・ケーブルの端部が明るくなるまできれいにします。
6. バッテリーを取り付けます。
7. ワッシャとナットを使用してケーブルをバッテリー端子に取り付けます。
8. 腐食防止のため、スプレー式潤滑剤を端子に塗布します。

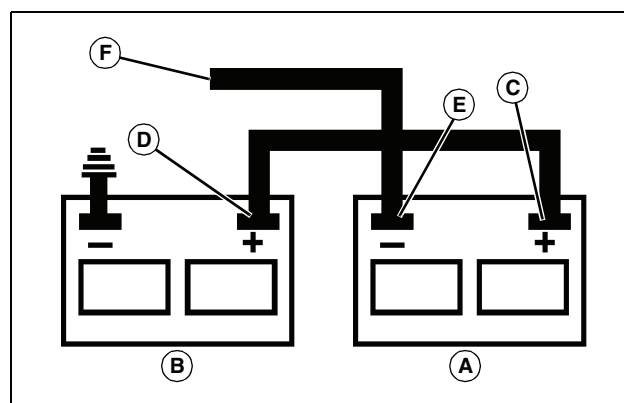
バッテリーの交換

注記：サービス・バッテリーは奥行きがわずかにあるため、バッテリー・ブラケットの取り外しが必要になる場合があります。バッテリー・ブラケットには、2つのセットの取り付け穴があります。



MX7254

1. バッテリーを (A) ブラケット (B) から外します。
2. ブラケットの両側と底にある金具 (C) を外します。
3. ブラケット (B) を別の穴まで滑らせ、奥行きのあるサービス・バッテリーを固定できるようにします。
4. 先に外した金具を取り付けて締めます。
5. バッテリーを取り付けます。



M71044

- A - ブースタ・バッテリー
B - 動かなくなった車両のバッテリー

1. (+) 極のブースタ・ケーブルをブースタ・バッテリー (A) の (+) 極ポスト (C) に接続します。
2. (+) 極のブースタ・ケーブルの另一端を、動かなくなった車両のバッテリー (B) (+) 極ポスト (D) に接続します。
3. (-) 極のブースタ・ケーブルをブースタ・バッテリーの (-) 極ポスト (E) に接続します。

重要：破損しないよう注意してください。 ブースタ・バッテリーの電流は機械の部品を破損させることがあります。マイナス (-) 極のブースタ・ケーブルは機械のフレームに接続しないで下さい。エンジン・ブロックにのみ接続して下さい。

マイナス極のブースタ・ケーブルは、エンジン部にあるベルトやファンブレードなどの可動部から離して接続して下さい。

4. マイナス (-) 極のブースタ・ケーブルの他端 (F) を、バッテリーから離れたところにあるダウンした車両のエンジン・ブロック金属部につなぎます。
5. 動かなくなった機械のエンジンを始動し、機械を数分間稼働させて下さい。
6. 接続時と完全に逆の順序でブースタ・ケーブルを慎重に外します。マイナスのケーブルが最初で、次にプラスのケーブルの順番です。

ブースタ・バッテリーの使用

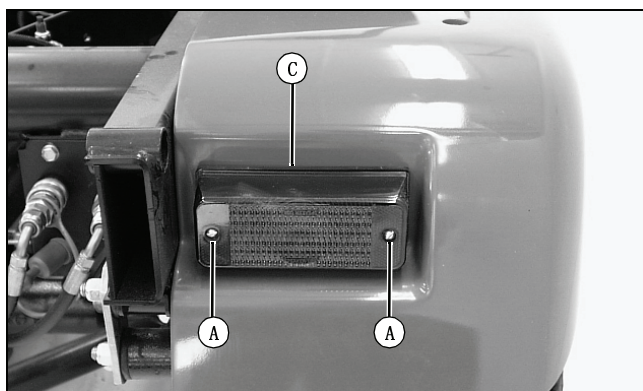


注意：ケガの防止に留意して下さい。バッテリーからは可燃性で爆発性のガスが発生します。バッテリーは爆発する可能性があります：

- ・ バッテリー周辺では、喫煙または裸火の使用を行わないで下さい。
- ・ 目の保護用のゴーグルおよび手袋を着用します。
- ・ バッテリーが凍結した状態ではジャンプスタートや充電を行わないで下さい。バッテリーは 16 °C (60 ° F) まで温まってから使用して下さい。
- ・ マイナス (-) 極のブースタ・ケーブルを空のバッテリーのマイナス (-) 極につながらないで下さい。空のバッテリーから十分距離をおいてアースを取って下さい。

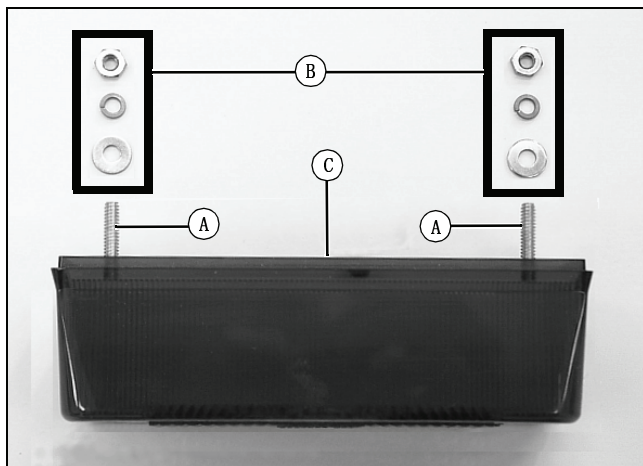
ストップライト / テールライト・バルブの交換

1. 車両を安全に駐車します。 (「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)



MX1664

2. ネジ (A) を外します。



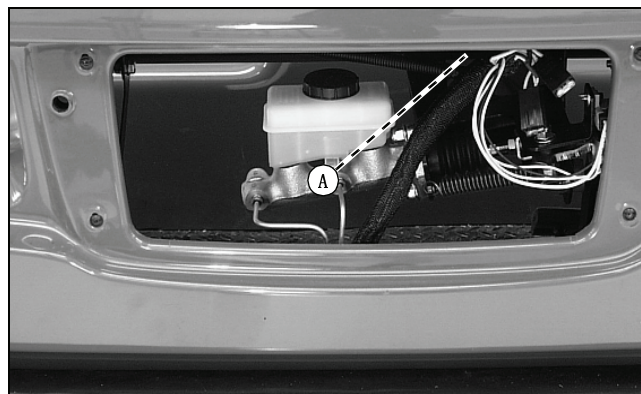
MX1666

3. 取付金具 (B) とレンズ (C) をストップライト / テールライトのアセンブリから外します。
4. 切れたバルブを外します。
 - ・ バルブ・アセンブリを時計回りと反対方向におよそ 1/3 回してソケットから外します。
5. 新しいバルブをソケットに取り付けます。
 - ・ バルブの上部を押して、固定位置に時計回りに回します。
6. ライトの作動を点検します。
7. レンズを取り付けます。

表示ライト・バルブの交換

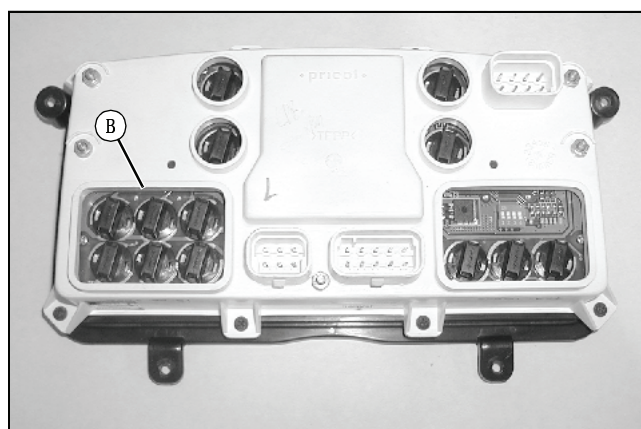
1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)
2. フロント・グリルを取り外します。

注記：写真を明確にするために外された計器パネル・ハウジング



MX1680

3. 計器パネル・ハウジング (A) の後部を見つめます。

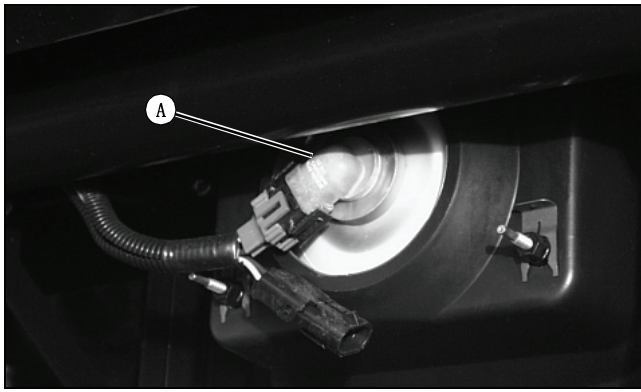


MX23994

4. 表示ライトのバルブ・アセンブリを見つけるために、ゴム製プラグを外します。
5. 故障したバルブ・アセンブリ (B) を計器パネル・ハウジングから外します。
 - ・ バルブ・アセンブリを時計回りと反対方向におよそ 1/3 回してハウジング・ソケットから外します。
6. 新しいバルブ・アセンブリをハウジング・ソケットに取り付け、ロック位置まで時計回りに回します。
7. ライトの作動を点検します。
8. ゴム製プラグを取り付けます。
9. フロント・グリルを取り付けます。

ヘッドライト・バルブの交換

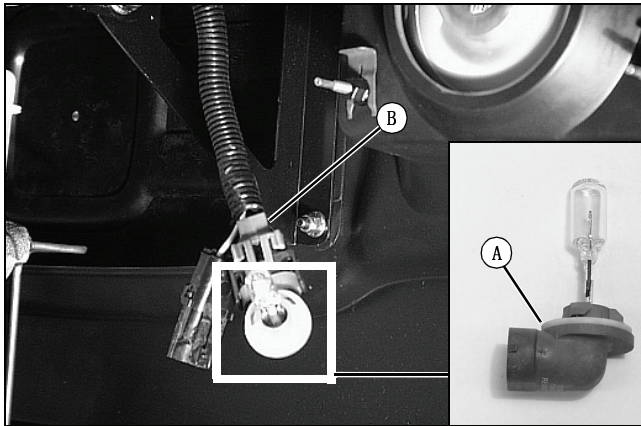
1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)
2. ダッシュの下へのヘッドライト・ハウジングを見つめます。



MX1683

- バルブ・アセンブリ (A) を時計回りと反対方向におよそ 1/3 回してソケットから外します。

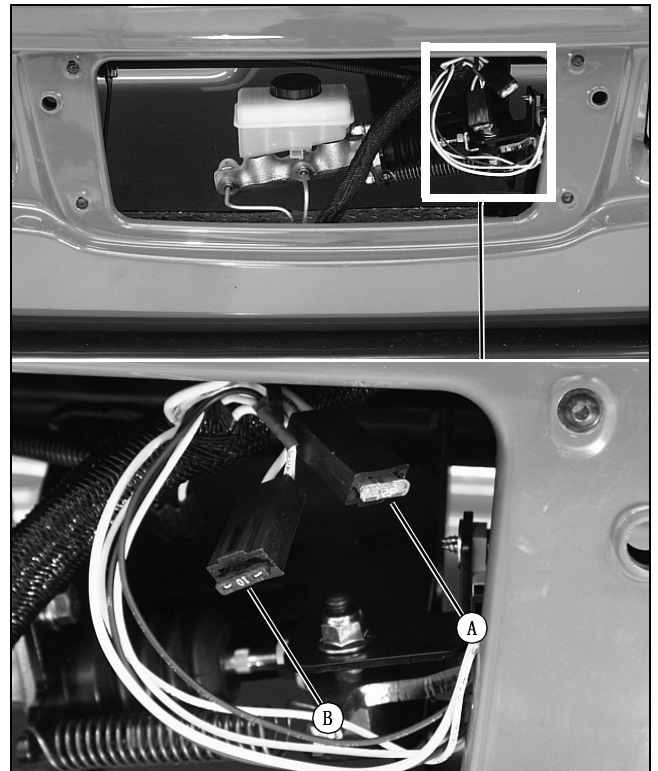
重要：破損しないよう注意してください。素手でガラス・ヘッドライトの電球に触らないでください。電球の寿命が早まります。電球を点検または交換する場合は、手袋や布を使用してください。



MX1648 MX1684

- ワイヤ・ハーネス (B) をバルブ・アセンブリから外します。
- 交換用のバルブ・アセンブリ (A) にワイヤ・ハーネスを取り付けます。
- 新しいヘッドライト・バルブ・アセンブリをハウジング・ソケットに取り付け、ロック位置まで回します。
- ライトの作動を点検します。

- フロント・グリルを取り外します。
- ヒューズの識別：



MX1680 MX1681

- ・ 25 アンペア・ヒューズ (A) ・ ライト回路
 - ・ 10 アンペア・ヒューズ (B) ・ スタータ回路
- 不良ヒューズを交換します。
 - ・ ヒューズ・ホルダーから不良ヒューズを取り外します。
 - ・ 新しいヒューズを取り付けます。
 - フロント・グリルを取り付けます。

ヒューズの点検と交換

IMPORTANT: Avoid damage! 車両の電気回路が損傷しないように保護してください。ヒューズを交換する場合は、サイズが正しいか確認してください。

- 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)

適正燃料の使用

正しい燃料の使用（ディーゼル・エンジン）

正しいディーゼル燃料を使用することで、エンジン性能の低下ならびに排気ガス中の汚染物質の増加を防ぎます。以下にある燃料の要件に準拠していないと、エンジンの保証が無効になる場合があります。

機械をご使用の地域で入手可能なディーゼル燃料の特性に関しては、お近くのディーゼル燃料代理店にお問い合わせ下さい。

ディーゼル燃料は基本的に、販売される寒冷地の仕様に適合するよう混合比率が設定されています。

EN 590 もしくは ASTM D975 で定められたディーゼル燃料が推奨されます。

燃料特性の要件

燃料は常に次の要件を満たしている必要があります：

セタン価 45 以上特に気温が -20 清（-4 清）を下回る場合や標高が 1500 m（5000 ft）を超える場合は、セタン値 50 以上が適切です。

低温フィルタ目詰まり点（CFPP）は予想最低気温より少なくとも 5 清（9 濁）低くなければならず、また曇り点は最低大気温より低くなければなりません。

燃料の潤滑性は、0.45 mm の最大痕跡径（ASTM D6079 または ISO 12156-1 基準で測定）を少なくともクリアしている必要があります。

IMPORTANT: Avoid damage! 適切でない燃料添加剤を使用すると、ディーゼル・エンジンの燃料噴射装置に損傷を与える可能性があります。

使用燃料の潤滑性が低いかまたは不明の場合、John Deere PREMIUM DIESEL FUEL CONDITIONER（ジョンディア製プレミアム・ディーゼル燃料コンディショナ）を指定の濃度で加えることが推奨されます。

硫黄含有量

ディーゼル燃料の品質および燃料の硫黄含有量は、エンジン稼働地域のあらゆる現行排気ガス規制を満たしたものでなければなりません。

・最高 0.0015%（15mg/kg）の硫黄含有量を備えた超低硫黄ディーゼル（ULSD）燃料だけを使ってください。

重要：破損しないよう注意してください。ディーゼル・エンジン・オイルもしくはその他の潤滑油をディーゼル燃料と混ぜないで下さい。

バイオ・ディーゼル燃料の使用

バイオ・ディーゼル燃料は、バイオ・ディーゼル燃料の特性が最新版の ASTM D6751、EN14214、または同等の仕様に満たす場合のみ使用することができます。

現時点でのバイオ・ディーゼルの許容最大濃度は、石油系ディーゼル燃料への 5% 混合です（B5 と呼ばれます）。

ディーゼルエンジンでのバイオ・ディーゼルの利用に対する推奨に変更があるかどうかについては、最寄りのジョン・ディア取扱店にお問い合わせいただくか、または John Deere Commercial and Consumer Equipment ウェブサイトの「サービス&サポート」リンクをご覧ください。

ディーゼル燃料の取り扱いと保管



注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料は慎重に取り扱って下さい。エンジン稼働中は燃料タンクに燃料を補充しないで下さい。

燃料補充中もしくは燃料システム点検中は喫煙しないで下さい。

重要：破損しないよう注意してください。亜鉛メッキされた容器は使わないで下さい。ディーゼル燃料を亜鉛メッキ容器に保管すると、燃料が容器の亜鉛塗料に反応し、燃料中に亜鉛の薄片が生じます。また燃料に水が混入すると、亜鉛がゼリー状になります。ゼリー状および薄片状の亜鉛は短期間のうちに燃料フィルタに詰まり、燃料噴射装置および燃料ポンプを破損させます。

・気温が低い間は、結露や凍結を防ぐため、毎日の作業後に毎回燃料を補充して下さい。

重要：破損しないよう注意してください。燃料タンクには通気式キャップがついています。新品のキャップが必要な場合は、必ず純正の通気式キャップと交換して下さい。

・長期間保管された燃料を使用する場合や給油の頻度が低い場合には、燃料の品質の安定と結露防止のために燃料コンディショナを足して下さい。推奨品についてはご利用の燃料供給業者までお問い合わせ下さい。

正しい燃料の使用（ガソリン）

オクタン価 87 以上のレギュラー無鉛ガソリンを使用して下さい。エタノール 10% 以下、または MTBE 改質ガソリン 15% 以下を含む混合燃料は、使用可能です。メタノールを含む燃料や添加剤はエンジンを損傷させる場合があるため、使用しないで下さい。

新しいきれいな燃料を、約 30 日以内に使いきれの量だけ入れるか、あるいは燃料安定剤を添加して下さい。

燃料は、最高の性能を発揮できるよう、季節に応じてブレンドされています。エンジンがかかりにくい、ベーパーロックが起きるなどのエンジン性能に関する問題をなくすためにも、季節にあった燃料をお使い下さい。暖かい時期には暖かい時期に購入した燃料を、寒い時期には寒い時期に購入した燃料をご使用下さい。

シーズン中にたまにしかエンジンを始動しないと、燃料が

淀んでしまうことがあります。劣化した燃料によりキャブレターや燃料噴射装置の部品に樹脂状物質が生じて詰まりを起こし、エンジン性能が低下することがあります。

燃料容器の蓋は確実に閉め、直射日光の当たらない涼しい場所に保管して下さい。密閉されていなかったり日光や熱にさらされた場合、燃料は分解して劣化することがあります。

動作条件や環境によって燃料タンク内に結露が生じ、機械の動作が影響を受ける場合があります。毎回の作業終了後には給油を行い、燃料は結露防止のためプラスチック容器に入れて保管して下さい。

年間を通して性能を最適化し燃料の管理を容易にするため、燃料を購入したら直ちに安定剤を添加して下さい。こうすることで、エンジンの性能劣化を防ぎ、タンクから燃料を抜くことなしに一年中機械に燃料を入れておくことが可能になります。

燃料タンクの補充



注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料蒸気は爆発性で可燃性です。

- ・ 燃料タンクに燃料を補充する際はエンジンを停止して下さい。
- ・ 燃料取り扱い中の喫煙は厳禁です。
- ・ 燃料は火炎やスパークに近付けないで下さい。
- ・ 屋外またはよく換気された場所で給油して下さい。
- ・ 燃料をこぼした場合は直ちに拭き取って下さい。
- ・ 静電気の放電を防止するため、汚れのない認可済みの非金属製容器を使用して下さい。

重要：破損しないよう注意してください。燃料中のゴミや水分はエンジン損傷の原因となります：

- ・ 燃料タンクの開口部からゴミや異物をきれいに取除いてください。
- ・ 不純物のない、安定剤の添加された新しい燃料を使用して下さい。
- ・ 燃料は各作業後に毎回補充し、タンクの結露を防止します。
- ・ 燃料タンクや容器に燃料を充填する際は、プラスチック製メッシュ・ストレーナ付きの非金属製漏斗を使用して下さい。

気温が低い間は、凍結や結露を防ぐため、毎日の作業後に毎回燃料を補充して下さい。

1. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安

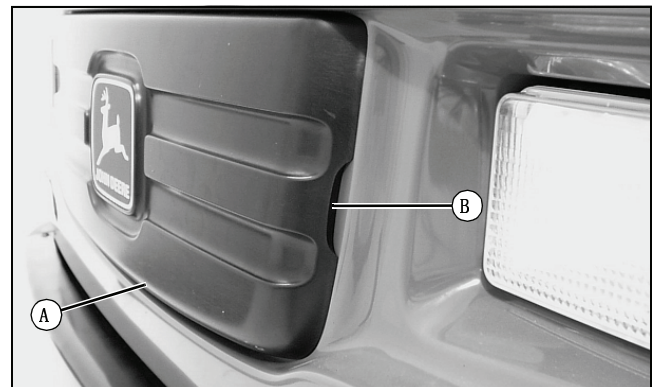
全な駐車」の項を参照して下さい。）

2. エンジンの温度が下がるまで待ちます。
3. 燃料タンク・キャップの周辺のゴミを取り除いて下さい。
4. 燃料タンク内に溜まった圧力を逃がすため、燃料タンク・キャップはゆっくり回して外して下さい。
5. 燃料の注入は、補給孔の下までにとどめて下さい。入れ過ぎないようにして下さい。
6. 燃料タンクのキャップを戻します。
 - ・ ガソリン・モデル：カチッとほまるまでキャップを回します。

フロント・グリルの取り外しと取り付け

グリルの取り外し

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）

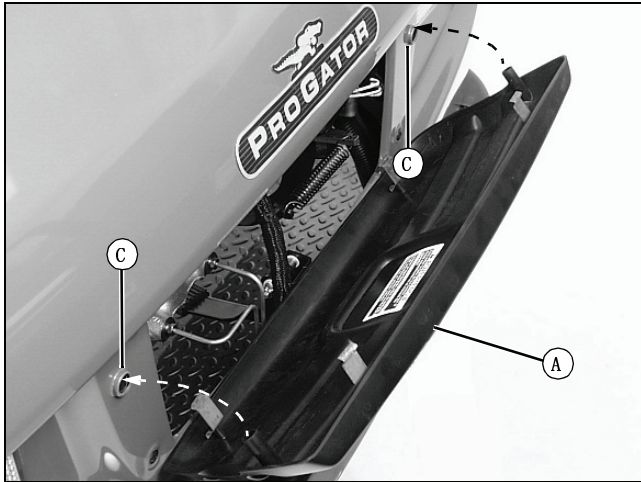


MX1719

2. グリル（A）の両端を位置（B）でつかみます。
3. グリルの両端を均等に外側に引きいて外します。

整備点検 — その他

グリルの取り付け



MX3006

1. グリル (A) とフロント・フードの穴 (C) に合わせます。
2. グリルを両端で前方に均等に押します。グリルが閉鎖位置にはめ込まれたことを確認します。

ホイールの取り付け／取り外し

取り外し

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)



注意：ケガの防止に留意して下さい。安全でない昇降装置や支持装置を使用していると、機械がそこから落下または滑動することがあります。

- ・吊り上げる負荷に合った定格の安全なリフト装置を使用します。
- ・機械をジャッキ・スタンドまたはその他の安定した支持装置に降ろし、整備点検を始める前に車輪をブロックで固定します。

重要：破損しないよう注意してください。マシンを上げたり、サポートする場合は、トランスミッションの下でなくフレームの下にジャッキ・スタンドを配置してください。

2. 取り外すホイールのラグ・ナットを緩めます。
3. 取り外すホイールが地面から浮くように、機械を上げて支えます。
4. ラグ・ナットを取り外します。
5. ホイールを取り外します。



注意：ケガの防止に留意して下さい。タイヤとリム・パーツが正しく点検整備されていないと、急に分離して重傷や死亡に至ることがあります：

- ・タイヤを取り付ける際は必ず適切な器具を整え、作業に熟知した人員に任せてください。

6. ホイール・アセンブリを公認サービス・ディーラに修理に出します。

取り付け

1. ホイール・アセンブリを取りつける前に、スピンドル・シャフトに汎用グリスを塗ります。
2. ホイール・アセンブリをバブル・ステムで外に取り付けます。
3. ホイール・ナットをぴったりと合うまで交互に均等に締めます。
4. マシンを地面まで降ろします。
5. ホイール・ナットを締めます。

ホイールおよびブレーキ・ドラム金具の締め付け

注記：初期稼働後 10 時間の段階で金具の締め付けトルク値を点検調整し、その後は稼働 100 時間ごとに締め付け調整を行います。



MX1710

- ・前輪と後輪のナット (A) を交互に 115 Nm (85 lb-ft.) まで締め付けます。
- ・ドラム・ボルト (B) を 102 Nm (75 lb-ft.) に締めめます。

プラスチック面の清掃と修理

認定代理店には、プラスチック面から表面の傷を適切に取

整備点検 — その他

り除くためのプロ向けの特別材料が揃っています。プラスチック部品についてマークや傷は、塗料で塗装しようとして下さい。

重要：破損しないよう注意してください。機械のプラスチック面の手入れが適切でないと、表面を損なう場合があります。

- ・ プラスチック表面は、乾燥した状態では拭かないで下さい。乾燥状態のまま拭くと、表面に小さな傷が生じます。
- ・ 軟らかく清潔な布片（バスタオル、おしめ、または自動車用ミット）を使用して下さい。
- ・ ポリッシング・コンパウンド（磨き粉）などの研磨剤をプラスチック表面に使用しないで下さい。
- ・ 防虫スプレーは機械周辺では使用しないで下さい。

1. フードと機械全体をきれいな水ですすぎ、表面に傷を残す可能性のあるゴミや汚れを取り除きます。
2. きれいな水と自動車専用の中性洗剤で表面を洗います。
3. 水滴による斑点が残らないよう十分乾燥します。
4. 自動車用の液体ワックスを使ってワックスをかけます。研磨剤を含有していないことが明記された製品を使って下さい。

重要：破損しないよう注意してください。ワックスの拭き取りに電動バフファを使わないで下さい。

5. 軟らかくきれいな布片を使用し、ワックスを手動で取り除きます。

金属表面の清掃と修理

掃除：

お使いの車両の塗装金属面の取り扱いについては、自動車の一般的な取り扱い方法に従って下さい。高品質の自動車用ワックスを定期的を使用することで、車両塗装面は外観を工場仕上がり状態に維持できます。

小さな傷（表面の引っかき傷）の修理：

1. 修理する部分を十分にきれいにします。

重要：破損しないよう注意してください。塗装面にはラビング・タイプのコンパウンドは使用しないで下さい。

2. 自動車専用のポリッシング・コンパウンドを使用して表面の傷を取り除きます。
3. 表面全体にワックスをかけます。

深い傷（金属地またはプライマが見える状態）の修理：

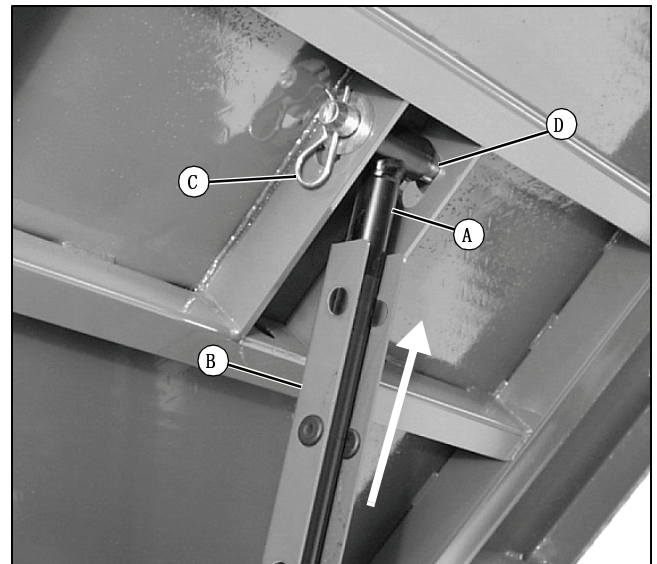
1. 消毒用アルコールまたはミネラル・スピリットを擦り

込んで修理する部分をきれいにします。

2. 工場調合のカラー（認定代理店にてご入手ください）と塗料スティックを併用し、傷を埋めます。塗料スティックの用法と乾燥方法については付属の説明書に従って下さい。
3. 自動車専用のポリッシング・コンパウンドを使用して表面を平らにします。動力式バフファは使用しないで下さい。
4. 表面にワックスを塗ります。

カーゴ・ボックスの取り外し

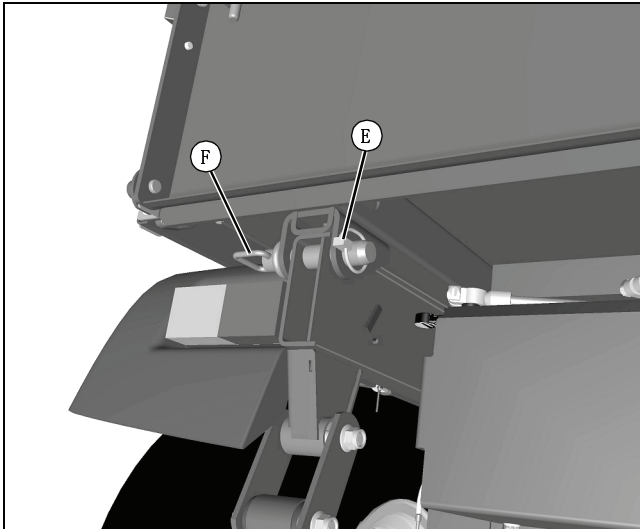
1. カーゴ・ボックスを空にします。
2. 地盤の固い水平な場所に駐車します。
3. パーキング・ブレーキをロックし、エンジンを始動させます。
4. カーゴ・ボックスを上げます。



MX14983

- ・ カーゴ・ボックスが完全に上がるまで、リフト・シリンダ (A) を伸ばします。
5. エンジンを止めます。
 6. リフト・シリンダ・安全支持体 (B) を取り付けます。
 7. 安全なリフト装置を使用してカーゴ・ボックスの前部を少し上げます。
 8. リフト・シリンダをカーゴ・ボックスから外します。
 - a. クイックロック・ピン (C)、シリンダ・ピン (D)、ワッシャを外します。
 - b. シリンダ・ピンとクイックロック・ピンを、保管のためにリフト・シリンダに取り付け直します。
 9. 安全支持体を保管位置に戻します。

10. エンジンを始動させます。
11. リフト・シリンダを縮めて、エンジンを停止させます。
12. 車両フレームの上にカーゴ・ボックスの前部をゆっくりと降ろします。

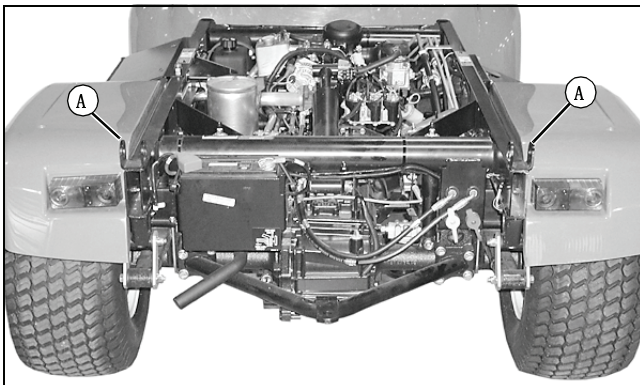


MX44261

13. カーゴ・ボックスの後部をフレームに固定しているクイックロック・ピン (E) と穴付きピン (F) を取り外します。
14. カーゴ・ボックスを車両から注意して外します。
15. 穴付きピンとクイックロック・ピンを、保管するために車両のブラケットに取り付け直します。

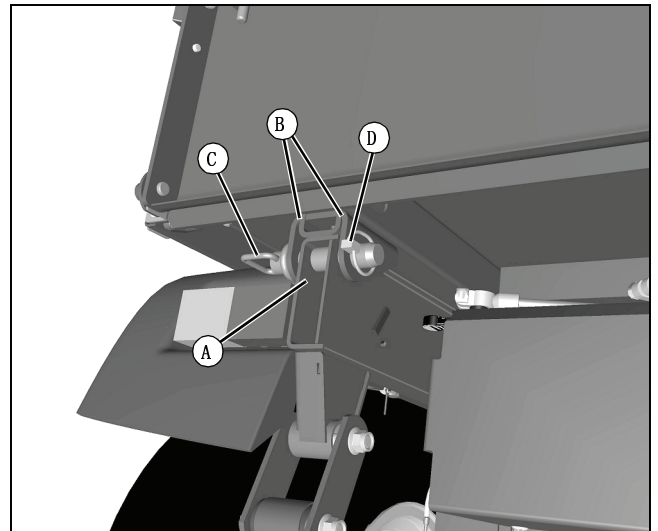
カーゴ・ボックスの取り付け

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。)



MX24130

2. 車両の後部のブラケット (A) にあるクイックロック・ピンと穴付きピンを外します。
3. 安全なリフト装置を使用して、車両のフレームの上にカーゴ・ボックスを置きます。



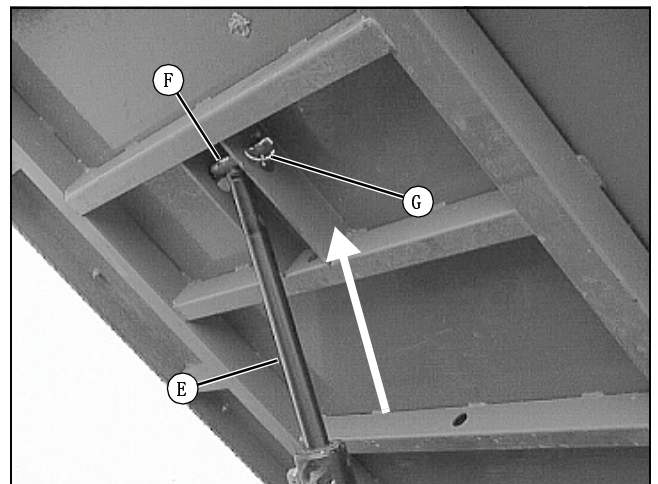
MX44261

- ・ 車両の後部でカーゴ・ボックス・タブ (B) とブラケット (A) を合わせます。
4. カーゴ・ボックスの後部を、穴付きピン (C) とクイックロック・ピン (D) を使用してフレームに固定します。



注意：ケガの防止に留意して下さい。リフト・シリンダをカーゴ・ボックスの下に接続する前に、カーゴ・ボックスが上げられた位置に安全にサポートされているか確認します。

5. 安全なリフト装置を使用してカーゴ・ボックスの前部を上げます。
6. リフト・シリンダのクイックロック・ピン、シリンダ・ピン、ワッシャーを外します。
7. エンジンを始動させます。



MX7257

8. カーゴ・ボックス・フレームの底の穴と、リフト・シリンダの上部が合うまで、リフト・シリンダ (E) を伸ばします。

整備点検 — その他

注記：ワッシャーは、クイックロック・ピンと同じ側のシリンダ・ピンの上に取り付けてください。

9. シリンダ・ピン (F)、クイックロック・ピン (G)、ワッシャーを使用して、リフト・シリンダとカーゴ・ボックスに取り付けます。

10. リフト装置を外します。

11. カーゴ・ボックスを降ろします。

12. エンジンを止めます。

故障診断

トラブルシューティング・チャートの使い方

この表に記載されていない問題が発生した場合は、お近くの認定代理店までご連絡下さい。

考えられる原因として本表に挙げられている事項をすべて点検した後も同じ問題が続く場合は、お近くの認定代理店までご連絡下さい。

エンジン

問題または症状	点検事項
エンジンがクランクまたはスタートしない。	燃料が古い、種類が不適切、または燃料レベルが低い。 燃料が汚れている ・ 燃料フィルタを交換し、燃料タンクを空にして清掃してから、きれいな新しい燃料を入れます。 ディーゼル・モデル：燃料シャットオフ・バルブを開けます。 PTO インジケータ・ライトが点灯する ・ 油圧 PTO レバーを解除します。 ヒューズに欠陥がある。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントが詰まっている。 ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグ・ワイヤが緩んでいる、または外れている。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグのギャップを点検します。 低バッテリー残量 ・ バッテリーを充電します。 バッテリー・ケーブルが緩んでいるか腐食している - バッテリー・ケーブルをきれいにし、締めます。
負荷状態で、エンジンが不発火。	ガソリン・モデル：スパーク・プラグのギャップが適切でない。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグの欠陥 - スパーク・プラグを交換します。 燃料が古い、または汚れている。 燃料フィルタが詰まっている ・ 燃料フィルタを交換します。 電気系統の接続部分を点検する。
エンジンがスタートしにくい	ガソリン・モデル：キャブレターをきれいにします。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） 燃料が古い、または汚れている。 ガソリン・モデル：欠陥のあるスパーク・プラグを点検 / 交換します。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグのギャップを点検します。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントが詰まっている。 電気接続部分を点検してきれいにします。

故障診断

問題または症状	点検事項
エンジンがオーバーヒートしている。	エア・クリーナ・エレメントが詰まっている ・ フィルタ・エレメントを交換します。 ラジエータ吸気口スクリーン、ファン・カバー、冷却フィンをきれいにします。 オイル冷却器コイル（オプション）をきれいにします。 エンジン・オイルのレベルを調べて、オイルを追加します。 冷却液レベルが低い。 冷却システムのフラッシュが必要。 ラジエータ・キャップに欠陥がある。 ファン・スイッチに欠陥がある。 サーモスタットに欠陥がある。 オルタネータ・ベルトに緩みまたは欠陥がある。 運転で条件に対して対地速度が速すぎる。
エンジンが低速アイドリングにならない	ガソリン・モデル：キャブレターを清掃 / 調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） ガソリン・モデル：スパーク・プラグのギャップが適切でない。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグの欠陥 - スパーク・プラグを交換します。 アイドル速度の調整不良。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） 燃料が古い、または汚れている。 燃料フィルタが詰まっている ・ 燃料フィルタをきれいにします。 バルブの位置が正しくない。 - バルブを調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
エンジンがバックファイヤーを起こす。	ガソリン・モデル：スパーク・プラグの欠陥 - スパーク・プラグを交換します。 吸気バルブが固い ・ バルブを調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
エンジンがベーパー・ロックする。	燃料フィルタを交換します。
エンジンの回転にムラがある。	燃料インジェクタが汚れているか、不良。 燃料チューブが詰まっている ・ 燃料チューブをきれいにします。 ディーゼル・モデル：燃料シャットオフ・バルブが部分的に塞がっている。 燃料が古い、または汚れている。 燃料フィルタを交換します。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントが詰まっている。 電気接続部分を点検してきれいにします。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグの欠陥 - スパーク・プラグを交換します。 ガソリン・モデル：キャブレターを清掃 / 調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） シートスイッチに欠陥がある。

故障診断

問題または症状	点検事項
エンジンの失速	燃料が不適切。 エンジン・オイルが多すぎる - 適量になるまでオイルを抜きます。 エア・クリーナ・フィルタ・エレメントが詰まっている。 エンジンへの過負荷 - 負荷を減らします。 エンジンがオーバーヒートしている ・ ラジエータ・スクリーン、ファン・カバー、冷却フィン、オイル冷却器コイル（オプション）をきれいにします。 ガソリン・モデル：スパーク・プラグの欠陥 - スパーク・プラグを交換します。 燃料フィルタを交換します。 エンジンがオーバーヒートしている。運転で条件に対して対地速度が速すぎる。 冷却液の温度が低い。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） バルブ・クリアランスが不適切。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） ディーゼル・モデル：燃料インジェクタが汚れているか、不良。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） ディーゼル・モデル：インジェクション・ポンプのタイミングがずれる。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
エンジンがノッキングする。	エンジン・オイルの量が少ない。 エンジンへの過負荷 - 負荷を減らします。 冷却液の温度が低い。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） ガソリン・モデル：燃料が古い、またはオクタン等級が低い。 ディーゼル・モデル：インジェクション・ポンプのタイミングがずれる。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）
オイル圧が低い	エンジン・オイルの量が少ない。 ベアリングまたはオイル・ポンプ・ウェアが過剰になっている。 オイル・フィルタが詰まっている。 オイルのタイプが不適切です。 オイル漏れ。
エンジン・オイルの消費量が多すぎる。	燃料タイプが不適切です。 リングまたはシリンダ・ウェアが過剰です。 エンジン温度が低い。 サーモスタットに欠陥がある。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） エンジンのタイミングがずれる。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）

故障診断

問題または症状	点検事項
エンジンから黒または灰色のガスが排気される。	燃料タイプが不適切です。 吸気系統が詰まっている。 運転で条件に対して対地速度が速すぎる。 燃料インジェクタが汚れているか、不良。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）

ステアリング

問題または症状	点検事項
ハンドルが正常に作動しない	タイヤの空気圧を点検します。 トランスミッションのオイル・レベルが低い ・ オイル・レベルを点検します。 4WD モデル：フロント・アックスのオイル・レベルが低い ・ オイル・レベルを点検します。 トーイン調整を点検して調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）

ブレーキ

問題または症状	点検事項
ブレーキが正しく動作していません	ブレーキ液が十分ではありません ・ 量を確認してください。 ブレーキを調整します。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） 摩耗したブレーキ・シューを交換してください。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。） ブレーキ・リンケージが摩耗または破損しています、修理または交換してください。（テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。）

故障診断

電気系統

問題または症状	点検事項
スタータが働かない、またはエンジンをスタートできない。	すべての電気接続部分をきれいにして締めます。 ギアシフト・レバーを「ニュートラル」の位置にします。 ヒューズに欠陥がある。 バッテリーの低出力 - 電解液レベルを点検します。 バッテリーを充電 / 交換します。 バッテリー・ケーブルが緩んでいるか腐食している - バッテリー・ケーブルをきれいにして締めます。 キー・スイッチ、始動モーター・スイッチ、安全インターロック・スイッチが機能しない。(テクニカル・マニュアルを参照するか、John Deere の販売代理店にお問い合わせください。)
エンジンがかかりにくい	バッテリーの低出力 - 電解液レベルを点検します。 低バッテリー残量 ・ バッテリーを充電します。 エンジン・オイルの粘度が高過ぎる。 バッテリー・ケーブルが緩んでいるか腐食している - バッテリー・ケーブルをきれいにして締めます。
エンジンの作動中にバッテリーの低電圧インジケータが点灯し続ける。	エンジン速度が遅い。 バッテリーの欠陥。 オルタネータに欠陥がある。接続の緩みまたはコネクタの腐食。 オルタネータ・ベルトの緩みまたは欠陥。
バッテリーが充電されない。	バッテリー・ケーブル / 接続部の緩みまたは腐食 ・ バッテリー・ケーブルとオルタネータ接続部をきれいにして締めます。 バッテリーの欠陥 ・ 電解液レベルを点検します。 バッテリー・セルが放電状態。 オルタネータ・ベルトの緩みまたは欠陥。 オルタネータに欠陥がある。
ライトが作動しない	ヒューズに欠陥がある。 バルブに緩みまたは欠陥がある。 スイッチ接続部に緩みがある。

保管

安全な保管



注意：ケガの防止に留意して下さい。燃料の蒸発ガスは爆発性で可燃性です。エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており、重病や死亡の原因になることがあります。

- ・ 機械を収納場所から出し入れする際は、エンジンの稼動を必要最小限に抑えて下さい。
- ・ 機械を冷却しないで収納した場合、エンジンやマフラーの周りから堆積物を除去しない場合、燃えやすいものの側に収納した場合などに、機会や骨組みから出火する可能性があります。
- ・ 気化したガソリンに引火する恐れのある火気、スパークが発生し得る屋内に、燃料が入った状態の機械を保管してはいけません。
- ・ 屋内に機械を保管する前にはエンジンを冷まして下さい。

機械を保管するための準備

1. 摩耗または破損しているパーツを修理します。必要に応じて新しいパーツに交換します。緩みのある金具は適切に締めます。
2. 塗装面に傷やペンキの欠けがある場合、さびを防ぐために補修します。
3. 機械に付着した芝やゴミを取り除きます。
4. 機械を洗浄して、金属とプラスチックの表面にワックスを塗ります。
5. 機械を 5 分間作動させてベルトやプーリーを乾かします。
6. さびを防ぐため、ピボットおよび磨耗個所にエンジン・オイルを薄く塗ります。
7. シートの下にある上部の油圧 PTO 制御バルブをきれいにします。バルブ・ブロックが入る両方のスプールに油圧オイルを塗ります。
8. グリース用のポイントを潤滑化して、タイヤ圧を調べます。

燃料とエンジンの保管準備

燃料：

安定剤添加燃料を使用していた場合は、満タンになるまで安定剤添加燃料をタンクに補充します。

注記：燃料タンクを充填すると、燃料タンク内の空気量を減らすことができ、燃料の劣化を抑えるのに役立ちます。

安定剤添加燃料を使用していない場合：

1. 換気の良い場所に安全に機械を駐車して下さい。（「安全」セクションの「安全な駐車」の項を参照して下さい。）

注記：燃料補給の際は、そのシーズンで最後に稼動させるのがいつになるかを考慮し、タンクになるべく燃料が残らないよう、必要量のみ充填するようにします。

2. エンジンのスイッチを入れ、燃料が切れるまで作動させます。
3. キー・スイッチ付きの機種では、スイッチを「オフ」の位置にします。

重要：破損しないよう注意してください。燃料が劣化すると、キャブレターや燃料噴射装置の部品に樹脂状物質が生じて詰まりを起こし、エンジン性能が低下することがあります。

- ・ 給油の前に、新しい燃料に燃料コンディショナまたは安定剤を加えて下さい。

4. 新しい燃料と安定剤は別の容器で混ぜます。安定剤の取扱説明書の混合手順に従って下さい。
5. 安定剤を添加した燃料を燃料タンクに満たします。
6. エンジンを数分作動させ、混合燃料がガソリン・エンジンのキャブレターあるいはディーゼル・エンジンの燃料噴射装置全体に行き渡るようにします。

エンジン：

エンジンの保管手順は、車両を使用しない期間が 60 日を超える場合に実行します。

1. エンジン・オイルとフィルタはエンジンが温まっているときに交換して下さい。
2. 必要に応じてエア・フィルタを整備します。
3. エンジンの吸気スクリーンのゴミを取ってきれいにします。
4. ガソリン・エンジンでは：
 - ・ スパーク・プラグを取り外します。汚れのないエンジン・オイル 30 mL (1 oz) をシリンダに入れます。
 - ・ スパーク・プラグを取り付けますが、この際スパーク・プラグのワイヤは接続しないで下さい。
 - ・ オイルを循環させるため、エンジンを 5 ～ 6 回クランクします。
5. エンジンとエンジン・コンパートメントをきれいにします。
6. バッテリーを取り外します。
7. バッテリーとバッテリー・ポストをきれいにします。バッテリーがメンテナンス・フリーのタイプではない場合、電解液の量を点検します。
8. 燃料シャットオフ・バルブ（装着されている場合）を閉じます。
9. バッテリーは、凍結を起こさない乾燥した涼しい場所に

保管

保管して下さい。

注記：保管したバッテリーは 90 日ごとに充電する必要があります。

10. バッテリーを充電します。

重要：破損しないよう注意してください。日光に長時間あたるとフードの表面が損傷する場合があります。機械は屋内に格納するか、屋外に保管する場合はカバーをご使用下さい。

11. 車両の保管には、車両を適切に保護できる乾燥した場所を選んで下さい。車両を屋外で保管する場合、防水カバーで覆って下さい。

機械を保管場所から出す

1. タイヤの空気圧を点検します。
2. エンジン・オイル・レベルを点検します。
3. バッテリーがメンテナンス・フリーのタイプではない場合、バッテリーの電解液レベルを点検します。必要であればバッテリーを充電します。
4. バッテリーを取り付けます。
5. ガソリン・エンジンでは：スパーク・プラグのギャップを点検します。プラグを取り付け、指定のトルクまで締めます。
6. グリースを必要な個所すべてに塗ります。
7. 燃料シャットオフ・バルブが機械に装備されている場合、このバルブを開きます。
8. モアや付属物を作動させないでエンジンを 5 分間運転し、オイルがエンジン全体に行き渡るようにします。
9. シールドとガードまたはデフレクタがみな正しい位置にあることを確認します。
10. シートの下にある上部の油圧 PTO 制御バルブをきれいにします。バルブ・ブロックが入る両方のスプールに油圧オイルを塗ります。

仕様

エンジン（モデル 2020A-Gas）

メーカー	ヤンマー
モデル番号	3TG72
排気容量	879 cm ³ (53.6 立法インチ)
シリンダ本数	3
サイクル	4
低アイドル回転数 / 分 RPM (ア 50)	1250 rpm
高アイドル回転数 / 分 RPM (ア 50)	3530 rpm
オイル・フィルタ	交換可能フル・フロー
潤滑方式	全圧式
冷却方式	液冷
エア・クリーナ	キャニスタ・タイプ、2 次エレメントあり

エンジン（モデル 2030A-Diesel）

メーカー	ヤンマー
モデル番号	3TNV70
排気容量	1115 cm ³ (68 立法インチ)
シリンダ本数	3
サイクル	4
低アイドル回転数 / 分 RPM (ア 50)	1250 rpm
高アイドル回転数 / 分 RPM (ア 50)	3450 rpm
オイル・フィルタ	交換可能フル・フロー
潤滑方式	全圧式
冷却方式	液冷
エア・クリーナ	キャニスタ・タイプ、2 次エレメントあり

燃料系統（ガソリン・モデル）

燃料の種類（推奨）:

.....	オクタン価 87 のレギュラー無鉛ガソリン
.....	エタノール混合ガソリン (10% 混合まで)
.....	MTBE 改質ガソリン (15% 混合まで)

燃料フィルタ	交換可能エレメント
燃料ポンプ	電気式

燃料系統（ディーゼル・モデル）

燃料の種類（推奨）:

.....	ディーゼル No. 1 または No. 2
-------	-----------------------

仕様

(B5 バイオ・ディーゼル (5% 混合))

燃料フィルタ	交換可能エレメント
燃料ポンプ	機械式

電気系統

タイプ	フライホイール、オルタネータ
オルタネータ容量	55 amp
バッテリー電圧	12 ボルト DC
寒冷クランク・アンペア @ 0° F	500)
イグニッション	CDI

ステアリングおよびブレーキ

サービス・ブレーキ・タイプ	4 輪油圧ドラム
パーキング・ブレーキ・タイプ	機械式ドラム
パーキング・ブレーキ・アクチュエーション	ハンド・レベル
ステアリング	油圧駆動

タイヤ

フロント (標準)

サイズ	23x10.50-12
プライ・レーティング	4
圧力	82 kPa (12 psi) 最低

リア (標準)

サイズ	26x12.00-12
プライ・レーティング	4
圧力	82 kPa (12 psi) 最低

リア (オプション)

サイズ	26x14.00-12
プライ・レーティング	4
圧力	82 kPa (12 psi) 最低
HD300 Sprayer 取り付け時の圧力	110 kPa (16 psi) 最低

トランスアクスル

メーカー	Kanzaki
タイプ	5 速、同期メッシュ
4WD オプション	マニュアル・シフト

仕様

対地速度（標準リア・タイヤを搭載したすべてのモデル）

ギア 1	4.5 km/h (2.8 mph)
ギア 2	7.4 km/h (4.6 mph)
ギア 3	12.7 km/h (7.9 mph)
ギア 4	24.1 km/h (15 mph)
ギア 5	30.7 km/h (19.1 mph)
後進	5.8 km/h (3.6 mph)

寸法

高さ	16.8 cm (6.6 in.)
ホイールベース（前車軸から後ろ車軸まで）	167.6 cm (66 in.)
踏面、前	123.2 cm (48.5 in.)
踏面、後ろ	129 cm (50.8 in.)
全体の長さ、オプションのカーゴボックスあり	328.4 cm (129.3 in.)
全体の長さ、オプションのカーゴボックスなし	319.3 cm (125.7 in.)
全体の幅	158.5 cm (62.4 in.)
全体の高さ	193.7 cm (193.80 cm.)

チューニング・サイクル・クリアランス

内部クリアランス・サイクル - 2WD	43 cm (17 in.)
内部クリアランス・サイクル - 4WD	175 cm (69 in.)
外部クリアランス・サイクル - 2WD	498 cm (196 in.)
外部クリアランス・サイクル - 4WD	630 cm 248 in.)

重量（付属装置なし、燃料満タン時）

モデル 2,020A 2WD	834 kg (834.16 kg)
モデル 2,020A 4WD	888 kg (888.13 kg)
モデル 2030A 2WD	852 kg (1879 lb)
モデル 2030A 4WD	906 kg (1998 lb)

液体類の容量

燃料タンク	30.3 L (8 gal)
冷却系統（全体）	3.8 L (4.1 qt)
オイル・フィルタ付きクランクケース（ガソリン・モデル）	2.1 L (2.2 qt)
オイル・フィルタ付きクランクケース（ディーゼル・モデル）	2.1 L (2.2 qt)
トランスミッション・オイル系統（全体）	10.6 L (2.8 gal)
フロント・アスクルのオイル（4WD モデル）	3.3 L (3.5 qt)

仕様

牽引

最大牽引能力（リア・ヒッチ）	680.4 kg (1500 lb)
最大牽引重量（リア・ヒッチ）	90.7 kg (200 lb)

カーゴボックス

全体の長さ、内部	165 cm (65 in.)
全体の幅、内部	128.4 cm (50.5 in.)
全体の奥行き、内部	26.8 cm 10.5 in.)
重量	144.2 kg (318 lb)
最大積載量	907 kg (2000 lb)
最大揚力 油圧パワーリフト付き	907 kg (2000 lb)
ベッドライナー	オプション
自動テールゲートリリース	オプション

推奨潤滑油

エンジン・オイル ・ ガソリン・モデル	John Deere TURF-GARD ㊦ SAE 10W-30
エンジン・オイル ・ ディーゼル・モデル	John Deere PLUS 50 ㊦ SAE 15W-40
	John Deere TORQ-GARD SUPREME ㊦ SAE 5W-30
エンジン冷却液	COOL-GARD ㊦ PRE-DILUTED SUMMER COOLANT
	COOL-GARD ㊦ CONCENTRATED SUMMER COOLANT
トランスアスクル / 油圧オイル	John Deere J20C HY-GARD ㊦
グリース	John Deere 汎用 HD リチウム錯体グリース
	John Deere 汎用 SD ポリ尿素グリース
4WD フロント・アスクル・オイル	John Deere HY-GARD ㊦ (JDM J20C)

索引

ギアシフト・レバ	22	操作点検リスト、毎日	14
レバ	17	燃料フィルタ（ガヤ渦刀Eモデル）、交換	40
ディファレンシャル・ロック・レバ	17	保管、機械を保管場所から出す	70
リフト・シリンダ	18	保管、保管のための準備	69
安全、操作	5	濫 簀ヲシステム・スイッチのテスト	16
安全な駐車	6	濫 簀ヲ装置、整備点検	48
運搬、ミニバン	25	ライト・スイッチ、操作方法	16
運転席、調整	14	リフト・シリンダ安全支持体	11
エンジン、始動	22	冷却系統、整備点検	38
エンジン、停止	23	燃料フィルタのセディメント容器（ディ	40
エンジン・オイル	31	燃料シャットオフ・バルブ（ディ	16
オイル（4WD モデル）、フロント・アスルの交換	52	バイオ・ディ	58
オイル、エンジン・オイルの交換	32	キャブレ	31
オイル、エンジン・オイルの点検	32	空気制限インジケ	36
オイル、トラ ンスミッション	44	ラジエ	34
オイル、フロント・アスル	51	オルタネ	42, 41
オイル、油圧	48	ベルト、オルタネ	42
オイル、エンジン	31	ラジエ	37
オイルとフィルタ、トランスミッションの交換	44	オペレ	23
オイル・レベル（4WD モデル）、フロント・アスルの確 認	51	ベルト、オルタネ	41
オイル・レベル、作動油オイル・レベルの点検	48	エンジン・オイル -	31
オイル・レベル、トランスミッションの点検	44	エンジンと燃料の保管、準備	69
席にいない状態でのエンジン、車両の操作	23	エンジンの保証およびメンテナンスに関する楓セ	31
ギア・ロックアウト、操作方法	18	オイル -	31
クラッチ・ペダル、使用	21	液、ブレ	52
作動油	48	ブレ	16
作動油レベル、点検	48	バ	16, 15
仕様	71	ブレ	52
スイッチ、濫 簀ヲシステム・スイッチ	16	液、ブレ	52
整備点検での安全事項	9	スパ	6
積載物の牽引	24	カ	61, 62, 25, 26
トランスミッション、操作	21	グリ	46
トランスミッション・オイルとフィルタ、交換	44	油圧ホ	37
トランスミッション・オイルとフィルタの交換	44	吸気ホ	37
トランスミッション・オイル・レベル、点検	44	バッテリー、ブ	55
ドライブ・シャフト（4WD モデル）、潤滑化	47	ヒュ	57
フィルタ、エンジン・オイルの交換	32	バ	28
フィルタ（ガヤ渦刀Eモデル）、燃料交換	40	トラブルシュ	64
フロント・アスルのオイル	51	シ	14, 15
フロント・アスルのオイル・レベル（4WD モデル）、確 認	51	テ	26
フロント・アスル・オイル（4WD モデル）、交換	52	ニュ	15
毎日の操作点検リスト	14	スイッチ、ニュ	15
グリル、フロント・グリルの取り外しと取り付け	59	ニュ	15
バッテリー、交換	55	ストレ	46
バルブ、ヘッドライトの交換	56	オイル・ストレ	46
バルブ、侮ヲライトの交換	56	トランスミッション・オイル・ストレ	46
パネル、計器	20	エア・クリ	36
計器パネル	20	エレメント、エア・クリ	36
牽引、ミニバン	24	オイル冷却器コイル、クリ	50
		コイル、オイル冷却器のクリ	50
		バルブ、ゴム製防塵バルブの清掃	35
		プラスチック面、清掃と修理	60
		プラスチック面および塗装面、損傷防止	14
		ホイ	60
		PTO コントロ	17
		ホイ	60

索引

バルブ、ストップライトの交換、テ	55
安全な保管	69
安全システム，テスト	15
安全システムのテスト	15
安全性、タイヤ	10
金属楓ハ，清掃と修理	61
バ	28
バッテリーとバッテリー	54
整備点検用文献	28
電解液レベル、バッテリー、点検	54
燃料、適正燃料の使用	58
燃料の安全な取り扱い	11
燃料の保管	69
文献、整備点検用	28
保管、燃料とエンジンの保管準備	69
保証およびメンテナンスに関する楓セ，	31
防塵バルブ、清掃	35
冷却液，エンジン冷却液	38

注：

注：

注：

注：

ジョン・ディアの品質



ジョン・ディア社製品の購入は、単なる購買を超えた、品質への投資を意味します。この品質は弊社の機器に始まり、ジョン・ディアの代理店が扱うパーツと整備点検サポートにも及んでいます。このサポートは、製品をお買い上げいただいた皆様の満足度を保証する上での要件となるものです。

疑問点がある場合、また万一問題が生じた場合の弊社の対応プロセスが本項に率優先的に導入されているのは、まさにこのサポートの一環です。プロセスには次の3つのステップがあります。

ステップ1

オペレーターズ・マニュアルを参照する

- | | |
|--|--|
| A. オペレーターズ・マニュアルには機器の安全で正しい操作についての多くの図と詳細情報が含まれています。 | C. パーツ・カタログ、整備点検、技術マニュアルに関する注文情報をご参照いただけます。 |
| B. トラブルシューティング手順、仕様情報が記載されています。 | D. 疑問点がオペレーターズ・マニュアルで解消されなかった場合は、ステップ2に進んで下さい。 |

ステップ2

最寄の代理店に問い合わせる

- | | |
|---|--|
| A. 最寄りのジョン・ディア代理店は、ご質問への対応と解決、およびパーツや整備点検のご要請に関する責任、権限、能力があります。 | C. パーツや整備点検の担当要員がお客様の問題を解決できなかった場合は、代理店のマネージャーまたはオーナーにお問い合わせ下さい。 |
| B. まず最初に、パーツおよび整備点検に関する訓練を受けた代理店担当者に、ご質問あるいは問題をお話してください。 | D. お客様の質問または問題が代理店で解決できなかった場合は、ステップ3に進んで下さい。 |

ステップ3

ジョン・ディア顧客コミュニケーション・センターに連絡する

- A. 懸案事項を取り扱う上では最寄のジョン・ディア代理店が最も効率の高い情報源ですが、オペレーターズ・マニュアルを点検しても最寄の代理店に問い合わせても問題を解決できない場合には、お客様連絡センターにご連絡ください。

- B. 迅速で効果的なサービスをご提供できますよう、以下をご確認の上でお問い合わせ下さい。

先にご連絡された代理店名。

本マニュアルの表紙に続くページでご記入いただいた、機器のシリアル・ナンバー。

お客様の機器のモデル番号。

問題が付属装置に関しての場合、ご使用の付属装置の識別(ID) 番号。

機器の稼動時間数 (該当する場合)。

- C. 上記をご確認の上、1-800-537-8233 までご連絡ください。当部門の顧問が、先にお問い合わせいただいた代理店の担当者と共に懸案事項の調査に当たります。
